

本艦隊カ浦鹽方面ノ敵ニ對シ戰捷ヲ得タルハ一ニ 大元帥陛下ノ御稜威ニ依ル然ルニ特ニ
優渥ナル 勅語ヲ賜ハリ恐懼ニ堪ヘス 臣等益々奮勵以テ聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス臣等之
丞誠惶謹テ奏ス

又十六日皇后陛下ノ令旨ニ對シ、左ノ奉答文ヲ捧ク、

大元帥陛下ノ御稜威ニ依リ對馬北方ニ於テ得タル戰捷ニ對シ優渥ナル 令旨ヲ賜ハリ感激
ニ堪ヘス今後更ニ奮勵以テ 令旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス謹テ奉答ス

又同日皇太子殿下ノ令旨ニ對シ、左ノ奉答文ヲ捧ク、

大元帥陛下ノ御稜威ニ依リ浦鹽艦隊ヲ擊破シタル戰捷ニ對シ特ニ優渥ナル 令旨ヲ賜ハリ
感激ニ堪ヘス今後更ニ奮勵以テ 令旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス謹テ奉答ス

第十章 蔚山沖海戰後ニ於ル第二艦隊ノ行動

第一節 艦隊ノ行動概要

上村第二艦隊司令長官ハ、八月十四日浦鹽斯德艦隊ヲ蔚山沖ニ破リ、第二戰隊及ヒ第四戰隊ノ浪
速、高千穂ヲ率非、(對馬新高第十五戰隊ハ尾崎ニテ炭水ヲ充實シタル後チ佐世保ニ到)尾崎灣ヲ經
テ十五日佐世保軍港ニ入り、彈藥炭水ノ補充及ヒ應急修理ニ從事セリ、而テ東郷聯合艦隊司令
長官ノ命ニヨリ、瓜生第二艦隊司令官ヲシテ、第四戰隊常磐及ヒ一個艇隊ヲ率非テ、八月十日
ノ海戰ニ傷ツキ上海ニ遁竄セル巡洋艦「アスコロド」ヲ處分、及ヒ馬鞍島ニ在ル敵艦擊破ノ爲メ、
(後チ幾モナクシテ馬鞍島ニ敵艦アルコトハ事實無根タル旨ノ情報アリタリ)同方面ニ向ハシメントセシカ、十六日早朝ヨリ旅順ノ敵

艦隊漸次港外ニ出ツ、トノ情報アリタル結果、伊東海軍軍令部長ヨリ、一時第四戰隊ノ上海派遣ヲ中
止スヘキ電命ヲ受ケシヲ以テ、乃チ前命令ヲ取消シ更ニ瓜生司令官ニ向ヒ、急速麾下艦艇(常磐ヲ)
ヲ率非テ對州方面ニ至リ、監視任務ニ服スヘキコトヲ命シ、別ニ聯合艦隊司令長官ノ命ニヨリ、千歲
(千歲ハ第三戰隊ニ屬シ膠州灣ニ遁竄セル敵ニ對シ同戰隊ト共ニ出動)對馬ヲ津輕海峽方面ニ急
(中八月十四日第二戰隊ノ所屬トナリ十五日夕刻尾崎ニ入りタルナリ)派セリ、(對馬ハ佐世保ニ向フノ途中十五日午後神崎沖ヨリ千歲ハ八月十日黃
灣ニ遁竄セルモ二十日未明ヨリ)ト思ハル、モノ、十三日午前十時濟州島、バルロー島ノ南南西約八
海里ニ於テ、南東微南ニ向ヒ航スルヲ見タリ、トノ英船「ゲーリック」號船長ノ報告、及ヒ十四日
午前五時三十分同艦ノ屋久島燈臺ノ南方沖合ヲ東航スルヲ見タリ、トノ沖繩丸船長ノ報告等
ニ基キ、同艦ノ太平洋ヲ航シ津輕若クハ宗谷海峽ヲ經テ、浦鹽斯德ニ航セントスルモノナルヘ
キヲ思ヒ、之ヲ北海方面ニ邀撃セシメント欲シタルヲ以テナリ、(兩艦ハ二十日樺太島コルサコフ
共ノ顛末ハ第一部第二篇)是ヨリ先キ十四日第三艦隊ニ屬シテ、旅順方面ニ在リタル日本丸、香港
第十四章第三節ニ詳ナリ)丸ハ、第二艦隊所屬トナレリ、(日本丸ハ十五日竹敷ニ入り、香
港丸ハ二十日尾崎ニ入レリ)十五日、上村司令長官ハ伊東海軍軍
令部長ヨリ、此ノ際第二戰隊ハ一艦ツ、入渠セシメ差支ナシ、トノ電訓ヲ受ケシカ、翌十六日ニ至リ
旅順港ノ敵艦隊脱出セリ、トノ報アリタルノミナラス、(此ノ報ハ幾モナク無根)更ニ同部長ヨリ
右入渠ノ件ヲ取消シ、各艦ノ修理ハ此ノ際保安上必要ナル程度ニ留メ、努メテ速ニ炭水彈藥ヲ
補充シテ、佐世保ヲ出テ警戒任務ニ就クヘシ、トノ命アリシヲ以テ、(是聯合艦隊司令長官ヨリ旅
順艦隊ノ片附ク迄對馬海峽ノ警戒ハ緊要ナルヲ以テ第二戰隊ノ入渠ハ夫迄待
タレタシトノ意見具中アリタルニ基ケルモノナリ)新高ヲ即日竹敷ニ歸港セシメ、(十七日尾崎
ニ移レリ)

第十章 第一節 艦隊ノ行動概要

出雲(上村司令) 吾妻常磐(磐手ハ海戦ニ大傷ヲ受ケシヲ以テ修) 浪速、高千穂ヲ十七日尾崎ニ歸
港セシメタリ、而テ此ノ日對馬海峽ノ警戒ニ關シ左ノ命令ヲ發シタリ、

一、旅順方面ノ敵艦隊ハ依然港内ニ在リ同艦隊ノ脱出ニ關スル八月十六日ノ情報ハ其ノ後
細谷第三艦隊司令官ノ報告ニ據リ事實無根ナルコト明白トナレリ

膠州灣及ヒ上海ニ遁避シタル敵艦隊ハ武装ヲ解クモノ、如ク「ノーウヰク」ハ屋久島ノ南
方ヲ通過シ迂路ヲ取り浦鹽港ニ赴カントスルカ如シ而テ千歳及ヒ對馬ハ之ヲ要撃センカ
爲メ津輕海峽ニ向ヒ方ニ急航ノ途ニアリ

浦鹽ノ敵艦隊ハ八月十四日第二及ヒ第四戰隊ノ猛撃ヲ受ケ「リユーリシ」ハ沈没シ他ノ二
艦ハ大ナル損傷ヲ受ケ浦鹽港ニ向ヒ遁走セリ

二、第二艦隊(對馬ヲ)ハ旅順及ヒ浦鹽艦隊ノ再舉ニ對シ對馬海峽ヲ警戒スヘキ任務ヲ有ス
三、第四戰隊(對馬ヲ)ハ左ノ要領ニ從ヒ海峽監視ノ任ニ當ルモノトス其ノ實施ニ
關シテハ瓜生司令官之ヲ定ムヘシ

哨區名	哨區位置	哨艦ノ數	記 事
A	四二二地點(編者曰ク沖ノ島ノ東微北四分ノ一北十二海里ナリ) 四二四地點(編者曰ク沖ノ島ノ北々東四分ノ三東二十七海里ナリ) 間	一	B及ヒC哨艦ヲ 出スヘキ時機ハ 隨時之ヲ命ス
B	三三〇地點(編者曰クチクメネフ岬ノ正南二十海里ナリ) 間	一	
C	二〇七地點(編者曰ク豆酸崎ノ西二分ノ一南四十一海里ナリ) 二三四地點(編者曰ク豆酸崎ノ南西四分ノ一西三十七海里ナリ) 間	一若クハ二	

四、水雷艇隊ヲ二分シ甲隊(矢島中佐之)乙隊(笠間中佐之)トシ甲隊ハ第九第十七及ヒ第十九
艇隊ヲ以テ乙隊ハ第十一、第十五及ヒ第十八艇隊ヲ以テ編制シ左ノ要領ニ從ヒ海峽監視
ノ任ニ當ラシム

其ノ實施ニ關シテハ各隊指揮官之ヲ定メ報告スヘシ

哨區ノ名	哨區ノ位置	哨艦ノ數	受持隊名	記 事
D	鴻島 大日灣口 間	夜間ハ三隻以上 晝間ハ一隻以上	甲 隊	一二日間交代トス 二、甲隊及ヒ乙隊指揮官ハ協議ノ上一等艇一 隊以上ハ常ニ尾崎灣若クハ竹敷ニ在リ且 其ノ一部ハ常ニ尾崎ニ在ラシムルコトヲ カムヘシ
E	神崎 若宮島 間	夜間ハ四隻 晝間ハ二隻以上	乙 隊	

五、尾崎及ヒ竹敷在泊中ノ諸艦中圓罐式ヲ有スルモノハ常ニ二十海里ニ對スル汽力ヲ保蓄シ
其ノ他ハ同速力ニ對スル汽罐ヲ埋火シ他ハ至急點火用意ヲナシ置クヘシ

但諸艦艇ハ常ニ出港準備ヲ整ヘ置クヲ要シ哨艦勤務中ノ諸艦艇ハ常ニ總罐ニ點火シタル
ヘシ

六、尾崎灣在泊ノ諸艦ハ毎夜約六直ノ哨兵ヲ配備シ警戒スヘシ但防禦網ハ特令アル場合ノ
外展張スルニ及ハス

七、灣口警戒ノ爲メ毎夜假裝砲艦一隻ヲ出シ番號順序ニ依リ灣口監視ノ任ニ當ラシム第二

戰隊ノ諸艦ハ左ノ如ク所要ノ人員ヲ出スヘシ

一號砲艦 出雲 二號砲艦 吾妻 三號砲艦 常磐 四號砲艦 磐手

此ノ警戒ハ八月十八日夜ヨリ開始ス

八、緊急信號地區信號其ノ他ノ警戒ニ關スル諸信號ハ從前ノモノヲ襲用ス(乙隊機密第(五五四號))

尋テ同日午後八時ニ至リ、上村司令長官ハ伊東海軍軍令部長ヨリ、上海ニ遁竄セル露國軍艦ハ、清國官憲ノ申出ニ對シ、曖昧ナル返答ヲナシテ時日ヲ遷延セシメントスルモノナリト認メラル、ヲ以テ、一等巡洋艦一隻、二、三等巡洋艦ノ内一隻若クハ二隻、及ヒ水雷艇二隻ヲ上海方面ニ分遣シテ、處分セシムヘキ旨ノ電命ヲ受ケシヲ以テ、直ニ瓜生司令官ニ向ヒテ、常磐及ヒ第四戰隊ノ二隻ト第十五艇隊ノ二隻トヲ率非テ、上海方面ニ出動スヘキヲ命シ、(瓜生司令官ハ訓令ニ基キ、九日ニ至リ出港ス第一第二篇第十四章第三節ニ詳ナリ)又同日麾下ノ各艇隊司令ニ向ヒ、伊東海軍軍令部長ノ電訓(第一章第二篇第(二)基キ益、奮勵スヘキヲ傳ヘ、併セテ各艇隊ハ今後苟モ時機アルニ際シテハ、確實ニ襲撃ノ效果ヲ收ムルニ於テ、寸毫ノ遺憾ナキヲ期スヘキ旨ヲ訓示シ、十八日更ニ警戒命令中ノ第三、第四項ヲ左ノ如ク改正セリ、

瓜生司令官上海方面作戰行動中乙隊機密第五五四號命令中第三項及ヒ第四項ヲ左ノ如ク定メ之ヲ實施セシム

三、日本丸、高千穂、千早ヲ哨艦トシ當分△哨艦ノミヲ出シ左ノ順序ニ隨ヒ交代監視ノ任ニ當ラシム

日本丸	19								
A	20								
歸	21								
A	22								
歸	23								
A	24								
歸	25								

香港丸(十七日午後三時長島ヲ發)入港セハ同艦ヲ加ヘ井上同艦長ヲシテ右要領ニ遵ヒ之カ實施ノ任ニ當ラシム

△哨艦運動要領

△哨艦ハ天明尾崎(敷竹)ヲ發シ速ニ四二四地點ニ直航シ午後八時迄哨區ヲ游弋警戒シ其ヨリ三三五地點(編者曰ク神崎ノ東二分附近ニ西航シ更ニ四四〇地點(編者曰ク沖ノ島ノ東)ニ向ヒ翌天明同地點ニアルヘシ爾後右要領ニ準ヒ運動シ翌天明再四四〇地點ニ達シ午前九時迄同地點ニ止リ間接ニ運送船航路ヲ掩護シ夫ヨリ歸港スヘシ

注意事項

哨艦ハ常ニ全速力ニテ運動シ得ヘキ準備アルヲ要ス沖ノ島望樓ニハ直接竹敷ニ海底電信ヲ通セリ

吳ノ一艇隊ハ下ノ關ヲ根據トシ夜間ハ角島沖ノ島ノ間ニ在リテ警戒ス

四、水雷艇隊ヲ甲乙二隊ニ分チ甲隊(矢島中佐之)ヲ第九第十九艇隊(第十五艇隊ノ)トシ乙隊(下村中佐之)ヲ第十七第十一第十八艇隊トシ左ノ要領ニヨリ海峽ノ監視ニ任セシム

哨區ノ名		哨區ノ位置		哨艇ノ數		受持隊名		記事	
E		D		神崎間 若宮島		鴻島間 大口灣		一、二日間交代トス 二、甲隊指揮官ハ水雷艇隊ノ一部ヲシテ常ニナルヘク尾崎ニ在ラシムル様力ムヘシ 三、晝間展望不良ナルトキハ各隊指揮官ハ臨機哨艇ノ數ヲ増スヘシ	
晝間ハ二隻以上		夜間ハ四隻		晝間一隻以上		夜間三隻以上		甲隊	
乙隊		甲隊		乙隊		甲隊		乙隊	

(乙隊機密第五)
(五四號ノ三)

尋テ十九日上村司令長官ハ、伊東海軍軍令部長ノ電命ニ基キ、毛利高千穂艦長ニ向ヒテ、來二十一日午前七時頃、大連島附近ニ到著スヘキ騎兵第二旅團長陸軍少將載仁親王殿下ノ御乗船因幡丸ヲ同處ヨリ裏長山列島マテ護衛スヘキコトヲ命シ、(高千穂ハ二十五日夕刻任務ヲ終ヘ尾崎ニ歸港セリ)二十一日千歲艦長海軍大佐高木助一ヨリ、同艦及ヒ對馬ハ、二十日午後樺太島コルサコフ沖ニ於テ「ノーウ井ク」ヲ擊破シ、對馬ハ炭庫ヲ擊タレ浸水アルモ、應急修理ヲ加ヘ航海ニ差支ナキコト、竝ニ兩艦共ニ小樽ニ入港セシコト、二十一日早朝兩艦共再コルサコフニ到リ、淺瀬ニ乗上ケ自ラ爆破シ居リタル「ノーウ井ク」ヲ砲撃シタルコト、千歲ハ復水器ニ漏洩ノ個處アリテ漏水激シク、現時ノ趨勢ニテハ十分ノ修理ヲナスニアラサレハ、安全ニ役務ニ服シ難キコト、對馬ハ修理已ニ成リ戰鬪航海ニ差支ナキコト、兩艦ハ更ニ函館ニ向フコト等ノ報告ヲ受ケ、(兩艦ハ一旦函館ニ向ヒシモ風波強ク小ニ入り直ニ炭水ヲ補充シ同日對州方面ニ復歸スヘキノ命ヲ受ケテ對馬ハ二)二十四日ニハ鮫島十七日千歲ハ復水器ヲ修理セシカ爲メ二日後レテ二十九日尾崎ニ歸港セリ)二十四日ニハ鮫島佐世保鎮守府司令長官ヨリ、蔚山角望樓建設人員材料、及ヒ松島望樓位置選定方、竝ニ建設員望

樓員ノ送致方ヲ依頼ス、トノ電報ニ接シ、(上記ノ人員及ヒ材料ヲ載セタル安平丸ハ二十五日午後八千早艦長ニ向ヒテ前記作業ノ任務ヲ命シ併セテ之ヲ終ラハ歸途竹邊灣ヲ視察シ來)二十五日ニルヘキコトヲ命シ千歲ハ三十日其ノ任務ヲ終ヘテ尾崎ニ歸著セリ本章第三節參照)二十五日ニハ伊東海軍軍令部長ヨリ左ノ電報ヲ受ケタリ、

嚴原釜山間海底電信線小茂田ヨリ三十海里竝ニ釜山ヨリ數海里ノ二箇所故障アリ大北電信會社船「バシフィック」號近日右修理ニ著手スル旨申出テタルニ對シ差支ナキ旨回答ナシ置キタルニ付其ノ旨心得相當ノ監視方取計ヲフヘシ「バシフィック」號ハ目下上海方面ニ在リ其ノ地到着ノ日取ハ分リ次第更ニ通報セン(編者曰ク尙上村司令長官ハ伊集院海軍軍令部長ハ二十五日午後上海沖ヲ出發シ同船ハ二檣二煙突ニシテ速力十乃至十一節ナルコト)二十七日ノ發電ニテ同船ハ二十八日午後六時修理場所ニ到著スヘキ通報ヲ受ケタリ、

尋テ伊集院海軍軍令部長ヨリモ、亦左ノ電訓アリタリ、
第三軍人員彈藥ノ補充ニ今ヨリ三週間ヲ要シ從テ旅順ノ攻略ハ尙一箇月ヲ要スルニ至ルヤモ計ラレス然ルニ我カ艦隊ノ艦艇ニハ現狀ノ甚タ面白カラサルモノ追々生シタルニ就テハ此ノ際一二隻宛繰合セ入渠修理等ニ掛ラシメラレテハ如何上海ニ在ル敵艦二隻モ愈々武裝ヲ解クニ決定セルニ就テハ同方面ニ分遣中ノ艦艇モ其ノ内ニハ其ノ本隊ニ合シ得ルナラント思考ス本電報ノコトハ第一艦隊司令長官ニモ申進シ置ケリ

是ニ於テ上村司令長官ハ、東鄉聯合艦隊司令長官ニ向ヒテ此ノ旨ヲ報シ、以テ何分ノ指揮ヲ仰キシニ、二十六日同司令長官ヨリ、一二隻ツ、交代入渠セシムヘシ、トノ電報アリシヲ以テ、先ツ磐手及ヒ第九艇隊ヲシテ之ニ著手セシメシカ爲メ二十七日磐手ニ在ル三須第二艦隊司令官ニ

ハ、同艦ハ佐世保ニ於テ、矢島第九艇隊司令ニハ、同艇隊中ノ二隻宛交代ニテ竹敷修理工場ニ於テ、何レモ入渠ノ上艦底ノ塗換ヲナシ、尙此ノ時日内ニ於テ完成シ得ル諸般ノ修理ヲ施行スヘシ、トノ訓令ヲ發シ、引續キ他ノ各艦艇ヲモ、順次佐世保其ノ他ニ於テ入渠シテ、艦底ノ塗換及ヒ應急修理ニ從事セシムルコトニ決定セリ、二十八日上村司令長官ハ伊東海軍軍令部長ヨリ、或中立國船舶ハ今猶宗谷海峽若クハ津輕海峽ヲ經テ、浦鹽斯德方面ニ密航シツ、アルヤノ形迹アルヲ以テ、爲シ得ハ日本丸、香港丸ヲ北海道北西岸方面ニ分遣シ、同方面ノ警戒ニ任セシムヘシ、但兩艦ハ望樓ヲ介シテ大本營トノ連絡保持ヲ努メシムルヲ要ス、トノ電訓ニ接シ、（上村司令長官ハ海軍大佐井上敏夫ニ向ヒ二十九日出艦シ哨戒中ノ日本丸ヲ率非必要アラハ舞鶴ニテ炭水ヲ補充シ函館又ハ小樽ヲ根據トシ同任務ニ服スヘキ旨ヲ訓令セリ香港丸、日本丸ノ行動ハ本章第五節ニ詳ナリ）九月三日左ノ哨戒命令ヲ發シタリ、

當分ノ内高千穂千早對馬ノ三艦ヲシテ相互ニ交代シ哨戒勤務ニ服セシム

毛利先任艦長ハ左ノ要領ニ據リ之カ實施ニ任シ其ノ方法及ヒ交代順序等ヲ規定シ之ヲ報告スヘシ

一、哨艦ハ敵ニ對シ警戒スルノ外殊ニ中立國船舶ノ行動ニ注意シ疑ハシキ者ヲ發見セハ相當ノ手段ヲ執ルヘシ

二、哨區ハ三八二地點（編者曰ク沖ノ島ノ北東七海里ナリ）ト四四一地點（編者曰ク沖ノ島ノ東二海里ナリ）ノ間トシ哨艦ハ常ニ此ノ間ヲ游弋シ時々沖ノ島望樓ト通信連絡ヲ執ルコトニ注意スヘシ

三、一哨艦ノ勤務ヲ三日間トシ交代ノ爲メ哨區ヲ去ル時間ヲ午前九時トス、

四、緊急信號地區信號等ハ從前ノ通りトス（乙隊機密第一五八三號）

尋テ五日浪速上海ヨリ歸隊セシヲ以テ、（同艦ハ軍令部長ヨリノ電訓ニ基キ瓜生）哨艦ニ加ヘタリ、同日東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、第九艇隊全部ヲ裏長山列島ニ回航セシムヘシ、トノ電命ニ接セシヲ以テ、直ニ此ノ旨ヲ第九艇隊司令海軍少佐河瀬早治ニ訓令セリ、由テ甲隊ヲ第十一、第十九艇隊（加フ）乙隊ヲ第十七、第十八艇隊ト改メ、又甲隊ノ受持チタルD哨區（瀨島ト大日及ヒ乙隊ノ受持チタルE哨區（神崎ト若宮）ニ於ル哨艇ノ數ヲ改メテ、夜間ハ三隻以上晝間ハ一隻以上ト爲シ、翌六日ヨリ實施セシメ、七日ニハ麾下艦艇ニ向ヒ、碇泊中ハ和炭ヲ用フヘキコトヲ訓令シ、八日朝ニハ上海方面ニ出動中ナリシ瓜生司令官常磐、新高雲雀、鵜ヲ率非テ尾崎ニ入港セルヲ以テ、直ニ同司令官ニ向ヒ、第四戰隊ノ諸艦ヲシテ、一隻ツ、三日間ノ交代ニテ、第三八二地點（沖ノ島ノ北東七海里）ト第四四一地點（沖ノ島ノ東二分一北二十海里）トノ間ヲ哨戒シ、敵ニ對シテ警戒スル外、殊ニ中立國船舶ノ行動ニ注意スヘキコト等ノ訓令ヲ發シタリ、然ルニ是ヨリ先キ竹敷、沖ノ島間、沖ノ島、角島間、角島、見島間ノ海底電纜沈置作業ニ從事シツ、アリタル沖繩丸ハ、七日其ノ作業ヲ終リ、更ニ竹邊灣、鬱陵島間ノ電纜敷設ニ從事スルコト、ナリシヲ以テ、九日上村司令長官ハ復更ニ瓜生司令官ニ向ヒ、第四戰隊中ヨリ二隻ヲ出シ、一隻ニハ同船ノ作業中ノヲ掩護セシメ、一隻ニハ同掩護艦ト尾崎ニ在ル本隊トノ通信連絡ヲ取ラシムヘキコト、竹邊灣ト本隊ト直接通信シ得ルニ至ラハ、其ノ通信中艦艇ヲ廢スヘキコト、又其ノ直接通信シ得ルニ至ル迄ハ、沖ノ島附近ノ哨艦ハ出スニ及ハサルコト等ノ訓令ヲ與ヘ、（掩護艦ニハ對馬、新高之ニ任シ中艦艇ニハ浪速、千早之ニ當リ十四日ヨリ佐世保、竹邊

灣間有線電信開通セシヲ以テ又同日東郷聯合艦隊司令長官ヨリ左ノ電命ニ接シタリ、

千歲修理濟次第第一艦隊ニ復歸シ當方面(編者曰ク旅順方面ナリ)ニ來ラシムヘシ同艦著ノ後笠置ヲ臨

時貴官ノ指揮下ニ屬シ修理ノ爲メ佐世保軍港ニ回航セシム第十五艇隊(編者曰ク當時此ノ

ルヲ明ニスルコトヲ得タルヲ以テ同日同艦隊司令ニ此ノ旨ヲ訓令セリ)ハ必要ノ修理濟次第當

方面ニ派遣シ第三艦隊ニ復歸セシムヘシ右到著ノ後第一艇隊ヲ臨時第二艦隊ニ編入シテ

其ノ方面ニ回航シ修理ニ著手セシム(編者曰ク第十五艇隊ハ十七日尾崎ヲ發シテ二十日裏

ニ入港セリ)

十日上村司令長官ハ、瓜生司令官ニ向ヒテ、浪速ヲ十三日迄ニ佐世保ニ回航セシメ、入渠ノ上艦

底塗換ヘ、應急修理ヲ施行セシムヘキコト、及ヒ當分ノ内千早ヲ同司令官ノ指揮下ニ入ラシム

ヘキ旨ヲ訓令シ、又十五日出雲モ入渠ノ爲メ佐世保ニ回航セシメタリ、(同艦不在中旗艦ヲ晉

ハ二十一日尾崎ニ歸港セシヲ以テ)而テ十六日同司令長官ハ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ左ノ電命

ヲ受領セリ、

三須第二艦隊司令長官ヲシテ磐手常磐ヲ率非當方面ニ回航シ本職ノ指揮ヲ受ケシムヘシ其

ノ航路ハ黒山島ヨリ山東角ニ向ヒ其ヨリ鹽大澳ニ向ハシメ萬一ノ際通信連絡ヲ便ニスルヲ

要ス右二艦到著後八雲淺間ノ内一隻ヲ歸港セシム豫定ナリ又敵艦隊脫出南下シタル場合

ニ於テ貴隊ヲ來會セシムルトキハ先ツ黒山島南東一二七地點(編者曰ク濟州島牛島ノ

待ツヘシ

是ニ於テ上村司令長官ハ、直ニ三須司令官ニ向ヒテ所要ノ訓令ヲ與ヘ、(磐手三須司令官常磐ハ同日

著セ)二十二日ニハ伊東海軍軍令部長ヨリ、遞信大臣大浦兼武、鐵道局長山之内一次等、二十五日

米國汽船「オハイオ」號ニテ神戸ヲ發シ、二十七日釜山港ニ著シ、二十八日中ニ馬山浦、鎮海灣方面

ヲ視察スルノ希望ナルニ付、作戰上大ナル不便ナキニ於テハ、麾下艦艇中適當ナルモノヲ選ビ、

二十七日中ニ釜山ニ分遣シ、同行ノ視察ニ便宜ヲ與ヘラレタシ、トノ電報ヲ受ケ、(高千穂ハ之ヲ

二十三日ニハ伊集院海軍軍令部次長ヨリ、浦鹽艦隊修理完成セル由、在佛國海軍中佐公爵一條

實輝ヨリ報告アリタル旨ノ電報ニ接シ、尋テ二十四日ニモ亦同次長ヨリ、「ロシーヤ」、「グロモ

ボイ」、水雷艇三隻、二十一日夜浦鹽斯德ヲ出港セル由、在倫敦陸軍歩兵中佐宇都宮太郎ノ報告

アリタル旨ノ電報アリシヲ以テ、上村司令長官ハ、即日沖繩丸ノ掩護艦新高ニ向ヒテ、浦鹽斯德

艦隊二十一日夜出港ノ報アリシヲ以テ、沖繩丸ノ作業ヲ中止セシメ、共ニ尾崎ニ歸港スヘキヲ

命セリ、(新高沖繩丸ハ翌二日既ニシテ二十六日午後四時三十五分ニ至リ、八雲裏長山列島ヨリ入

港セシヲ以テ、同司令長官ハ、二十七日同艦ヲシテ入渠シテ艦底ノ塗換ヘヲ爲サシメンカ爲メ、

佐世保ニ回航セシメ、二十八日ニハ第一艇隊モ裏長山列島ヨリ來著セリ、又同日第二艦隊參謀

長海軍少將加藤友三郎(九月一日少將ニ任セラレタリ)ハ、門司港務部長及ヒ釜山領事ニ向ヒテ、門司、釜山間

ヲ航海スル船舶ハ、沖ノ島、韓崎ニ近寄り、船名ヲ示シツ、航過スルヲ安全ナリト信スルニ付、注

意ヲ與ヘ置カレンコトヲ望ム、トノ電報ヲ發セリ、越エテ十月一日笠置入渠工事ヲ終ヘ、(笠置ハ

旅順沖ヲ去リ十六日佐世保ニ入)佐世保ヨリ入港セシヲ以テ、上村司令長官ハ、當分ノ内同艦

ヲ瓜生司令官ノ指揮下ニ屬セシメテ、千早ノ哨艦勤務ヲ解除シ、七日更ニ笠置ヲ臨時第四艦隊ニ編入シテ、瓜生司令官ノ旗艦タラシム。(瓜生司令官ハ八日旗艦ヲ浪速ヨリ笠置ニ移レ、第四艦隊艦隊區分ヲ第一小隊笠置新高對馬第二小隊高千穂浪速ト改メテ八日上村司令官ハ、伊東海軍軍令部長ヨリ、獨逸皇族カール、アントン、フオーヘンツオルレン殿下阿波丸ニ乗船セラレ、十六日午前十時頃門司ヲ發シテ、戰地ヘ渡航セラル、ニ付、麾下ノ軍艦一隻ヲシテ、門司ヨリ大連灣迄護衛並ニ嚮導セシムヘキ旨ノ電命ヲ受ケシヲ以テ、九日瓜生司令官ニ向ヒ、第四艦隊中ノ一艦ヲシテ之ニ當ラシムヘキヲ命シタリ、)瓜生司令官ハ新高司令官ニ報告シ新高ハ十四日午後尾崎ヲ發シテ十五日午前門司ニ著シ十六日午前出港シ阿波丸ヲ護衛シテ十八日夕刻大連灣ニ著シ其ノ任務ヲ終リテ二十二日午前竹敷ニ歸港セリ。(既ニシテ十日午後四時三十分ニ至リ、伊東海軍軍令部長ヨリ、旅順方面ノ情報ニ據レハ、去八日「レトウ非ザン」ハ一旦港外ニ出テ同夜入港シ、翌朝海鼠山望樓ヨリノ瞰視ニ據レハ、「ベレスウエー」ト、「バーヤン」ノ外艦影ヲ認メスト云フ、是他ノ大艦ハ同望樓ヨリ見エサル位置ニ隱レシモノナランモ、夜間是等ノ作業ヲ全クセシ手際ノ如キハ多少疑ナキ能ハス、或ハ一二脱出セシモノアルヤモ計ラレサレハ、萬一ヲ慮リ此ノ際警戒ヲ嚴ニスヘシ、トノ電報アリシヲ以テ、上村司令官ハ、同夜艇隊ノ全力ヲ擧ケテ兩水道ノ警戒ニ當ラシメシニ、十二日東郷聯合艦隊司令官ヨリ左ノ電訓到レリ、

浦鹽港氷結ノ期迫レルニ依ルニヤ近來上海膠州灣等ヨリ浦鹽ニ密輸入ヲ企圖スル中立國商船アルノ情報ニ接スルコト頻々タリ而テ夜中大膽ニモ對馬海峽ヲ北過セントスルモノアルカ如シ貴官ハ爲シ得ハ其ノ麾下兵力ヲ無線電信通達距離外ニ分散セサルノ範圍内ニ於テ

二等巡洋艦以下ヲ適當ニ配備シ此等ノ密航船ニ對スル監視拿捕ヲカメラレタシ宗谷海峽津輕海峽方面ハ香港丸日本丸及ヒ津輕海峽警備艦ニ委任シテ事足ルト信ス當方面ヨリモ膠州灣ノ前面ニ監視艦ヲ發シタキ企圖ヲ有スレトモ目下大沽方面芝罘方面上海方面ニ對スル監視ト必要ナル旅順口ノ監視トノ爲メ巡洋艦ノ隻數足ラス未タ之ヲ實行スルニ至ラス

是ニ於テ上村司令官ハ、直ニ瓜生司令官ニ向ヒテ、毎日哨艦二隻ヲ出シ、哨艦ハ何レモ午後六時頃豆豉崎ノ南西十六海里(二八一)附近ヲ出發シ、一隻ハ見島ノ北々西々西北二十六海里(四八二)ニ、一隻ハ蔚山港チクメネフ岬ノ東々南三十三海里(四〇九)ノ方向ニ向ヒ、翌天明頃ヨリ東水道ノ方ニ引返シ、主トシテ密航船舶ノ取締ヲナシ、併セテ浦鹽斯德艦隊ノ南下ヲ監視セシムヘキ旨ヲ訓令シ、而テ同司令官ハ、其ノ直率セル第二戰隊(千早ヲ)ヲ率非テ十六日早朝尾崎ヲ發シ、玄海灘ニ出テ、フオーヘンツオルレン殿下ノ乗船セラル、阿波丸ヲ迎ヘ、殿下ニ對シテ皇禮砲ヲ發シ、規定ノ敬禮(敬禮式第六十二條)ヲ行ヒ、午後一時二十二分ヨリ四時四十二分迄、之ト同行シテ後チ近海ヲ巡邏シ、十七日午後三時三十分尾崎ニ歸港セリ、十八日加藤第二艦隊參謀長ハ、伊集院海軍軍令部次長ヨリ、近來仕向地ヲ北米中立港ニ擬シ、朝鮮海峽ヲ經テ日本海ニ入り、機ヲ見テ浦鹽港ニ向フノ船舶増加スルノ形跡アリ、便宜拿捕ノ手段ヲ講セラレンコトヲ望ム、トノ電訓ニ接セシヲ以テ、上村司令官ハ、同日ヨリ春日丸ヲ瓜生司令官ノ指揮下ニ屬セシメテ、哨艦ニ加ヘ、尙愈密航船舶ノ監視ヲ嚴密ニセンカ爲メ、瓜生司令官ニ向ヒテ、更ニ一艦ヲ出シ、古志岐島ノ西北西三十五海里(二二〇)附近ヨリ、豆豉崎ノ西微南四分一南五十二海里(一九〇)附

近迄ノ間ヲ巡航セシムヘキ旨ヲ訓令シ、加藤第二艦隊參謀長ハ十九日各鎮守府參謀長ニ向ヒ、所轄ノ各望樓竝ニ各警備艦ヲシテ、竹敷要港部ヲ經由シテ直接左ノ諸件ヲ第二艦隊ニ電報セシムル様、取計ヲハレンコトヲ望ム旨ノ照會ヲ發セリ、

一、日本海竝ニ朝鮮海峽南部ニ面スル各望樓ハ其ノ視界内ヲ通航スル船舶ノ形狀船名通過ノ時刻航進方向等

但本邦船舶タルヲ明ニ認識セル時ハ之ヲ要セス

二、北海道各港門司長崎等ニ出入セル外國船舶アル時ハ所在警備艦ハ其ノ發著時刻船名國籍形狀出發地仕向地載貨等ノ詳細

然ルニ同日伊東海軍軍令部長ヨリ、獨國汽船「プログレス」號十九日膠州灣ヲ出港シ、夜間朝鮮海峽ヲ通過スルノ疑アリ、トノ電報ニ接セシヲ以テ、上村司令長官ハ、同船ニシテ果シテ海峽ニ到ルモノトスレハ、必ス二十日夜ナルヘシト推斷シ、瓜生司令官ニ向ヒテ、同日ニ限り天明ノ位置ヲ笠置ハ見島ノ北微西二十二海里(四九八)千早(十七日ヨリ瓜生司令官ノ指揮下ニ入りタリ)ハ見島ノ北北西四分ノ三西三十九海里(四六六)トスヘキ旨ヲ命シ、第二艦隊モ亦二十日午後出港シ、同夜ハチクメネフ岬ノ正東四十一海里(四二九)及ヒ同二十四海里(三八九)ニ在リテ警戒シ、二十一日午後尾崎ニ歸港セリ、越エテ二十八日ニ至リ、上村司令長官ハ伊東海軍軍令部長ヨリ、香港丸、日本丸(兩艦ハ函館修理中)ハ航海準備完成次第、便宜朝鮮海峽ニ回航シ、第二艦隊司令長官ノ指揮下ニ復歸スヘキ訓令ヲ、井上香港丸艦長ニ與ヘタル旨ノ電報ニ接シ、又十一月一日伊集院海軍軍令部次長ヨリ、

英國汽船「ボートリ」號英炭ヲ搭載シ、浦鹽ニ向ヒ十月三十日出帆シ、同「ラヅミトヘル」號モ亦米及ヒ麥粉ヲ搭載シテ、同日午後五時上海ニ向ヒ出發セシカ、是等兩船最後ノ仕向地ハ浦鹽斯德ナルヘキ風評アリ、トノ情報アリシ旨ノ電報ヲ受ケタルヲ以テ、直ニ此等船舶ニ對シ更ニ監視ヲ嚴ニセンカ爲メ、瓜生司令官ニ向ヒテ、三日夕刻ヨリ六日午後迄、更ニ二艦ヲ増派シテ海峽監視ヲ嚴ニスヘキコト、香港丸、日本丸ハ歸著次第其ノ指揮下ニ入ラシムヘキコト等ヲ訓令シ、三日ハ天長節ナルヲ以テ、午前十一時三十分各艦滿艦節ヲ行ヒ、正午皇禮砲ヲ放チ遙拜式ヲ行ヒ、哨艦外ノ諸艦ハ端舟競争及ヒ裝填砲競技ヲ行ヒ、香港丸、日本丸モ同日函館ヨリ入港セリ、尋テ九日上村司令長官ハ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、左ノ如ク兩度ノ電訓ニ接セリ、

(第一電) 旅順口ノ敵狀ハ依然トシテ變化ナク婆羅的艦隊ハ漸次東航スルノ報アルヲ以テ當方面ノ各艦ハ此ノ際交番ニ戰闘ニ必要ナル修理ヲ實施スルコトニ決シ朝日高砂ハ吳軍港ニテ秋津洲ハ佐世保軍港ニテ各著手スルコト、セリ就テハ貴方面各戰隊ヨリモ一隻宛修理ニ著手セシメ差支ナシ

(第二電) 朝鮮海峽兩岸各地ニ在ル無線電信所ハ從來ノ監督ニ不便ナルカ故ニ敵艦隊出沒等ノ際發信個々ニ互リ混信ヲ來ス等通信ノ遲延ヲ來セシコトアリシ様承知セリ婆羅的艦隊來航ノ事實ニ近キ今日同海峽ニ在ル陸海電信線望樓無線電信所ノ通信系統ヲ一層明ニシ重要ナル通信所ニ將校ヲ配スル等通信連絡ノ敏速ヲ計ルハ最必要ナルコト、思考ス貴官ハ同海峽方面ニ於ル從來ノ經驗ニ鑑ミ最適當ト思惟スル考案ヲ立テ直接大本營ヘ具申

セラルヘシ巨文島礮戸島白瀬鴻島若宮島蔚山港角ニ燈臺若クハ燈竿ヲ準備シ必要ニ鑑ミ
點燈スル件ハ本職ヨリ上申セリ

是ニ於テ上村司令長官ハ、右第一ノ電訓ニ基キ瓜生司令官ニ向ヒテ、此ノ際第四戰隊中ヨリ修理ノ必要アルモノ一隻宛、及ヒ香港丸、日本丸ノ内一隻ヲ交互ニ佐世保若クハ長崎ニ回航セシメ、二週間ヲ出テサル範圍内ニテ修理セシムヘキコトヲ訓令セリ、而テ第二戰隊ハ已ニ應急修理ヲ結了セシ際ニシテ、差當リ其ノ必要ナキヲ以テ、之ニ關スル意見ヲ東郷聯合艦隊司令長官ニ提出シ、十日ニハ伊東海軍軍令部長ニ向ヒテ左ノ如ク電報セリ、

松島竹邊灣其ノ他朝鮮海峽諸地點ニ通信機關新設相成候以來當方面ノ通信ハ彌々確實ト相成目下ノ情況ニ對シテハ充分ナリト信シ居候モ後來作戰ノ進行上一層當方面ノ警戒ニ重キヲ置カル、ノ必要モ可有之思考候ニ就テハ此ノ際尙左ノ各項實施相成候様希望致候

一、當方面ニ在ル艦隊トノ通信ヲ更ニ迅速確實ナラシメンカ爲メ電信線ノ集點ニ通信事務ノ將校一名ヲ置キ艦隊ノ所在狀況及ヒ其ノ通信事項ノ緩急等ニ應シ發受信ノ速達ニ任セシムルコト
現在ニテハ之ヲ竹敷ニ置キ根據地ヲ鎮海灣ニ變シタルトキハ鎮海灣ニ置ク等常ニ艦隊ト共ニ其ノ所在ヲ變セシム

二、無線電信ヲ有スル各假設望樓及ヒ松島望樓(東西ノ内ニ一名)ニハ將校一名ヲ配シ第一項ノ將校ニ隸セシムルコト

三、リアンコルド島ニ望樓ヲ新設シ松島ヨリ海底電線連絡ヲ取ルコト

在松島漁民ノ所說ニヨレハ東西兩島ノ間ニハ適良ナル可航水道アリ錨地ニ適シ且島内諸所ニ清水湧出シ其ノ地積モ充分ニ望樓ヲ建設スルニ堪フルカ如シ

四、韓國南部諸島ニ於ル豫定通信機關ヲ速成スルコト

五、大瀬崎及ヒ濟州島(若クハ巨文島)ニ無線電信所ヲ新設セラル、コト

但巨濟島無線電信所ハ左程必要ナラサルカ故他ニ移轉セシメラル、モ差支ナカルヘシ

六、油谷灣及ヒ玉ノ浦ニ假泊スル艦船ニ通信ノ速達ヲ期スルカ爲メ陸上電信線ヲ海中迄延長スルコト

七、鎮海灣ノ艦隊碇泊場ハ漆川島方面ニテハ狹隘ナルカ故ニ鎮海方面ニ旗艦ノ繫留浮標ヲ

設ケ電話線ヲ通スルコト

八、沖ノ島北方ヲ監視スル哨艦トノ通信ヲ迅速確實ナラシムルカ爲メ見島ニ無線電信所ヲ

設置スルコト

右各項ハ必要ノ程度ニ從ヒ順序ニ列記セルモノニ有之候(乙隊機密第(六九一號))

又同日東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、香港丸、日本丸ヲシテ尾崎若クハ佐世保ニ於テ、成ルヘク多量ノ石炭ヲ搭載シ、圓島附近ニ回航セシムヘキコト、(日本丸ハ十五日香港丸ハ二十四日佐世保ヲ十六日長子)麾下艦船ノ修理ニ著手スルモノハ、此ノ際出來得ル丈ケ載貨炭量ヲ増加シ、且吃水ヲ増加セサルカ爲メ、成ルヘク不要ノ物件ヲ陸揚ケセシメ、且艦内ノ防禦薄弱ナル部分ニハ、袋入英炭ヲ以テ被護セシムルヲ可トスルコト等ノ訓令ヲ受ケシヲ以テ、加藤第二艦隊參謀長ハ、第二

艦隊ノ各艦ニ向ヒ、豫メ陸揚ケシ得ヘキ物件ヲ定メテ之ニ對スル重量ヲ計算シ、其ノ準備ヲナスト同時ニ、其ノ計畫書ヲ提出スヘキコトヲ傳達シタリ、又同日上村司令長官ハ、聯合艦隊司令長官ヨリ、婆羅的艦隊支那海南部ニ到著スル頃ニ至ラハ、第二艦隊ヲシテ機械水雷沈置艦船ヲ掩護セシメ、浦鹽港外ニ急進シ、完全ニ多數ノ機械水雷ヲ沈置セシメントスル豫定ナレハ、之ニ對シ豫メ計畫書ヲ提出スヘキ旨ノ電訓ヲ受ケ、十一日ニハ更ニ八雲ヲ旅順方面ニ回航セシムヘキ電命ニ接セシヲ以テ、八雲艦長海軍大佐松本有信三直ニ之ヲ傳達シ、(八雲ハ十二日尾崎ヲ發シ十リ出羽第一艦隊司令官ノ旗艦トナリ常磐ハ第二艦隊)十三日ニハ瓜生司令官ニ向ヒ、令アラハ麾下隊ニ復歸シ同日圓島附近ヲ發シテ吳ニ回航セリ)ヨリ一艦ヲ出シテ、高崎山無線電信所通信試驗ヲ施行シ、且右係官ヲ同地ニ送致スヘキコト、リヤンコルド島ヲ觀察スヘキコト、松島及ヒ竹濱望樓員ヲ送致スル任務ニ服セシムヘキコトヲ訓令シ、(瓜生司令官ハ上記ノ任務ヲ對馬ニ命シ對馬ハ令ヲ受ケテ十)又敵艦隊及ヒ密航船舶ニ對シ警戒ヲ嚴ニスルカ爲メ、哨艦ノ監視法ヲ改定シタルヲ以テ、瓜生司令官ヲシテ之カ細則ヲ規定セシメタリ、尋テ二十一日伊集院海軍軍令部次長ヨリ左ノ情報ヲ受ケ、

十六日高雄艦長ノ報ニ依レハ英國商船「アラント」號船長以下數名ニ就キ調査ノ結果左記ノ事項事實ナルカ如シ

「グロモボイ」前艦長進級轉職前「ノーフク」艦長其ノ後ニ來リ試運轉ニ出テタル際過テボシエツト灣口附近ノ暗礁ニ艦側ヲ觸レ「リブ」十八本間ヲ破損シ浸水甚シカリシモ自ラノ汽力ニテ歸港シ去八日入渠セリ「ボガツイ」ハ未タ入渠修理中ナリシモ「グロモボイ」入渠ノ

爲メ「ボシツ」ヲ以テ之ヲ浮ヘ出渠セシメタリ船長ノ見込ニヨレハ「ボガツイ」修理完成迄ニハ今後約五箇月「グロモボイ」ハ約三箇月ヲ要スヘシト

船員ニ對スル露國側ノ待遇惡シカリシヲ憤慨シ居レリ

二十二日上村司令長官ハ、山本海軍大臣ヨリノ訓令ニ基キ、砲艦神祐丸、海城丸、扶桑丸、佐波丸ヲ順次佐世保ニ回航セシメ、海防水雷發射裝置二箇宛ヲ裝備セシムルコトニ定メタリ、(神祐丸海城丸ハ二十三日扶桑丸佐波丸ハ十二月十)既ニシテ二十四日ニ至リ、對馬ハ松島、竹濱望樓八日何レモ佐世保ニ回航シテ之カ裝備ヲ行ヘリ)員ノ送致、リヤンコルド島ノ觀察及ヒ高崎山無線電信所ノ通信試驗ヲ終ヘテ、同日午前尾崎ニ入リ、リヤンコルド島ハ、實查ノ結果大工事ヲ施サ、レハ、到底望樓ヲ設置シ得ル見込ナキ旨ヲ報告セシヲ以テ、上村司令長官ハ直ニ伊東海軍軍令部長ニ向ヒテ、此ノ旨ヲ報告セリ、尋テ三十日聯合艦隊司令長官ヨリ、左ノ電訓ニ接シタリ、

「グロモボイ」ノ損害ヲ確實トスレハ浦鹽ノ敵艦ハ當分南下セサルヘシ依テ此ノ際斷然其ノ隊殘部ノ修理ニ著手シ急速先ツ吾妻ヲ横須賀ニ遣ルヘシ

是ニ於テ上村司令長官ハ、即日藤井吾妻艦長ニ向ヒテ、急速横須賀ニ回航シ、約三週間以内ノ範圍ニ於テ、必要ナル修理ヲ施行シ來ルヘキヲ命シ、(同艦ハ即日)越エテ十二月三日伊東海軍軍令部長及ヒ東郷聯合艦隊司令長官ニ向ヒテ、艦艇交互修理ニ著手ノ結果、目下尾崎ニ常泊スルモノハ、出雲、春日丸ノミナルコト、及ヒ現ニ修理中ニ在ル第二艦隊各艦ノ豫定竣工期日ヲ報告セリ、(即チハ十二月十日笠置ハ二十二日吾妻ハ二十五日ノ豫定夕霧、春雨ハ未定ニシテ新高ハ十一月二十九日一旦竣工セシモ高力運轉ノ際故障ヲ生シ尙三週間ヲ要スル旨ヲ報告セシカ六日ニ至リ更ニ新

高ハ十二月八日吾妻ハ十八日夕霧ハ二十二日尋テ加藤第二艦隊參謀長ハ島村聯合艦隊參謀長
春雨ハ本年中ナルヘキ豫定日數ヲ報告セリ）尋テ加藤第二艦隊參謀長ハ島村聯合艦隊參謀長
ニ向ヒ修理成リテ來十二日吳ヲ出發スヘキ豫定ナル常磐ハ直ニ旅順方面ニ向ハシムヘキヤ否
ヤ第二艦隊ニテハ同艦ヲ旅順方面ニ派遣シ其ノ代リトシテ磐手、淺間ノ内ヲシテ修理ニ著手
セシメタキ希望ナル旨電報ヲ發セリ（八日ニ至リ島村參謀長ヨリ旅順口内ノ敵艦ハ背面ヨリノ
當方面ニ來航セシムルニ及ハス又磐手淺間ハ兩三日ノ間模様ヲ見テ修理ノ爲メ内地ニ回航セシ
メラル、豫定ナリト返電アリシカ幾モナク聯合艦隊司令長官ヨリ磐手淺間ハ共ニ修理ノ爲メ
内地ニ出發セシムト）此ノ時ニ當リ敵ノ増遣艦隊ハ、既ニ其ノ本國ヲ出發シタルヲ以テ、（十五
日）リバウ軍港ヲ拔錨セリ第二部第一篇）加藤第二艦隊參謀長ハ、伊集院海軍軍令部次長ヨリ左ノ
電報ヲ受領セリ、

サンダ諸島以東ニ於ル婆羅的艦隊（編者曰ク増遣艦）ノ作動ヲ遲疑セシメ竝ニ同方面支那海
沿岸ニ於テ敵ノ據ラントスル疑アル港灣等ヲ偵察シ置クノ目的ヲ以テ香港丸日本丸ヲ同方
面ニ派遣セシメラル、ニ付貴隊ニ於テ差支ナクハ此ノ際幕僚ヲ右二艦ノ一ニ便乗差遣セシ
メラル、コト後來ノ作戰ニ資スル所アルヘシト思ハル、ニ付御參考迄ニ申進ス兩艦ハ來十
三日佐世保出發ノ豫定以上ハ極テ秘密ニ保タルヘシ（編者曰ク上村司令長官ハ參謀海軍中
同官ハ十二月十二日日本丸ニ便乗セリ又香港丸日本丸ハ曩ニ第一艦隊ニ屬シテ旅順方面ニ著
セシ以來封鎖任務ニ服シ居リシカ十一月二十九日東郷聯合艦隊司令長官ヨリ上記ノ任務ニ就
クヘキ準備トシテ佐世保回航ヲ命ゼラレ即日同軍港ニ向ヒ十二月二日同港ニ入り十三日
準備完成シテ南洋ニ向ヒ出動セリ第二部第一篇第五章香港丸日本丸ノ南洋巡視ニ詳ナリ）
尋テ十日上村司令長官ハ、伊集院海軍軍令部次長ヨリ、英國汽船廣東號ハ機械油類及ヒ雜貨ヲ
搭載シ、浦鹽斯德ニ向ヒ、九日上海ヲ發シ、對馬海峽ヲ通過スルモノナルヘキ旨ノ情報ヲ受ケシ

ヲ以テ、直ニ瓜生司令官ニ向ヒ、同夜ヨリ十二日午前迄、更ニ一哨艦ヲ増派スヘキコト、春日丸艦
長ニモ亦同シク同日ヨリ十二日午前迄韓國南岸ヲ巡視スヘキコト、水雷艇隊ニハ十、十一日ノ
兩夜全力警戒シ、甲隊中ノ一隻ハ鴻島ト巨濟島間ニ在リテ哨戒スヘキコト等ノ訓令ヲ與ヘ、以
テ警戒ヲ嚴ニセシメシモ、遂ニ同船ニ會セサリシヲ以テ、十二日夜ヨリ平常ノ哨戒ニ復セシメ
シカ、十三日ニハ伊東海軍軍令部長ヨリ左ノ電報ニ接シタリ、

新高ハ航海準備完整セハ努メテ速ニ橫須賀ヲ出港シ揚子江口福建省沿岸港灣臺灣南方海面
等ヲ偵察シ馬公要港ヲ經テ佐世保ニ歸港スヘキ旨直接同艦長ニ命令セリ同艦ハ十五日橫須
賀發ノ豫定（編者曰ク新高ハ十五日橫須賀ヲ發シ十八日佐世保ニ入り二十日ヨリ上記ノ任
務ニ就キ三十八年一月十一日佐世保ニ歸港セリ第二部第一篇第五章ニ詳ナリ）
已ニシテ十六日ニ至リ、上村司令長官ハ聯合艦隊司令長官ヨリ、瓜生司令官ニ海峽哨戒ヲ委任
シ、出雲ハ旗艦ノマ、佐世保ニ到リ、修理ヲ加フヘシ、トノ電命アリシヲ以テ、直ニ瓜生司令官ニ
向ヒテ所要ノ訓令ヲ與ヘ、同時ニ麾下各艦長及ヒ各艇隊司令ニモ亦當分瓜生司令官ノ指揮ヲ
受クヘキコトヲ訓令シ、出雲ヲ率非テ同日午後出發シ、十七日午前佐世保ニ入り、在橫須賀藤井
吾妻艦長ニ向ヒテハ、修理濟次第直ニ佐世保ニ回航スヘキコトヲ電訓セリ、然ルニ當時旅順口
ニ於ル敵艦隊殆ト全滅ニ歸シタルヲ以テ、二十二日上村司令長官ハ、伊集院海軍軍令部次長ヨ
リ、不日旅順方面ニハ第三艦隊ト驅逐隊、水雷艇隊ノ若干ト、及ヒ陸上部隊等適當ノ兵力ヲ留メ、
他ハ内地ニ回航シ、聯合艦隊司令長官及ヒ第二艦隊司令長官ニ、上京ヲ命セラル、コトニ内定
シタル旨ノ電報ヲ受ケ、尋テ二十六日同次長ヨリ左ノ電報ヲ受領セリ、

サシダ群島方面ニ出動シタル部隊ハ瓜生司令官ノ率ヰル分遣隊ニシテ其ノ勢力ハ略蘇士運河通過ノ敵枝隊ヲ壓倒シ得ルモノ、如ク裝ヒアルヲ以テ同司令官ノ所在等ヲ部外ニ洩サルル様致度本日長崎ニ入港スヘキ浪速ノ如キ必要ノ向キニ至急注意セシメラレタシ

依テ在長崎ノ和田浪速艦長ニ向ヒテ、右ニ關スル訓示ヲ與ヘ、在尾崎ノ瓜生司令官ニモ、亦右電報ヲ通報セリ、

是ヨリ先キ東郷聯合艦隊司令長官ハ、伊東海軍軍令部長ノ命ニ基キ、旗艦三笠ニ坐乗ノマ、二十五日裏長山列島ヲ發セシカ、二十八日吳ニ著シ、同地ニテ上村第二艦隊司令長官ト會シ、共ニ上京スヘキコトニ定リタルヲ以テ、上村司令長官ハ二十八日早朝、加藤第二艦隊參謀長及ヒ副官海軍中佐舟越楫四郎ヲ從ヘテ上京ノ途ニ就ケリ、

以上ハ八月十日以後ニ於ル第二艦隊行動ノ概要ニシテ、尙之ヲ各隊ニ分チテ左ニ詳記ス、

第二節 第二艦隊ノ行動

上村第二艦隊司令長官ノ直率スル第二艦隊出雲(上村司令官)、吾妻、常磐、磐手(三須司令官)及ヒ通報艦千早ノ五隻ハ、八月十四日蔚山沖ニ於テ浦鹽艦隊ヲ破リテ後、同日午後八時頃一旦尾崎ニ入りシモ、更ニ千早ノ外ナル四隻ハ、十五日午前三時同港ヲ發シテ、十一時三十分佐世保軍港ニ至リ、直ニ彈藥ノ補充及ヒ損所ノ應急修理ニ著手セリ、(千早ハ主トシテ第四艦隊ノ諸艦及ヒ艇隊ト共ニ三節第四艦隊ノ行動ニ)然ルニ同日上村司令長官ハ、伊東海軍軍令部長ヨリ、此ノ際第二艦隊ヲ一艦ツ、入渠セシメ差支ナシト認ム、トノ電報ヲ受ケ、加藤第二艦隊參謀長ハ、海軍軍令部參謀

ヨリ、第二艦隊船體部ノ應急修理ハ、佐世保ニテ施行スルヲ便利トスレトモ、出雲、吾妻、磐手ノ破損砲引換ヘ、及ヒ磐手ノ砲郭應急工事ノ爲メニハ、一隻ツ、便宜吳軍港ニ回航セシムルヲ便利ト思考ス、トノ電報ヲ受ケタルヲ以テ、上村司令長官ハ、磐手ヲ吳ニ回航セシムルコトニ決セシモ、他艦ハ至急應急修理ヲ完成セシムルニ止メテ、成ルヘク速ニ對州ニ歸港セント欲セシニ、恰モ同夜東郷聯合艦隊司令長官ヨリモ、修理ハ應急ニ止メ、彈藥炭水ノ補充ヲ急キテ、速ニ元ノ任務ニ就クヘキ旨ノ電訓ヲ受ケタルノミナラス、十六日ニハ伊東海軍軍令部長ヨリモ、亦前日ノ入渠ノ件ヲ取止メ、且聯合艦隊司令長官ヨリ受ケタルモノト同一意味ノ電訓アリタリ、是ニ於テ上村司令長官ハ、磐手ノ吳回航ヲモ止メテ各艦ノ修理ヲ急キ、常磐ハ十六日午前迄ニ、出雲、吾妻ハ十七日早朝迄ニ皆應急修理竣工シタルヲ以テ、第二艦隊(磐手ヲ)ハ十七日午前八時三十分、佐世保ヲ發シテ午後七時尾崎ニ入りシカ、同日上村司令長官ハ、伊東海軍軍令部長ヨリ、一等巡洋艦一隻、二等巡洋艦ノ内一隻若クハ二隻、及ヒ水雷艇二隻ヲ上海方面ニ分遣シ、以テ八月十日ノ海戰ニ傷ツキ、同地ニ遁竄セル露艦二隻ヲ處分セシムヘキ電訓ニ接セシヲ以テ、其ノ結果常磐ハ瓜生司令官ノ麾下トナリ、浪速、新高等ト共ニ二十九日上海方面ニ出動シ、同日磐手ハ應急修理ヲ了リテ佐世保ヨリ尾崎ニ入レリ、(磐手ハ十八日修理成リ同)然ルニ幾モナク第二艦隊ハ一二艦宛交代入渠スルコト、ナリタルヲ以テ、先ツ磐手ハ二十七日午後六時尾崎ヲ發シテ、二十八日午前七時佐世保ニ入り、即日入渠、三十一日午前出渠シテ、九月一日尾崎ニ歸著シ、吾妻ハ同日尾崎ヲ發シテ、二日舞鶴ニ著シ、即日入渠、六日出渠シテ、八日尾崎ニ歸著シ、常磐ハ瓜生司令官ノ指揮下ニ於テ、上

海ナル露國軍艦ノ處分ヲ終リテ同日尾崎ニ歸港シ、即日復隊シ、直ニ入渠ノ爲メ佐世保ニ向ヒ、九日同港ニ著シ、十日入渠、十三日出渠シテ翌十四日尾崎ニ歸著シ、翌十五日出雲之ニ代リテ尾崎ヲ發シ、(上村司令長官ハ同日共ニ旗艦ヲ吾妻ニ移セリ)十六日佐世保ニ著シ、十八日入渠シ、二十日出渠シテ、翌二十一日尾崎ニ歸著シ、再上村司令長官ノ旗艦トナレリ、是ヨリ先キ十六日上村司令長官ハ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、三須第二艦隊司令官ヲシテ、警手、常警ヲ率非旅順方面ニ回航セシムヘキコト、其ノ航路ハ黒山島ヨリ山東角ニ向ヒ、其ヨリ鹽大澳ニ向ハシメ、以テ萬一ノ際ニ於ル通信連絡ヲ便ニスヘキコト、右二艦到着後、八雲、淺間ノ内一隻ヲ歸港セシムル豫定ナルコト、旅順ノ敵艦隊脱出南下シタル場合ニ於テ、第二艦隊ヲ來會セシムル時ハ、先ツ黒山島ノ南東一二七地點(濟州島半島ノ七海里)ニ到ルヘキコト等ノ訓令ヲ受ケタルヲ以テ、乃チ三須司令官ニ所要ノ訓令ヲ與ヘ、同司令官ハ同日午後二艦ヲ率非テ鹽大澳ニ向ヒ出發シ、(兩艦ハ十八日午後鹽大澳ニ著レ警手ハ第一艦ニ常警ハ第三艦隊ニ各編入セラレタリ)之ニ代リテ八雲ハ二十六日午後裏長山列島ヨリ尾崎ニ入り、第二艦隊ニ復隊シ、翌二十七日入渠ノ爲メ尾崎ヲ發シ、同日佐世保ニ著シ、二十八日入渠シ、十月一日出渠シテ三日尾崎ニ歸港シタルヲ以テ、今ヤ通報艦千早及ヒ旅順方面ニ在リテ行動中ナル淺間ノ外、第二艦隊ノ各艦ハ艦底ノ塗換ヘ及ヒ應急修理ヲ了ルヲ得タリ、越エテ八日午前八時上村司令長官ハ、第二艦隊(出雲吾妻)ヲ率非テ尾崎ヲ發シ、同日午後鎮海灣ニ入り、九日如島附近ニ出テ、同艦隊ノ内筒砲懸賞射撃ヲ行ヒ、即日再鎮海灣ニ歸リシカ、十日午後四時三十分伊東海軍軍令部長ヨリ、旅順ノ敵艦中一二脱出セシモノアルヤモ計ラレサレハ、警戒ヲ嚴ニスヘキ旨ノ電報アリシヲ以テ、第二艦隊ハ十一

日尾崎ニ歸港シ、十六日ニ至リ近海巡視ヲ兼テ、同日午前門司出港ノ阿波丸ニ搭乘シテ、觀戰ノ爲メ戰地ニ赴カル、獨逸皇族カール、アントン、フオーヘンツォルレン親王殿下ヲ迎フルカ爲メ、午前六時三十分尾崎ヲ發シ、(千早ヲ缺ク)東水道ヲ經テ馬關海峽ノ方ニ向ヒ、午後一時二十二分玄海灘ニテ阿波丸ニ會シ、皇禮砲ヲ放チテ規定ノ敬禮ヲ行ヒ、午後四時三十分神崎燈臺ヲ北七十七度西十五海里ニ見ル地點ニ達シテ、針路ヲ北東微北トシ、同船ト分レ、十七日午後三時三十分尾崎ニ歸港セシカ、十九日ニ至リ、伊東海軍軍令部長ヨリ、注意船舶タル獨國汽船「プログレス」號同日膠州灣ヲ出港シ、夜間朝鮮海峽ヲ通過スルノ疑アリ、トノ電報アリシヲ以テ、第二艦隊ハ二十日午後四時三十分出港シ、西水道ヲ經テ八時七分三島燈臺ヲ東十一海里ニ見ルノ地點ニ達シ、出雲、吾妻ハ蔚山港チクメ子岬ノ正東四十一海里(四二九)ニ、八雲ハチクメ子岬ノ正東二十四海里(三八九)ニ向ヒ、各哨戒セシモ、遂ニ異狀ナカリシヲ以テ、翌二十一日尾崎ニ歸リ、八雲ノミハ第四艦隊ヨリ出テタル哨艦笠置、千早ト共ニ同夜對州ノ北方ニ游弋シテ、二十二日午前六時チクメ子岬ノ東ノ南三十三海里(四〇九)ニ達シ、後チ回頭シテ歸途ニ就キ、同日午後尾崎ニ歸港セリ、尋テ十一月一日夜ニ至リ、松島西望樓ヨリ、數回海上ニ怪シムヘキ燈火ヲ見ル、トノ報アリタルヲ以テ、第二艦隊ハ二日出港シ、三島燈臺ノ南西方約十四海里ノ地點迄出動セシモ、異狀ナカリシヲ以テ同日尾崎ニ歸港シタリ、越エテ十二日八雲ハ命ヲ受ケテ尾崎ヲ發シ、旅順口方面ニ回航シ、之ニ代リテ是マテ同方面ニ在リテ出羽第一艦隊司令官ノ旗艦タリシ常警ハ、第二艦隊ニ復隊シ、圓島附近ヲ發シテ十九日吳軍港ニ入港シ、直ニ船體、兵器ノ修理ニ著手セシカ、尋テ三

十日上村司令長官ハ、聯合艦隊司令長官ヨリ、「グロモボイ」ノ損害ヲ確實トスレハ、浦鹽ノ敵艦ハ當分南下セサルヘキニ依リ、此ノ際殘部ノ修理ニ著手シ、急速先ッ吾妻ヲ橫須賀ニ遣ルヘシ(前節参照)トノ命ヲ受ケタルヲ以テ、同司令長官ハ直ニ藤井吾妻艦長ニ向ヒテ、急速橫須賀ニ回航シ、約三週間以內ノ範圍ニ於テ必要ナル修理ヲ施行シ、竣工次第尾崎ニ歸港スヘキノ訓令ヲ與ヘ、同艦ハ同日尾崎ヲ發シテ十二月三日橫須賀軍港ニ入港シ、續イテ旅順方面ニ在ル磐手ハ十日佐世保ニ入り、淺間ハ十一日吳ニ入り、何レモ修理ニ著手セリ、(二艦トモ十七日第一戰隊ニ復隊ス)然ルニ二十二日ニ至リ、山本海軍大臣ノ命ニヨリ、磐手ハ吳ニテ修理スルコト、ナリ、十四日吳ニ著シ、同所ニ在リテ修理中ナリシ常磐ハ、十二日工事成リテ、十四日尾崎ニ歸著シ、越エテ十六日上村司令長官ハ、聯合艦隊司令長官ノ命ニ依リ、瓜生司令官ヲシテ、海峽哨戒ノ任ニ當ラシメ、即日出發ヲ率非テ佐世保ニ向ヒ、十七日午前同軍港ニ入り、同艦ハ直ニ修理ニ著手セリ、又旅順方面ニ在ル八雲ハ、出羽司令官旗艦ノ儘ニテ十八日出發シ、十二日橫須賀ニ著シテ直ニ修理ニ著手シ、吾妻ハ修理ヲ了ヘテ二十四日橫須賀ヲ發シ、二十七日佐世保ニ入港セリ、既ニシテ二十八日ニ至リ、上村司令長官ハ大本營ノ命ニヨリテ上京シ、瓜生司令官之ニ代リテ第二艦隊ヲ指揮スルコト、ナリ、佐世保ニ在ル吾妻ハ、伊東海軍軍令部長ヨリ、速ニ竹敷ニ回航スヘキノ命セラレ、二十九日佐世保ヲ發シテ三十日尾崎ニ入レリ、然ルニ磐手ニテ吳ニ在ル三須第二艦隊司令官ハ、同日上村司令長官ノ命ヲ受ケ、吾妻、淺間ヲ率非急速津輕海峽ニ到リ、函館港又ハ青森港ヲ根據トシ、津輕海峽若クハ宗谷海峽ヲ經テ脫出スルノ虞アル浦鹽艦隊ニ對シテ警戒スルコト、ナリシヲ以テ、同司

令官ハ直ニ尾崎ニ在ル吾妻ニ向ヒ、此ノ任務ヲ傳ヘ、併セテ三十八年一月二日正午頃、足摺崎沖ニテ淺間ニ合スヘキノ命シ、淺間ハ三十一日工事竣成セシヲ以テ、同日幕僚ヲ率非テ同艦ニ移リ、三十八年一月一日吳ヲ發シテ函館ニ向ヒ、吾妻モ佐世保ニ入港シ、炭水糧食滿載ノ上、同日函館ニ向ヒ出發セリ、

第三節 第四戰隊及ヒ千早ノ行動

瓜生第二艦隊司令官ノ率非ル第四戰隊浪速(瓜生司令官旗艦)、高千穂、新高、對馬ノ四隻、及ヒ通報艦千早ハ、八月十四日蔚山沖ノ海戰ニ參加シ、尋テ沈没セル敵艦「リュートク」ノ人員ヲ救助收容シテ後、同日午後八時頃尾崎ニ入港シ、其ノ捕虜ヲ第二戰隊ノ各艦ニ送致シ、而テ瓜生司令官ハ、上村司令長官ヨリ、麾下二艦ヲ津輕海峽ニ派シ、以テ黃海々戰後同方面ニ逃走セルモノト認メラル敵艦「ノーウ非ク」ニ對シテ行動セシメ、他ノ第四戰隊及ヒ水雷艇隊ヲ以テ、對馬海峽ヲ嚴重ニ監視スヘキノ命ヲ受ケシカ、幾モナクシテ此ノ命令取消サレ、更ニ浪速、高千穂ハ彈藥補充ノ爲メ、第二戰隊ト共ニ佐世保ニ回航シ、新高、對馬ハ第十五艇隊ト共ニ二十六日佐世保ニ到ルコト、ナレリ、(是上村司令長官ハ東鄉聯合艦隊司令長官ヨリ第四戰隊常)又福井千早艦長ハ、竹敷方面ニ在ル總艇隊ヲ指揮シ、以テ海峽ノ監視ニ任シ、且沖繩丸ノ角島ヨリ見島、沖ノ島間海底電線敷設中、之カ掩護ニ任スヘキノ命ヲ受ケタリ、是ニ於テ浪速、高千穂ハ十五日午前四時三十分、新高ハ十一時五十分尾崎ヲ發シテ何レモ同日午後佐世保ニ入港シ、對馬モ亦午前十一時四十分佐世保ニ向ヒ尾崎ヲ出港セシカ、午後二時三十五分豆酸無線電信所ヨリ、千歲艦長ノ指揮ヲ受ケ津輕

海峽ニテ行動スヘシ、トノ上村司令長官ヨリノ命令傳達ヲ受ケシニヨリ、同無線電信所ヲ介シテ千歳ヲ呼ビシニ、遂ニ應答ヲ得サリシヲ以テ、神崎ノ沖合ヨリ單獨函館ニ向ヘリ、(十七日午後十一時四十五分千歳ノ來ルニ會シ午後六時三十五分函館ニ入レリ)又第三戰隊タリシ千歳ハ、膠州灣ニ遁入セル敵艦ニ對シ行動中、十四日臨時第二戰隊ニ編入セラレ、十五日午後一旦尾崎ニ入り、高木同艦長ハ、上村司令長官ヨリ、津輕海峽ニ急航シ、千歳、對馬ヲ指揮シ、津輕海峽警備艦艇指揮官海軍大佐岡直記ノ指揮下ニ在ル艦艇ト相策應シテ、敵艦「ノーツ非ク」ヲ同海峽ニ邀撃スルニ努ムヘキ旨ノ電命ヲ受ケ、尋テ對馬ハ已ニ先發シテ同海峽ニ向ヘリ、トノ電報アリシヲ以テ、十六日午前三時四十五分出港シ、十八日午後一時五十八分函館ニ入り、對馬ト共ニ日々津輕、宗谷ノ方面ニ出動シテ二十日ニ至リ、遂ニ「ノーツ非ク」ト會戰シテ之ヲ破リ、(第一部第二篇第十四章第三節)對馬ハ二十七日、千歳ハ二十九日尾崎ニ入りテ復隊シ、而テ千歳ハ同日同上村司令長官ヨリ、佐世保ニ回航シ、入渠シテ艦底ノ塗換ヘ、汽罐内部ノ掃除竝ニ該工事ニ要スル時日内ニ完成シ得ヘキ諸般ノ修理ヲ施行シ、成ルヘク速ニ尾崎ニ歸航スヘキ命ヲ受ケテ三十日午前出港シ、同日午後佐世保ニ入り、九月一日入渠シ、七日出渠シテ十日尾崎ニ歸港セリ、

是ヨリ先キ浪速、高千穂ヲ率非テ、八月十五日午後佐世保ニ入りタル瓜生司令官ハ、同日夕刻上村司令長官ヨリ、常磐及ヒ第四戰隊ノ二艦ト、第十五艇隊トヲ率非テ上海方面ニ急航シ、八月十日ノ黃海海戰ニ傷ツキ上海ニ遁竄セル敵艦「アスコリド」等ニ對シ、行動スヘキノ命ヲ受ケシ

カ、十六日ニ至リ旅順ノ敵艦隊南下ノ狀アリタルヲ以テ、更ニ上村司令長官ヨリ、前記ノ命令ヲ取消シ、同時ニ麾下艦艇ヲ率非テ急速對州方面ニ歸リ、同方面ニ現存スル艦艇ヲ合セテ、朝鮮海峽ノ警戒ニ就クヘキ訓令ヲ受ケシヲ以テ、同司令官ハ同日夕刻浪速、高千穂及ヒ第十五艇隊ヲ率非テ出港シ、十七日尾崎ニ入りシカ、尋テ第二戰隊モ亦歸港シ、上村司令長官ヨリ、前日ノ敵艦隊脫出ノ情報ハ、事實無根ナリシコトヲ聞キ、又第二艦隊ノ警戒法定リ、哨艦ハ第四戰隊(對馬ヲ缺キ千早)ヨリ出シテ、A哨區(沖ノ島ノ東微北四分ノ一北十二海里ヨリ同島日本丸ヲ加フ)ヨリ出シテ、B哨區(北々東四分ノ三東二十七海里マテノ間ナリ)ニ一隻、B哨區(蔚山港チクメネフ岬ノ正南二十海里ヨリ北々東四分ノ三東二十七海里マテノ間ナリ)ニ一隻、C哨區(豆酸崎ノ西二分ノ一南四十一海里ヨリ同島ヨリ韓崎ノ北東二十海里迄ノ間ナリ)ニ一隻、C哨區(崎ノ南西四分ノ一西三十七海里迄ノ間ナリ)ニ一隻若クハ二隻宛ヲ配スヘキコト、ナリシモ、幾モナクシテ上村司令長官ハ、大本營ヨリ一等巡洋艦一隻、二三等巡洋艦ノ内一二隻、及ヒ水雷艇二隻ヲ露艦處分ノ爲メ上海方面ニ派遣スヘキ命ヲ受ケシ結果、瓜生司令官ハ十八日將旗ヲ浪速ヨリ常磐ニ移シ、常磐、浪速、新高及ヒ第十五艇隊ノ雲雀、鵜ヲ率非テ十九日午前尾崎ヲ發セリ、(第一部第二篇第十四章第三節)又前記海峽監視ノ命ヲ受ケタル福井千早艦長ハ、十五日各艇隊司令ニ向ヒテ、艦隊不在中諸艇隊ノ指揮ヲ千早艦長ニ命セラレタルコト、諸艇隊ノ哨區及ヒ監視方法ハ、四戰機密第二〇八號(本篇第九章第一節)ノ諸項ヲ遵守シ、第十五艇隊ノ代リニ第九艇隊ヲ加フルコト、諸艇隊ハ夜間全力海峽ノ監視ニ任シ、千早ハ單獨時々東西兩水道ヲ往復シ、且沖繩丸ノ電線敷設作業中ハ、同船掩護ノ爲メ角島方面ニ出動スルコトアルヘキ等ノ訓令ヲ與ヘ、十六日ニハ出港シテ角島ニ到リ、十七日ニハ風波ヲ油谷灣ニ避ケ、十八日モ再角島ニ赴キ、午後油谷灣ニ復リシカ、同夜上村司令長官ヨリ、

翌十九日早朝日本丸尾崎ヲ發シテ、△哨區ニ就クヘキヲ以テ、無線電信ニテ沖繩丸ノ現狀ヲ同艦ニ傳ヘ、急速尾崎ニ歸港スヘキノ命ヲ受ケ、十九日尾崎ニ入り、尋テ竹敷ニ移泊シ、二十二日同地ヲ發シテ、二十三日所安島港内ヲ偵察シ、更ニ珍島附近マテ進航シテ後、竹敷ヲ經テ二十日六日尾崎ニ歸港セリ、然ルニ同日又上村司令長官ヨリ、安平丸ヲ護衛シテ便宜蔚山及ヒ松島ニ到リ、蔚山角望樓建設地ヲ選定シテ、同角望樓建設人員及ヒ材料ヲ陸揚ケシ、尋テ松島望樓建設人員ノ引揚ケ及ヒ同望樓員ノ陸揚ケヲナシ、歸途竹邊灣ニ寄港シテ、同望樓ノ近狀ヲ視察スヘシ、トノ訓令ニ接シ、二十七日午前六時出港(安平丸ハ速力遅キヲ以テ午前)三時三十分ニ出港セシメタリシテ蔚山ニ到リ、蔚山角ノ東海岸チクメ子岬ノ高處ニ於テ、望樓位置ヲ選定シ、建設人員及ヒ材料ヲ陸揚ケシ、汽艇ヲ以テ同地附近ヲ測量シ、二十八日午後安平丸ト共ニ松島ニ向ヒ、二十九日天明同島ニ達シ、道洞ノ南方ニ在ル一小灣ヨリ、望樓建設員ヲ安平丸ニ乗船セシメ、望樓員ヲ上陸セシメ、正午出港シテ竹邊灣ニ向ヒ、夕刻同灣ニ達シテ視察ヲ遂ケ(輕症ノ脚氣患者三名アルヲ知リ同艦長ハ藥品及ヒビスケツト等ヲ與ヘ又白紋油需品等ヲ渡シタ)三十日午前尾崎ニ歸港セリ、(備考文)

高千穂ハ十七日尾崎ニ入り、後チ千早ハ日本丸ト共ニ交、一艦ツ、毎日△哨區ニ出テ、哨戒スルコト、ナリシカ、(日本丸ハ二十九日ヨリ香港丸ト共ニ北海ニ向ヒ出動セ)十九日毛利高千穂艦長ハ、上村司令長官ヨリ、二十日柳樹屯ニ向ヒテ宇品ヲ發シ、二十一日午前七時頃六連島附近ニ達スヘキ騎兵第二旅團長載仁親王殿下ノ御乗船因幡丸ヲ、同島附近ヨリ裏長山列島マテ護衛スヘキノ命ヲ受ケ、二十一日早朝竹敷ヲ發シテ、同日午後四時二十二分六連島錨地ニ達シ、

因幡丸ヲ嚮導シテ同五十五分同地ヲ發シ、二十三日午後裏長山列島ニ著シ、爰ニ其ノ任務ヲ終リテ同夜同地ヲ出テ、二十五日午後竹敷ニ歸港セリ、然ルニ翌二十六日更ニ上村司令長官ヨリ、對州、釜山間ニ於ル海底電線中、小茂田ヨリ約三十海里ト釜山ヨリ數海里ト二箇所ニ故障ヲ生シ、之カ修理ノ爲メ大北電信會社汽船「パシフヰツク」號、前日午後上海沖ヲ出帆セシ由ニ付、同修理了迄同船ヲ監視スヘシ、トノ命ヲ受ケ、二十七日出港シ、二十九日午前八時三十分頃ニ至リ、(二十七、二十八日ノ兩夜ハ)同船ノ加德島外洋浦沖ニ碇泊セルヲ發見シ、之ヲ絶影島附近ニ移泊セシメタリ、然ルニ天候不良ノ爲メ、同船ハ九月一日辛ウシテ其ノ作業ヲ開始シ、二日修理ヲ終ヘテ上海ニ向ヒシヲ以テ、高千穂モ亦同日竹敷ニ歸港セリ、是ニ於テ九月三日ヨリ、高千穂、對馬、千早ノ三艦交、海峽ノ哨艦ト爲リ、五日ニハ浪速モ上海方面ヨリ歸著シテ哨艦ニ加リ、八日ニハ瓜生司令官モ亦上海方面ノ任務ヲ遂ケテ、常磐、新高等ヲ率非尾崎ニ歸著セシヲ以テ、爰ニ第四戰隊ノ諸艦悉ク相合スルニ至レリ、(常磐ハ即日第二戰隊ニ復歸シ瓜生司令官ハ旗艦ヲ同艦ヨリ浪速ニ移セリ)而テ同日瓜生司令官ハ、上村司令長官ヨリ、第四戰隊ノ諸艦相互ニ交代シテ哨艦ノ任ニ當リ、(千早ノ監視千歲復歸セハ)三八二地點(沖ノ島ノ北東)ト四四一地點(沖ノ島ノ東二分ノ北二十海里ナリ)トノ間ニ游弋シ、沖ノ島望樓ヲ經テ艦隊及ヒ諸望樓トノ通信連絡ヲ取り、敵ニ對シテ警戒スルノ外、特ニ中立國船舶ノ行動ニ注意スヘキ旨ノ訓令ニ接セシヲ以テ、九日麾下ニ向ヒ左ノ命令ヲ發シタリ、

一、旅順方面ニ於ル彼我ノ狀況ハ依然異ル所ナシ

浦鹽ノ敵艦隊ニ就テハ其ノ後得ル所ナキモ「ボガツイイリ」ハ既ニ修理ヲ完成シタルノ報アリ

第十九、第十一、第十五、第十七、第十八艇隊ハ甲乙二隊ニ分レ一ハ鴻島大口灣間一ハ神崎若宮島間ノ線ヲ晝夜哨戒スルコト乙隊機密第五五四號ノ五ノ如シ

吳ノ一艇隊ハ下ノ關ヲ根據トシ夜間八角島沖ノ島間ニ在リテ警戒ス

三、第四戰隊（千歲復歸次第）ハ左ノ要領ニ依リ對州海峽ノ哨戒ニ任ス

(イ) 哨艦ハ敵ニ對シ警戒スルノ外殊ニ中立國船舶ノ行動ニ注意シ疑ハシキモノヲ發見セルトギハ相當ノ手段ヲ執リ拿捕ス可キ者ニ在リテハ直ニ其ノ旨ヲ在尾崎先任旗艦ニ報告シ命ヲ受ケ行動スヘシ但場合ニ依リ臨機處置スルコトヲ得

(口) 哨區八三二地點ト四四一地點間トシ交互一艦宛之ニ任シ常ニ此ノ間ヲ巡邏シ時

時沖ノ島望樓ヲ經テ先任旗艦及ヒ諸望樓ト通信連絡ヲ取ルコトニ注意スヘシ

(ハ) 緊急信號地區信號其ノ他諸規定等ハ從來ノ通りニシテ變更セラレタルコトナシ

四、哨艦順序及七哨艦勤務日數

以下倣之

新	千
高	歲
	哨
	哨
哨	歸
哨	

哨艦勤務日數ハ二日間宛トシ正午第三八二地點附近ニ於テ交代スルモノトス

五、哨艦ハ常ニ總艦ニ點火シアルヘシ尾崎在泊中ノ艦中圓罐式ノ者ニ在リテハ常ニ十海里

ニ對スル汽力ヲ保蓄シ其ノ他ハ全速力ニ對スル汽罐ヲ埋火シ他ハ點火用意ヲナシ在泊中

可成機關部ノ手入ヲナスヘシ

六、哨艦ノ服膺ス可キ事項ハ四戰機密第一八〇號命令(編者曰ク本篇第
八章第一節參照)ニ依ルヘシ

七、哨艦哨戒任務ヲ終リ歸來スルニ當リテハ千歳ハ直接尾崎ニ入り其ノ他ハ竹敷ニ至リテ

炭水ヲ補充シタル上尾崎ニ回航ス可シ（四戰機密第
二二五號）

又別ニ麾下ヨリ二艦ヲ出シ、其ノ一隻ヲシテ竹邊灣ト松島トニ於テ、電線連絡ノ作業ニ從事セシメ、他ノ一隻ヲシテ其ノ掩護艦ト艦隊トノ通信連絡ヲ取ラシムヘキ旨ヲ命セラレタルヲ以テ、同日更ニ左ノ命令ヲ發セリ、

一、沖繩丸ハ竹邊灣及ヒ松島ニ電信連絡ヲ設ケンカ爲メ左ノ豫定日數ニ依リ作業セントス
同船ハ諸準備ノ爲メ今日竹敷ニ入り明日尾崎ニ回航シ同日午後二時作業開始ノ爲メ出港
ス其ノ速力ハ約十節半トス

(イ) 竹邊灣附近ニテ浦鹽線搜索

豫定日數 三日間

(口) 竹邊灣ニテ同船陸揚

同
二日間

百二十

(ハ) 竹邊灣以南線ノ修理

同

不詳蓋二三日
以内ナラン

(ニ) 松島竹邊灣布設及ヒ松島ニテ陸揚及ヒ陸線建設

同

三四日間

二、第四戰隊(千歳復歸次
第之ヲ加フ)ハ左ノ要領ニ依リ交互二艦宛沖繩丸作業中ノ掩護ニ任ス而テ此ノ
任務中沖ノ島方面ノ哨艦ハ特記セル場合ノ外中止ス

(イ) 一艦ハ沖繩丸ノ直接掩護

(ロ) 他ノ一艦ハ直接掩護艦ト尾崎ニ在ル先任旗艦トノ通信中繼

但竹邊灣ヨリ尾崎ニ直通ノ連絡出來上リ次第此ノ中繼艦ヲ廢スルト同時ニ沖ノ島哨艦
任務ヲ復興ス

三、中繼艦ノ位置

三九〇地點附近(編者曰ク蔚山港チクメチフ岬ノ東
微北二分ノ一北二十六海里ナリ)

四、掩護艦及ヒ沖繩丸ノ行動ヲ概定スル左ノ如シ

(一) 直接掩護艦ハ日没迄適宜警戒掩護ヲナシ日没後ハ適宜南下シ天明後掩護位置ニ復
スルモノトス

(二) 沖繩丸ハ夜間其ノ他陸上事業繼續中ハ適宜ノ位置ニ假泊スル等臨機直接掩護艦ノ
命ニ依リ行動スヘシ

(三) 中繼艦ハ日没後ヨリ適宜南下シ翌天明其ノ定位置ニ復スルカ如クシ晝間無線電信
有效距離以外ニ在ルトキハ適宜北進シ又ハ南進シテ連絡ヲ遂行スルヲ要ス

五、沖ノ島哨艦ノ現任務ヨリ此ノ任務ニ移ルノ動作現哨艦ノ次ナル二艦(對馬
浪速)ハ沖繩丸掩護

艦トナリ出港シ艦質上速力遅キモノハ中繼艦トナリ速キモノハ直接掩護艦トナリ順次其
ノ位置ニ就キ前記ノ行動ヲ取ルヘシ沖ノ島現哨艦タル高千穂ハ十一日天明哨處ヲ發シ根
據地ニ歸來セシム(即チ對馬ハ直接掩護艦トナリ沖繩丸ヲ率テ十日午後二時尾崎ヲ出港
シ浪速ハ中繼艦ト爲リ同日午後七時出港シ翌天明三九〇地點ニ至ル)

六、掩護艦ノ交代

此ノ勤務ニ對スル次順ニ當レル二艦ハ此ノ任務ニ對スル第一順出發後第三日目(十日ニ第
二順ハ十三日)午後各自適宜根據地ヲ發シ第四日目早朝各指定位置ニ達スル如クスヘシ但掉
尾崎沖ヨリ可成三九〇地點ニ向ヒ夫ヨリ北上スルノ航路ヲ取ランコトヲ要ス勤務終了歸
來スヘキ艦ハ日没其ノ位置ヲ離レ南下歸途ニ就キ翌日尾崎ニ入ルモノトス歸港艦ハ新來
掩護艦ノ航路ヲ避クルノ航路ヲ採リ其ノ夜ノ沖繩丸ノ所在ヲ新直接掩護艦ニ通信スヘシ
浪速中途ニシテ入渠ノ爲メ中繼艦ノ位置ヲ去ル場合ニ在リテハ新高ハ之ニ代リ後チ直接
掩護艦タル千歳ノ中繼艦トナリ同艦ト同時期ニ歸港ス可シ

七、竹邊灣ト尾崎トノ連絡直通シ中繼艦ヲ廢シ沖ノ島哨艦ヲ復興セル場合ニ在リテハ浪速
高千穂ハ交代シテ規定通り沖ノ島哨艦任務ニ服シ他ノ三艦ヲ以テ交互沖繩丸ノ直接掩護
ニ任セシム但場合ニ依リ其ノ一艦ヲ臨機沖ノ島哨艦ニ就カシムルコトアル可シ

八、報告

沖繩丸掩護艦ハ哨艦同様毎八點鐘ニ異狀ノ有無ヲ報シ尙直接掩護艦ハ沖繩丸事業進歩ノ

程度及ヒ其ノ夜居ルヘキ沖繩丸ノ位置ヲ日々極簡單ニ報告シ又常ニ連絡ヲ取り居ルヘシ但無線電信ハ極テ必要ナル事項以外ニ使用セサルコトニ注意スヘシ

九、對敵動作

敵ヲ發見セハ直接掩護艦ハ緊急ヲナスト同時ニ沖繩丸ヲシテ避敵セシメ自己モ中繼艦ニ合スル如ク行動スヘシト雖モ多クノ場合此ノ方面ニ於ル遭敵ハ優勢ナルヘク頼ム可キハ速力ノ彼ニ勝レルアルノミ依テ危險ト思料セハ一切他ヲ顧慮スルコトナク安全ヲ保チ得ル自由ノ行動ヲ取ル等艦長ノ獨斷ニ委ス中繼艦ニシテ速力敵ニ劣ル者ニ在リテハ敵ノ勢力ニ應シ擅ニ北進セス臨機行動シテ主隊ノ來會ヲ待ツ等是亦艦長ノ獨斷ニ委ス

沖繩丸ハ常ニ掩護艦ノ緊急ニ注意シ對敵ニ際シテハ掩護艦ノ命ナキ限り其ノ場合ニ應シ獨斷行動シテ避敵ニ一切ノ手段ヲ盡スヲ要ス

十、此ノ任務終了次第沖ノ島哨艦任務ヲ四戰機密第二二五號命令ノ如ク實行シ浪速ヲ哨艦任務ヨリ削除ス

十一、沖繩丸今回ノ作業中對馬ハ信號員一名ニ發光信號燈一組手旗等ヲ携帯シ十日以後沖繩丸ニ乗組マシム可シ

(注意) 安平丸ハ蔚山望樓ヘノ用務ヲ以テ來十一日未明尾崎ヲ發シ蔚山ニ至リ直ニ歸港ノ豫定ナリ

千歲ハ明日若クハ十一日尾崎歸港ノ豫定(四戰機密第二二六號)

然ルニ二十日ニ至リ、同司令官ハ上村司令長官ヨリ、千歲ヲ第一艦隊ニ復歸セシムヘキコト、浪速ヲ十三日迄ニ便宜佐世保ニ回航セシメ、入渠修理セシムヘキコト、千歲ヲ暫ク同司令官ノ指揮下ニ入ラシムヘキコトノ訓令ヲ受ケ、同日又麾下ニ向ヒ左ノ如ク命令セリ、

一、千歲ハ第三地點(編者曰ク裏長山列島ナリ)ニ行クコト、ナレリ浪速ハ入渠ノ爲メ十二日没中繼艦任務地ヲ發シ對州ノ東ヲ通過シテ佐世保ニ直航シ十三日午前四時水雷艇哨戒線ニヲ横過シ十一時佐世保著ノ豫定浪速當方面不在中第四戰隊擔當任務ニ千歲ヲ加ヘラル

二、右ニ依リ四戰機密第二二五號第四戰隊命令中ニ在ル千歲ニ關スル事項ヲ總テ削除シ浪速不在中ノ千歲哨艦順序ヲ新高ノ次ニ入ル又四戰機密第二二六號第四戰隊命令中ニ在ル千歲ニ關スル總テノ事項ヲ削除シ從テ同命令中變更スルコト左ノ如シ

第六項後段

浪速十二日日没入渠ノ爲メ中繼艦ヲ去ルヲ以テ新高ハ十二日午後尾崎ヲ發シ十三日天明三九〇地點ニ達シ對馬ノ中繼艦トナリ尙十四日天明ニハ對馬ニ代リ直接掩護艦トナルヘシ

千歲ハ十三日午後尾崎ヲ發シ十四日天明第三九〇地點ニ達シ新高ノ中繼艦トナル可シ

第七項

浪速不在中浪速ノ代リニ千歲ヲ入ル

三、本職當方面不在中第四戰隊ノ指揮及ヒ擔當任務ニ關スルコトハ第四戰隊先任艦長ノ命

直接掩護ニ服セシム

以下此ノ順序ヲ繰返ス

ノ陸揚ケ工事終了ヲ以テ沖繩丸掩護ニ當スル今回ノ任務ハ終了ス（二八號ノ二ノ

第十章 第三節 第四戰隊及ヒ千早ノ行動

テ、沖繩丸ヲ率非テ松島ヲ發シ、釜山沖ニテ同艦ト分レ、二十五日午後竹敷ニ歸航セシカ、敵艦隊出現ノ狀ナキヲ以テ、同艦ハ更ニ二十八日沖繩丸ノ技手以下十三名ヲ便乗セシメ、未タ完了セサル電信線竣成ノ爲メ、先ツ松島ニ向ヒ、二十九日早朝之ニ達シテ同地ノ工事ヲ終ヘ、三十日竹邊灣ニ回航シテ陸上線接合工事ヲ竣成シ、十月一日竹敷ニ歸港シ、即日命ヲ受ケテ入渠修理ノ爲メ佐世保ニ向ヒ、又笠置ハ入渠工事ヲ終ヘ、同日佐世保ヨリ歸港セリ、是ニ於テ上村司令長官ハ當分ノ内笠置ヲ瓜生司令官ノ指揮下ニ置キ、千早ヲ哨艦ヨリ除キタルヲ以テ、瓜生司令官ハ二日麾下ニ向ヒテ此ノ旨ヲ令シ、哨艦順序ヲ高千穂笠置、對馬、新高ト爲セシカ、七日ニ至リ笠置ハ臨時第四戰隊ニ編入セラレ、瓜生司令官ノ旗艦ト指定セラレシヲ以テ、同日瓜生司令官ハ左ノ命令ヲ發シタリ、

一、笠置ヲ臨時第四戰隊ニ編入シ旗艦ニ指定セラレタルニ依リ、明八日午前十時幕僚及ヒ増加員ヲ率非同艦ニ移乘ス

二、笠置ヲ旗艦トナスト同時ニ第四戰隊艦隊區分ヲ左ノ如ク定ム

第一小隊 (一) 笠置 (二) 新高 (三) 對馬

第二小隊 (四) 高千穂 (五) 浪速

但移乘迄ハ單ニ笠置ヲ五番艦トス

三、第四戰隊擔任ノ哨艦勤務ハ左ノ四艦ヲ以テ左ノ順序ニ依リ續行セシム

對馬 新高 高千穂 浪速

對馬ハ入渠及ヒ小修理ノ爲メ明八日哨區ヨリ佐世保ニ直航セシム(四戰機密第(二五一號))

又瓜生司令官ハ、笠置第四戰隊編入中ニ於ル同戰隊戰策(戰策ハ第一部第二篇第一章第三節)ノ聯合艦隊ノ戰略及ヒ戰策ニ出ツ一部ヲ、左ノ如ク變更追加セリ、

(イ) 第二項ノ末段追加

第一小隊ノ快速力ヲ利用ス可キ場合ニ遭遇セハ本職ハ第一小隊ヲ直率シ第二小隊ハ先任艦長ノ指揮下ニ適宜ノ行動ヲ執ラシム此ノ場合ニ於テハ第二小隊旗ト否信旗トヲ掲ケテ之ヲ指示スルヲ例トス

(ロ) 第四項艦隊區分ヲ左ノ如ク改正ス

(一) 笠置 (二) 新高 (三) 對馬 (四) 高千穂 (五) 浪速
第一小隊 第二小隊

(ハ) 第六項改正

戰鬪速力 十五節

但第一小隊單獨行動ノトキ 十七節

航行速力 十節

半速 八節

微速 五節

舵角 笠置ノ十五度

(三) 第七項追加(此ノ追加ハ笠置在隊ノ)

(ハ) 發射距離(測定)信號

戰團中單ニ計數信號ノミヲ掲クルトキハ各艦各自ノ發射距離ヲ示スノ信號ニシテ旗艦ニ倣ヒ之ヲ揚降スルモノトス尙決定距離ヲ得タル艦ハ之ヲ掲揚シテ他艦ニ示スヲ得又他艦ノ發射距離ヲ知ランコトヲ要スル艦ハ疑問旗計數旗ヲ連掲スヘシ之ヲ見タル艦ハ其ノ時ニ於ル各自ノ發射距離ヲ信號スルモノトス

但目標ハ信號セサルヲ例トス

〔例〕

四千米突ヲ示ストキ



(四戰機密第
二五二號)

此ノ日新高入渠修理ヲ終ヘテ尾崎ニ歸港シ、瓜生司令官ハ八日其ノ旗艦ヲ浪速ヨリ笠置ニ移シ、對馬ハ同日入渠修理ノ爲メ、哨所ヨリ直ニ佐世保ニ向ヘリ、十日瓜生司令官ハ、上村司令官ヨリ、獨逸皇族カール、アントン、フオーヘンツオルレン殿下、十六日午前十時頃門司發阿波丸ニテ戰地ニ向ヒ出發セラル、ニ付、新高ヲ十五日中ニ門司ニ回航セシメ、航路速力等ニ關シテハ同船監督官海軍少佐田中英太郎ト協議セシメ、門司ヨリ大連灣ニ至ル間ノ護衛嚮導ニ任セ

シムヘキノ訓令ヲ受ケシヲ以テ、十一日此ノ旨ヲ麾下ニ令シ、尙新高ノ服務スヘキ十四日ヨリ十六日ニ彌ル哨艦ハ、旗艦笠置ヲシテ代ヲシムルコト、爲セリ、又翌十二日ニハ上村司令官ヨリ左ノ訓令ヲ受ケタリ、

一、本職ハ聯合艦隊司令長官ヨリ左ノ電報ヲ受領ス

浦鹽斯德結氷ノ期迫レルニ依ルニヤ近來上海膠州灣等ヨリ浦鹽斯德ニ密輸入ヲ企圖スル中立國商船アルノ情報ニ接スルコト頻々タリ而テ夜中大膽ニモ對馬海峽ヲ北過セントスルモノアルカ如シ貴官ハ爲シ得ハ其ノ麾下兵力ヲ無線電信通達距離外ニ分散セサルノ範圍内ニ於テ二等巡洋艦以下ヲ適當ニ配備シ是等密航船ニ對スル監視拿捕ニ力メラレタシ宗谷海峽津輕海峽方面ハ香港丸日本丸及ヒ津輕海峽警備艦ニ委任シテ事足ルト信ス當方面ヨリモ膠州灣ノ前面ニ監視艦ヲ發シタキ企圖ヲ有スレトモ目下大沽方面芝罘方面上海方面ニ對スル監視ト必要ナル旅順口監視ノ爲メ巡洋艦ノ隻數足ラス未タ之ヲ實行スルニ至ラス

二、貴官ハ麾下艦ヲシテ毎夕午後六時頃二八一地點(編者曰ク豆酸崎ノ南四)附近ヲ發シ一八四八二地點(編者曰ク見島ノ北々西二)ニ一八四〇九地點(編者曰ク蔚山港チクメネフ岬ノ)ノ方向ニ向ヒ翌天明頃ヨリ再東水道ニ復歸シ爾後同運動ヲ繰返シ主トシテ密航船舶ノ取締ニ從事シ兼テ浦鹽艦隊ノ南下ヲ監視セシムヘシ但從來實施ノ哨艦勤務ハ右實施ノ日ヨリ廢止ス

三、千早ハ蔚崎竹濱及ヒ松島望樓ニ於ル作業ヲ了リ次第貴官ノ指揮下ニ入ラシム(乙隊機密第
六五五號)
是ニ於テ瓜生司令官ハ即日左ノ命令ヲ發シ、以テ監哨方法ヲ改正セリ、

一、第四戰隊擔任ノ當海峽監哨ノ方法ハ左ノ要領ニ依ル可キ命令ヲ受領セルヲ以テ監哨方
法ヲ本命令ノ如ク變更シ本日ヨリ實行ス

第二艦隊司令長官命令受領

(イ) 麾下二艦ヲシテ毎日午後六時頃二八一地點附近ヲ發シ一ハ四八二地點ニ一ハ四〇
九地點ノ方向ニ向ヒ翌天明頃ヨリ再東水道ニ復歸シ爾後同運動ヲ繰返シ主トシテ密航
船舶ノ取締ニ從事シ兼テ浦鹽艦隊ノ南下ヲ監視セシム可シ

(ロ) 千早ハ蔚崎竹濱及ヒ松島望樓ニ對スル任務ヲ終リ次第貴官ノ指揮下ニ入ラシム
(千早ハ安平丸ト同行シ明十三
日出港シ十五日頃歸港ノ豫定)

二、哨艦ハ左ノ順序ニ從ヒ勤務ニ服シ哨艦數四艦以上トナルニ及ンテ二日宛勤務ノ常態ニ
復ス其ノ行動附圖ニ示スカ如シ(編者曰ク附圖ハ別冊附
圖ニ掲クルヲ以テ略ス)

哨艦 日割	浪速	笠置	高千穂	哨艦數增加スレハ哨艦ヨリ除ク			
				A	B	歸	歸
12	B	A	歸				
13	B	A					
14	歸	B	A				
15		歸	A				
16			B				
17			歸				
18	A						
19	B		A				
20	歸		B				
21			歸				
22							
23							

以下之ニ倣ヒ哨艦増加スレハ從
テ其ノ順序ヲ繰下ケ減スレハ次
順艦ヲ以テ繰上クルモノトス

哨艦 日割	浪速	笠置	高千穂	哨艦數增加スレハ哨艦ヨリ除ク			
				A	B	歸	歸
12	B	A	歸				
13	B	A					
14	歸	B	A				
15		歸	A				
16			B				
17			歸				
18	A						
19	B		A				
20	歸		B				
21			歸				
22							
23							

二日宛勤務ノ場合

A哨艦ハ午後一時根據地ヲ發シ午後六時二八一地點ニ達シA哨艦トナリ翌日午後六時

二八一地點ヨリB哨艦トナリ其ノ翌日根據地ニ歸港ス

三日間哨艦ノ間ハ同哨區ヲ二日間往復スルコト、ナル

三、哨艦定時ニ於ル異狀有無ノ報告ハA Bノ順序ニ依ルヘシ

四、哨艦天明位置附近ニ在リテ敵ト遭遇スル場合ニ於テハ甚タ危險ナルヲ銘記シ天明ニ於

テハ殊ニ十分ノ汽釐ヲナシ見張ヲ嚴ニシ必要ノ場合ニハ臨機避敵ノ覺悟アルヲ要ス其ノ

他先ニ指示セル第四戰隊命令第一八〇號(編者曰ク本篇第八
章第一節ニ在リ)ニ依リ注意スヘシ

天未タ全ク明ケサルニ往々哨兵ヲ撤去スルノ艦アリ哨兵撤去ハ天明後ニ於テスルコトニ

注意ス可シ(四戰機密第
二五五號)

同日千早ハ土村司令長官ヨリ、安平丸ヲ護衛シテ便宜出港シ、蔚崎、竹濱(竹邊灣ナリ)及ヒ松島(鬱陵島ナリ)

ニ到リテ望樓用諸材料ノ陸揚ケヲ了シ、急速尾崎ニ歸港シテ、瓜生司令官ノ指揮下ニ入ルヘキ

訓令ヲ受ケタルヲ以テ、十三日安平丸ト共ニ尾崎ヲ發シ、十四日ニハ松島、十五日ニハ竹濱、十六

日ニハ蔚崎ノ荷揚ケヲ終リ、十七日午後竹敷ニ歸港シ、(備考文書參照)對馬モ此ノ日ヲ以テ佐世保ヨリ尾崎ニ歸著セリ、又獨逸皇族御乗船護衛ノ任務ヲ命セラレタル新高ハ、十四日午後尾崎ヲ發シテ、十五日午前門司ニ著シ、十六日午前九時五十分阿波丸ヲ護衛シテ出港シ、大連灣ニ向ヘリ、(同艦ハ十五日滿艦飾ヲ行ヒ殿下ノ下ノ關御著ノ際ニ皇禮砲ヲ發チ十六日モ午前八時ヨリ出港前マテ滿艦飾ヲナセリ而テ十六日午後一時二十分頃玄海灘ニテ第二戰隊ニ會シ同戰隊ハ四時三十分迄同行セリ又本行動中夜間ハ新高ノミ航海諸燈ヲ出シ阿波丸ハ前檣燈及ヒ舷燈ノミ出サシムルコトハナシ十八日大連ニ著シ更ニ滿艦飾ヲ行ヒ同日殿下陸ノ際ニハ皇禮砲ヲ發セリ備考文書ニ)同日瓜生司令官ハ、哨艦順序ヲ左ノ如ク改正セリ、

新	千	對	浪	高	笠	哨艦 月 日
高	早	馬	速	穂	置	月十 16
			A	B	歸	17
			A	B		18
		A	B	歸		19
	A	B	歸			20
	B	歸			A	21
歸	歸			A	B	22
			A	B	歸	23
		A	B	歸	哨艦ヨリ除ク	24
	A	B	歸			25
A	B	歸				26
B	歸			A		27
歸			A	B		28
		A	B	歸		

以下之ニ倣フ但事故アリ哨艦ニ出ツル能ハサル艦ヲ生スルトキハ次順艦ハ繰上ケ勤務スルモノトス

尋テ十八日瓜生司令官ハ、上村司令長官ヨリ左ノ訓令ニ接セリ

一、密航船舶ノ監視ニ關シテハ從來相當ノ方法ヲ講シアルニ關セス近來仕向地ヲ北米中立港ニ擬シ朝鮮海峽ヲ經テ日本海ニ入り機ヲ看テ浦鹽ニ向フ船舶増加スルノ形迹アルカ如シ貴官ハ更ニ部下軍艦一隻ヲ出シ第二二〇地點（編者曰ク古志岐島ノ西北西三十五海里ナリ）附近ヨリ第一九

○地點（編者曰ク豆酸崎ノ西微南四ノ附近ノ間ヲ巡航シ中立國船舶ノ監視ヲナサシムヘシ分ノ一南五十二海里ナリ）

二、中立國船舶ハ其ノ國旗ヲ尊敬スヘキ義務アリト雖モ其ノ舉動ノ怪シムヘキモノニアツテハ毫釐ノ假借ナク之ヲ處分スルニ非サレハ十分目的ヲ達スルコト能ハサルヘシ哨艦ノ勤務ニ服スモノハヨク此ノ意ヲ體シ怪シムヘキ中立國船舶ニ遭遇セハ便宜最寄ノ港灣ニ引致シ嚴密ナル検査ヲ行フ等臨機ノ處置ヲ行フコトニ留意スヘシ

三、哨艦勤務ニ充ツルカ爲メ春日丸ヲ貴官ノ指揮下ニ屬ス（編者曰ク春日丸ハ水雷母艦ニシテテ六日ヨリ機械水雷落下装置及ヒ無線電信取附工事ニ著手シ八日）（乙隊機密第）ヨリ十一日迄入渠シ二十日出港二十一日尾崎ニ歸港セシモノナリ）（六五八號）

此ノ訓令ニ基キ、即日瓜生司令官ハ、更ニ麾下ニ向ヒ左ノ命令ヲ發シタリ

一、近來仕向地ヲ北米中立港ニ擬シ朝鮮海峽ヲ經テ日本海ニ入り機ヲ見テ浦鹽ニ向フ船舶増加スルノ形跡アルカ如シト云フ依テ本隊擔任ノ現行哨區ニ加フルニ更ニ第二二〇地點

第一九〇地點間峭區ヲ設ケ一艦ヲシテ之ニ當ラシム可キノ命令ヲ受領セリ

二、新設ノ哨區ニ當ル哨艦ヲ〇哨艦ト稱シ哨艦任務ノ爲メ新ニ麾下ニ屬セシメラレタル春日丸ヲシテ明十九日ヨリ當分單獨此ノ勤務ニ當ラシム

三、A B 哨艦勤務ノ方法ハ現行ノ儘ニシテ變スル所ナシ

但當分笠置ハ哨艦勤務ヨリ除カス

四、千早ハ來二十一日午前六時四〇九地點ヨリ佐世保ニ直航シ緊急ナル修理完結次第當根據地ニ歸來スヘシ

五、C哨艦哨戒ノ方法左ノ如シ

(イ) C哨艦ハ主トシテ夜中浦鹽ニ向ヒ海峡ヲ通過セントスル潛航船舶ヲ日没前ニ於テ監視スルノ任務ヲ有ス依テ毎日正午哨區ニ達シ適宜哨區ヲ巡航シ午後五時二二〇地點ヲ發シ午後七時一九〇地點ヨリ夜間ノ假泊地ニ至リ翌天明後假泊地發哨區ニ就クモノトス

(ロ) 假泊地ハ廣浦島若クハ世尊島附近ニ於テ適宜選定スヘシ但出來得レハ無線電信所ト連絡ヲ保チ得ル所ナランコトヲ望ム

(ハ) C哨艦ハ可成和炭ヲ使用スヘシ

(ニ) 規定時間ニ於ル異狀有無ノ報告ハ毎八點鐘後一時間目ニ於テナスヘシ

(ホ) 炭水糧食補充ノ必要ニ際シテハ認許ヲ得テ當根據地ニ來リ補充次第更ニ哨區ニ就クヘシ

六、C哨艦ハ第四戰隊各艦ト同所ニアルモ當直艦勤務ヲナサシメス(四隊機密第二五四號)

越エテ二十二日、新高ハ大連灣ヨリ歸著セリ、同日瓜生司令官ハ、上村司令長官ヨリ、松島、竹濱及ヒ蔚崎望樓ノ増築工事ニ從事中ノ諸員引揚ケノ爲メ、二十四日午前松島ニ著スル様、麾下ノ一艦ヲ派出スヘシ、トノ訓令ニ接セシヲ以テ、對馬ヲシテ之ニ當ラシメ、(對馬ハ二十三日四日ニハ松島竹濱ノ建設諸員二十五日ニハ蔚崎ノ建設諸員ヲ各收容シテ同日夕刻竹敷ニ歸港セリ)二十三日ニハ、哨艦勤務日割變更ニ關スル左ノ命令ヲ發シタリ、

一、哨艦勤務日割ヲ一二變更スルコト左表ノ如シ其ノ以後ニ關シテハ追テ指示ス可シ

但AB哨艦ニシテ勤務ニ服スル能ハサル艦ヲ生セル場合順次線上服務スルコトハ前命令ノ通りトス

艦名	II	割	笠置	高千穂	浪速	對馬	千早	新高	春日丸
23				歸	B	松島行	A		C
24					歸		B	A	C
25	A						歸	B	C
26	B		A					歸	C
27	歸	B	A			C			歸
28		歸	B	A		C	佐世保		
29			歸	B		B		A	C
30	A					歸		B	C
31	B	A						歸	C
1	歸	B	A						C
2		歸	B	A					C

二、千早ハ來二十七日午前當根據地ヲ發シ正午C哨區ニ達シテC哨艦トナリ二十八日夕規定時間ニ哨區ヲ離レ佐世保ニ直航シ翌二十九日佐世保ニ入り艦底ノ塗換ヘ及ヒ緊急ナル修理ヲ結了シ次第當根據地ニ歸來スヘシ

三、春日丸ハ二十七日夕規定時間ニ哨區ヲ離レ翌朝當根據地ニ歸來シ二十九日午前根據地ヲ發シテC哨艦トナルヘシ追テC哨區勤務艦ハ二艦ニ増加シ一艦宛交互交代勤務セシムルノ豫定ナリ(四隊機密第二五四號ノ五)

而テ同日瓜生司令官ハ、千早艦長ニ向ヒ二十七八日ノ哨艦勤務ヲ終リ次第佐世保ニ直航シ、翌二十九日同軍港ニ入りテ入渠シ、應急修理ヲ爲スヘキ旨ヲ命シタリ、尋テ十一月一日、上村司令長官ヨリ左ノ訓令ヲ受ケタリ、

一、香港領事ヨリノ電報ニ依レハ露國雇入英艦「ボートリ」號石炭ヲ搭載シ浦鹽ニ向ヒ去十月三十日同港ヲ出發セリト云フ貴官ハ現在哨艦ノ外其ノ麾下ノ二艦ヲ出シD及ヒE哨艦トナシ左ノ要領ニ從ヒ行動シ同船ノ監視ニ任セシムヘシ但右二艦派遣中便宜C哨艦ヲ廢スルコトヲ得

一、D哨艦ハ三日夕刻二三八地點（編者曰ク神崎ノ西二分ノ北二十六海里ナリ）附近ヲ發シ三九二地點（編者曰ク外串ノ東南東十九海里ナリ）ニ向ヒ十節ノ速力ニテ西水道ヲ北方ニ航シ翌天明ヨリ南航ノ途ニ就キ爾後連續同行動ヲ繰返シ六日午後尾崎灣ニ歸港ス

二、E哨艦ハ三日夕刻二九八地點（編者曰ク見島ノ北々西四ノ南西八海里ナリ）附近ヲ發シ東水道ヲ北方ニ航シ翌天明四六六地點（分ノ三三三三九海里ナリ）附近ニ達シ其ヨリ南航ノ途ニ就キ爾後連續同行動ヲ繰返シ六日午後尾崎ニ歸港ス

三、D E哨艦行動中A哨艦ノ毎日天明ノ位置ヲ四九七地點（編者曰ク見島ノ北ノ西八海里ナリ）附近ニ改

二、香港丸及ヒ日本丸當港來著次第兩艦ヲ貴官ノ指揮下ニ入ラシム（乙隊機密第六七七七號）是ニ於テ瓜生司令官ハ、翌二日左ノ如ク麾下ニ令セリ、

一、露國雇入英艦「ボートリ」號石炭ヲ搭載シ浦鹽ニ向ヒ去十月三十日香港ヲ出發セリトノ情報ニ依リ現在哨艦ノ外麾下ノ二艦ヲ出シD及ヒE哨艦トナシ左ノ要領ニ從ヒ同船ノ監視ニ任セシムヘキ第二艦隊司令長官ノ訓令ヲ受領セルヲ以テD及ヒE哨艦ヲ命セラレタル艦ハ來三日適宜根據地ヲ發シ該要領ニ從ヒ行動スヘシ

一、D哨艦ハ三日夕刻二三八地點附近ヲ發シ三九二地點ニ向ヒ十節ノ速力ニテ西水道ヲ北方ニ航シ翌天明ヨリ南航ノ途ニ就キ爾後連續同行動ヲ繰返シ六日午後尾崎灣ニ歸港ス

二、E哨艦ハ三日夕刻二九八地點附近ヲ發シ東水道ヲ北方ニ航シ翌天明四六六地點附近ニ達シ其ヨリ南航ノ途ニ就キ爾後連續同行動ヲ繰返シ六日午後尾崎ニ歸港ス

三、D E哨艦行動中A哨艦ノ毎日天明ノ位置ヲ四九七地點附近ニ改ム

二、十一月二日以後ノ哨艦順序ヲ左表ノ如クシ千早春日丸ヲ以テC哨艦ニ專任シD E哨艦任務結了後ハ笠置以外ノ六艦ヲ以テA B哨艦任務ニ服セシム

哨艦順序表

艦名	日割													備考
	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三		
對馬	A	B	歸			A	B	歸			A			以下七日以後ノ順序ニ依リ哨艦勤務ニ服スル艦ハ順次線上クルモノトス
高千穂	歸	A	B	歸			A	B	歸			A		

[illegible]

三、哨艦ノ服膺スヘキ事項ハ 四戰機密第二五四號命令第四項ニ依リ A B C 哨艦勤務ノ要領
ハ從來施行シ來リタル所ニ依ル

四、D E 哨艦服務中ハ 毎八點鐘ニ於テ報告スヘキ異狀ノ有無ハ A B D E ノ順序ニ於テスルヲ例トシ C 哨艦ハ現行ノ通り 毎八點鐘後一時間目ニ於テナスヘシ

五、春日丸ハ三日夕哨區ヲ離レ佐世保ニ直航シ同所ニ於テ炭水ヲ充實シ七日早朝同所ヲ發シ直接哨區ニ就クヘシ

千早ハ四日早朝佐世保ヲ發シ直接E哨區ニ就クヘシ

六、C 哨艦ハ歸港ノ前日夕哨區ヲ離レ早朝根據地ニ歸港シ更ニ哨區ニ就クノ日ハ正午迄ニ哨區ニ達スルカ如ク適宜根據地ヲ發スルモノトス

七、E 哨艦ハ突然敵艦ニ遭遇スルノ危険ナキヲ以テ臨機商船ニ追及シ得ルノ程度ニ汽釀シ夜間ハ廣浦島附近ニ假泊スヘシ又成ルヘク和炭ヲ使用スヘシ

八、六日以後B哨艦ノ歸航路ヲ左ノ如ク變更ス午前六時四〇九地點（編者曰クチクメネフ岬ノ東二分ノ一南三十三分ノ一ニ在リ）ヨリ二八六地點（編者曰ク韓崎ノ西北西四十分ノ三北十四海里ナリ）ニ向ヒ夫ヨリ根據地ニ歸港ス

九、A 哨艦ノ根據地發ヲ單ニ午後ト改ム（四戰機密第二六九號）

本命令ニハ附圖二葉ヲ添フ（附圖ニ別冊掲ク）

乃チ笠置及ヒ新高ヲ三日ヨリ五日迄増派シテ、五艦ヲ以テ監視スルコト、ナシタルナリ
 (千早ハ修理ヲ了リ四日佐世保ヲ發シ直ニ五日六日C哨區勤務ニ服シ七日尾崎ニ歸港ス)然レトモ遂ニ異狀ナク九日ニ至リシニ、瓜生司令
 官ハ上村司令長官ヨリ左ノ訓令ヲ受ケタリ、

向後ノ行動上此ノ際各艦艇ニ相當ノ修理ヲ施シ置クノ必要ヲ認ムルニ付貴官ハ第四戰隊各艦ノ内修理施行ノ必要アルモノヲ一隻宛竝ニ香港丸日本丸ノ内一隻ヲ交互ニ佐世保軍港若クハ長崎ニ回航セシメ二週間ヲ出デサル範圍内ニ於テ修理ヲ爲サシムヘシ

是ニ於テ瓜生司令官ハ、尾崎ニ在ル各艦ノ艦長、機關長ヲ召集シテ、今後約六箇月間ノ行動ニ對シ、戰鬥力上緊要トスル修理ニ關シテ、各艦ノ現狀諮問ノ結果、新高ハ煙突ノ支持脆弱ニシテ、過般竹敷修理工場ニ於テ、一旦假修理ヲ終リ居ルモ、尙強烈ナル風浪ニ際會セハ、頗ル不安ノ狀態ナルヲ以テ、此ノ際至急完全ノ修理ヲナスノ必要アルヲ認メ、第一著ニ佐世保ニ回航セシムルコトニ決シ、尙笠置ハ「コンデンサー」複底内飯等ニ修理ヲ施ス爲メ約二週間ヲ要シ、浪速、高

千穂モ「コンデンサー」ウ井ンドラス等ニ修理スヘキ箇所アリテ、約一週間ヲ要シ、對馬ハ修理ノ必要ナキヲ認メタルヲ以テ、十日先ツ新高ヲ佐世保ニ回航セシメタリ、(十一日ニ至リ同艦ハ爲スコトナリ十二日佐世保ヲ發シテ十四日横須賀ニ入り十六日ヨリ修理工事ニ著手セリ)

一面ニハ上海小田切總領事ヨリ、朝鮮海峽ヲ經テ浦鹽ニ向フノ噂アル諸威國汽船「ロドセ」號ハ九日正午出港セリ、トノ情報ヲ受ケシヲ以テ、之ニ備ヘンカ爲メ、同日左ノ命令ヲ發シタリ、

一、情報ニ依レハ浦鹽行ノ疑アル汽船「ロドセ」ハ昨九日正午上海ヲ出發セリ若シ當海峽ヲ通過スルモノトスレハ其ノ時機ハ左ノ如クナルヲ以テ十日夜通過スルモノトシテ警戒ヲ嚴ニセントス

「ロドセ」ノ速力

當海峽通過時日

十節トスレハ

十一日午前八時

十二節トスレハ

十一日午前一時

二、右ニ依リ哨艦一隻ヲ増加シB哨艦トナシ笠置ヲシテ十日十一日ノ兩日間之ニ當ラシメ尙此ノ間ノミA及ヒB哨艦ノ天明ノ位置ヲ變更スルコト附圖ノ如シ但笠置ハ十二日根據地ニ歸港セシム

三、十日夜水雷艇隊ハ全力ヲ以テ兩水道ヲ警戒ス

四、向後ノ行動上此ノ際相當ノ修理ヲ施サシメ置クノ必要アルモノニ限り一艦宛交代著手

セシムルノ方針ヲ以テ今日先ツ新高ヲ佐世保ニ回航セシム

香港丸日本丸モ同様交互修理ニ著手セシム依テ香港丸ハ十三日哨艦勤務ヲ終リ次第佐世保ニ回航シ二週間以内ニ於テ艦底ノ塗換ヘ及ヒ必要ナル修理ヲナシ根據地ニ歸來スヘシ

(注意) 今回ニ限り香港丸ヲ日本丸ノ次ニ哨艦タラシム(四戰機密第二六九號ノ二)

本命令ニハ附圖一葉ヲ添フ(附圖ハ別冊附圖ニ掲ク)

然ルニ翌十一日ニ至リ、瓜生司令官ハ上村司令長官ヨリ、成ルヘク香港丸、日本丸ニ多量ノ石炭ヲ滿載シ、圓島附近ニ至リ、聯合艦隊司令長官ノ指揮下ニ復歸セシムルコト、ナリタレハ、日本丸ハ哨艦終リ次第、佐世保軍港ニ回航セシメラレタシ、トノ電報ヲ受ケシヲ以テ、即日日本丸ニ此ノ旨ヲ傳ヘ、同時ニ香港丸ニモ亦聯合艦隊司令長官ノ指揮下ニ復シタルコト、及ヒ直ニ佐世保ニ回航シ、石炭滿載ノ上旅順方面ニ回航スヘキヲ命シタリ、尋テ十三日ニハ又上村司令長官ヨリ左ノ訓令ニ接シタリ、

一、貴官ハ左記諸件ノ任務ニ服セシムルガ爲メ麾下ノ軍艦ヲ派遣スヘシ

一、高崎山無線電信所通信試験施行及ヒ右係官ヲ同地ニ送致ノ件

二、リヤンコルド島(編者曰ク竹島ナリ)視察ノ件

三、松島及ヒ竹濱望樓員送致ノ件

右派遣期日ハ別ニ之ヲ令ス

二、哨艦監視法ヲ左ノ如ク改メ明後十五日ヨリ施行セシム貴官ハ之ニ關スル細則ヲ實施ノ

任ニ當ルヘシ

A B 哨艦ハ毎日天明ノ位置ヲ A ハ四四四四地點附近(編者曰ク四四四四地點ハ見島ノ西四分ハチクメネフ岬ノ東)トシ其ヨリ約十節ノ速力ニテ B ハ東水道ヲ通過シテ南下シ日没頃ヨリ引返シ連續同運動ヲ繰返シ浦鹽艦隊及ヒ密航船舶ノ監視ニ任スヘシ右ノ外 C F G 哨艦ノ運動要領ヲ左ノ如ク規定シ臨時必要ニ際シ命ニ應シ派遣スルヲ要ス

C 哨艦ハ天明ノ位置ヲ四四七地點附近トシ A 哨艦ト同一ノ要領ニ從ヒ運動ス

F G 哨艦ハ日没ノ位置ヲ F ハ二三二地點(編者曰ク二三二地點ハ古志岐島ノ西四分ノ三十四分ノ三北六)附近トシ晝間ハ同地點ヨリ G ハ北西約二十海里ノ間ニ在リテ通行船舶ノ想定航路ト竝行ニ遊弋シ夜間ハ適宜同海面ニ在リ或ハ附近便宜ノ地點ニ假泊監視スルコトヲ得

三、貴官ハ第一號ノ任務終了ノ後交互麾下ノ一艦ヲ佐世保若クハ長崎ニ派遣シ修理ニ著手セシムルコトヲ得但其ノ工事日數ハ可成二週間ヲ踰エサルヲ要ス(乙隊機密第 六九八號)

是ニ於テ瓜生司令官ハ、先ツ仙頭對馬艦長ニ左ノ訓令ヲ與ヘタリ、

一、貴官ハ左記各所ニ對スル派遣員材料等到著次第當根據地ヲ發シ左記任務ニ服スヘシ

而テ各地寄艦ノ順序日割等ハ直接出張係官等ト協議決定シ其ノ豫定ヲ報告スヘシ

(イ) 高崎山無線電信所通信試驗施行及ヒ之カ試驗係官ヲ同地ニ送致スルコト

(ロ) リヤンコルド島ハ電信所(無線電信 所ニ非ス)設置ニ適スルヤ否ヤヲ視察スルコト

(ハ) 松島竹濱蔚崎各望樓行材料人員ヲ送致スルコト

二、前項(ハ)ノ各望樓行人員材料等ハ明十四日朝著スヘキ青龍丸ニテ悉皆到着高崎山無線

電信所行試驗係官ハ明後十五日到着ノ豫定ナリ(四戰機密第 二七六號)

同時ニ麾下ニ向ヒテ、左ノ如ク命令セリ、

一、乙隊機密第六九八號命令ニ依リ第四戰隊擔任ノ哨艦勤務ヲ次ノ如ク變更シ當分左ノ四

艦ヲ以テ明後十五日ヨリ三日間宛任務ニ服シ以テ浦鹽及ヒ密航船舶ノ監視ニ任セシム

艦ハ臨時或ハ A 哨艦トナリ或ハ B 哨艦トナリ此ノ四艦ヲシテ休養手入ノ時機ヲ得セシム

(イ) 哨線ハ附圖ノ如シ浪速ハ十五日天明四四四地點ニ達シ新哨線ニ就クヘシ

(ロ) 哨艦擔任方面及ヒ其ノ任務順序

A 哨艦 哨線		十三日 十四日 第一日 第二日 第三日 第四日 第五日 第六日 第七日						
高千穂	B 現 歸			哨	哨	哨	歸	
浪速	A 現 哨	哨	歸			哨	哨	
B 哨艦 哨線								
春日丸	A 現 B 現 歸	哨	哨	哨	哨	哨	歸	
千早	哨 哨 哨 歸	歸	哨	哨	哨	歸		

一、以下此ノ順序ヲ繰返ス
二、旗艦臨時哨艦トナルトキハ二日間ノ勤務ヲナス

(ハ) C F G 哨艦ハ臨機命ニ依リ派遣ス(四戰機密第 二七五號)

本命令ニハ附圖一葉ヲ添フ(附圖ハ別冊 附圖ニ掲ク)

第四戰隊ハ十五日ヨリ此ノ命令ニ從ヒ行動シ、對馬ハ十八日高崎山ニ赴クヘキ通信試驗係官樺剛以下屬員、及ヒ松島、竹濱、蔚崎各望樓員及ヒ材料ヲ乗セ、(連日天候不良ノ爲メ十八日ニ至リ尾崎ニ)尾崎ヲ發シテ先ツ竹邊灣ニ向ヒ、十九日朝之ニ達シテ望樓員及ヒ材料ヲ陸揚ケシタル後、更ニ松島ニ回航シ、同日中ニ人員材料ノ陸揚ケヲナシ、リヤンコルド島ニ向ヒ、二十日早朝同島ニ達シテ、同艦副長海軍少佐山中柴吉、軍醫長及ヒ軍醫一名ヲ伴ヒテ陸上ヲ視察シ、終テ隱岐島ニ向ヒ、夕刻同島別府灣ニ著シ、二十二日午前高崎山ト無線電信試驗ヲ行ハシカ爲メ出港セシモ、波浪高キカ爲メ引返シテ再同灣ニ入り、二十三日午前ニ出港シテ之カ試驗ヲ行ヒ、良好ナル結果ヲ得タルヲ以テ、午後ヨリ歸途ニ就キ、二十四日午前尾崎ニ歸港セリ、(リヤンコルド島ニ關スル報告ハ備考文書)又春日丸ハ二十二日哨艦任務ヲ解カレテ、上村司令官ノ直率ト爲リシヲ以テ、爾後哨艦ハ旗艦笠置(從來ノ如ク臨時哨艦タリ)浪速、高千穂、千早ノ四艦ニテ服務スルコト、ナリシカ、二十七日ニ至リ、瓜生司令官ハ上村司令官ヨリ、笠置ヲ佐世保ニ回航シテ修理セシメ、同艦不在中旗艦ヲ高千穂ニ移スヘキノ命ヲ受ケシニヨリ、即日麾下ニ向ヒテ此ノ旨ヲ令シ、同時ニ爾後ハ哨艦ハ高千穂、浪速、B 哨艦ハ千早、對馬ニテ擔任スヘキノ命シ、二十八日幕僚及ヒ旗艦増加員ヲ率井テ、笠置ヨリ高千穂ニ移リ、艦隊區分ヲ第一小隊高千穂、浪速、第二小隊新高、對馬ト改メ、笠置ハ同日竹敷ヲ發シテ佐世保ニ著シ、二十九日ヨリ修理工事ニ著手セリ、(笠置ハ前後檣樓ヲ取外シ前檣樓砲ヲ最上甲板ニ移

ス等ノ改造ニ)越エテ十二月四日、千早ハ英船「カルカス」號ニ遭遇シテ之ヲ臨檢セリ、同船ハ去モ從事セリ、越エテ十二月四日、千早ハ英船「カルカス」號ニ遭遇シテ之ヲ臨檢セリ、同船ハ去七月二十五日浦鹽斯德艦隊ノ爲メニ房州沖ニテ拿捕セラレ、八月四日浦鹽斯德ニ著シ、十一月二日迄抑留セラレタル後解放セラレテ、今ヤ恰モ長崎ニ向フモノニシテ、尋問ノ結果「ロシーヤ」ハ修理完成シタルモノ、如クナルコト「グロモボイ」ハ試運轉ノ際坐礁セシ由ニテ、約三週間前ヨリ入渠中ナルコト「ボガツイ」モ未タ修理完成シ居ラサルコト、修理ノ速ニ出來サル主ナル原因ハ、職工及ヒ修理材料ノ不足ナルカ爲メナルヘキコト、水雷艇ハ八隻アリシモ、其ノ一隻ハ約四週前巡航ノ際他艇ノ衝突ニ依リテ沈没シ、今ヤ七隻ナルコト、小形潛航艇一隻現存スルコト等ノ情報ヲ得タリ、尋テ十日瓜生司令官ハ、上村司令官ヨリ、注意汽船廣東號機械油類雜貨ヲ積ミ、九日浦鹽ニ向ヒ上海ヲ出港シ、對馬海峽ヲ航過スヘキ噂アルヲ以テ、十日夜ヨリ十二日午前迄、更ニ哨艦一隻ヲ増派シ、其ノ間春日丸ヲ韓國南岸ニ出シ、艇隊ニハ今明兩夜全力其ノ哨區ヲ警戒セシムヘシ、トノ訓令ヲ受ケシヲ以テ、麾下ニ向ヒ左ノ命令ヲ發セリ、

一、昨九日上海發電報ニ依レハ汽船廣東號ハ機關油類雜貨等ヲ積ミ浦鹽ニ向ヒ出港ス對馬海峽ヲ通過スルナラント云フ

二、右ニ依リ今夜ヨリ十二日午前迄A B 哨艦ノ他ニF 哨艦ヲ増加ス高千穂ハ本日午後一時根據地ヲ發シF 哨艦任務ニ服シ十二日没ヨリ更ニA 哨艦トナリ十四日根據地ニ歸港スヘシ」浪速ハ十二日迄引續キA 哨艦ニ任シ同日適宜東水道ニ至リテ根據地ニ歸港シ、十四日ヨリ更ニ規定通りA 哨艦タルヘシ

B 哨艦勤務ハ變更スル所ナシ

三、春日丸ハ本日ヨリ十二日迄G方面ノ哨艦ニ任シ水雷艇隊ハ今明兩夜全力警戒ス

四、F G哨艦ハ毎八點鐘後ノ一時間目ニ異狀有無ノ報告ヲナスヘシ

五、新高ハ昨九日高速力試験好結果ナリシヲ以テ不日歸港ノ筈ナリ(四戰機密第二七七五號ノ三)

仍テ第四戰隊ハ右命令ニ基キ、十二日午前迄ハ三哨艦ヲ出シ、春日丸及ヒ艇隊ト共ニ警戒監視ヲ嚴ニセシモ、遂ニ廣東號ヲ發見セスシテ、同日ヨリ平常ノ警戒ニ移リシカ、十五日ニ至リ、瓜生司令官ハ、十一日朝巨文島ヲ出發シ、濟州島ノ牛島ニ向ヒタル沖繩丸ノ消息ニ接セサルヲ以テ、千早ニ之カ搜索ヲ命シ、同艦ハ即日出港シ、十六日午前十一時五十五分、牛島錨地ニ達シテ同處ニ碇泊中ナリシ運送船青龍丸ニ、沖繩丸ノ所在ヲ問ヒ、同船ヨリ、沖繩丸ハ先刻北ニ向ヒ出港セリ、トノ答ヲ得シヲ以テ、其ノ巨文島ニ向ヒシモノト思ヒ、午後零時二十分同地ヲ發シテ同島ニ向ヒシニ、幾モナクシテ同船ノ北航シツ、アルヲ認メ、荒天ナリシヲ以テ、同船ヲ率非テ巨文島南側ノ小灣内ニ投錨シ、同望樓ヲ經テ沖繩丸ノ無事ヲ報シ、十七日午後一旦同船ト別レ、G哨區(G哨區ハ巨文島附近ニ在リ別冊附圖參照)ニ向ヒ出港セシモ、風波尙強カリシヲ以テ、所里島ノ東側ニ避泊シ、十八日午前出港シタリシカ、前日ト同シク風波ノ爲メ規定ノ哨區ニ游弋スルコト能ハスシテ、エンカウンター岩附近ノ浪靜ナル處ニ在リテ哨戒シ、十九日竹敷ニ歸港セリ、又横須賀ニ在ル新高艦長海軍中佐莊司義基ハ、十三日伊東海軍軍令部長ヨリ、航海準備完成次第速ニ出港シ、揚子江口、福建省沿岸港灣、臺灣南方海面等ヲ偵察シ、馬公要港ヲ經テ佐世保ニ歸航スヘシ、トノ命ヲ受ケタリ、(新高ハ十

四日迄ニ修理公試運轉自差測定彈藥炭水ノ補充等ヲ終リ十五日午前出港シ十八日佐世保ニ入り更ニ炭水ヲ補充シテ二十日ヨリ上記ノ任務ニ就ケリ即チ馬鞍群島ヨリ三門灣、南關三都澳、廈門汕頭香港ヲ經テ呂宋島ノ北端ボチードル岬ヨリ馬公ニ至リ更ニ馬尼刺附近マテ(而テ瓜生司令官南下シテ三十八年一月十一日佐世保ニ歸港セリ第二部第一篇第五章ニ詳ナリ)ハ、十六日上村司令長官ヨリ左ノ訓令ヲ受ケタリ、

一、旗艦出雲ハ命ニ依リ本職坐乗ノ儘今十六日佐世保軍港ニ回航シ修理ニ著手セシム依テ現ニ當方面ニ現在スル本職麾下艦艇ヲ一時貴官ノ指揮下ニ屬セシム

二、貴官ハ竹敷要港ヲ根據トシ當分朝鮮海峽ノ警戒監視ニ任スヘシ

三、貴官ハ便宜旗艦ヲ常磐ニ移スコトヲ得

四、注意船舶等ニ關スル諸情報等ハ直接受ケラル、様取計ヲヒ置ケリ(乙隊機密第七七七二號)

乃チ瓜生司令官ハ、上村司令長官ヨリ、竹敷方面ニ在ル總艦艇ノ指揮ヲ命セラレタルヲ以テ、十七日左ノ命令ヲ發シ、以テ諸隊ノ警戒方法ヲ定メタリ、

一、乙隊機密第七七七二號訓令ニ依リ本職ハ當方面ニ現在スル第二艦隊司令長官麾下ノ艦艇ヲ指揮シ竹敷要港ヲ根據トシ朝鮮海峽ノ警戒監視ニ任ス

二、浦鹽艦隊中「ロシーヤ」外ハ未タ戰闘航海ノ役務ニ耐ヘストノ情報アルモ全然確信スヘキ根底ヲ有セサルノミナラス一艦タリトモ高速力優勢ノ艦存在スル限リハ其ノ出沒スルナキヲ保セス

三、浦鹽行ノ密航船ハ今日迄當方面ヲ通過セル形跡ナキモ冬季北海ノ航海困難トナルニ從ヒ當方面通過ヲ企圖スルモノナキニアラサルヘシ

四、右ニ依リ當海峽警戒監視ノ方法ヲ次ノ如ク定メ本日ヨリ實行ス

五、哨艦

(イ) 哨艦ヲA哨艦B哨艦トス

(ロ) 哨艦順序

艦名	第一日	第二日	第三日	第四日	第五日	第六日	第七日	第八日
哨艦A	浪速	常磐	浪速	常磐	浪速	常磐	浪速	常磐
哨艦B	馬場	早馬	早馬	馬場	馬場	早馬	早馬	馬場

備考

- (イ) 以下此ノ順序ヲ繰返シ三日宛勤務ニ服ス
- (ロ) 哨艦ヨリ歸港ノ日ハ天明ノ位置ヨリA哨艦ハ東水道B哨艦ハ西水道ヲ經テ直ニ歸途ニ就キ又哨艦ニ就ク日ハ午前十一時根據地ヲ發スルモノトス
- (ハ) B哨艦ノ第一第二日千早ノ哨艦ハ特ニ四戰機密第二七五號ノG哨艦トス
- (ハ) A哨艦ハ沖ノ島ヲ中心トシテ適宜此ノ方面ヲ巡邏警戒シ天明ニハ四四四地點(編者曰ク見島ノ西四分ノ三北三十一海里ナリ)附近ニ在ル如クシ日沒頃ヨリハ適宜ノ時間三浦灣若クハ其ノ附近ニ假泊スルコトヲ得ル等適宜行動スヘシ
- (ニ) B哨艦ハ三四一地點(編者曰クチクメネフ岬ノ南微東二分ノ一北二十六海里ナリ)ヲ中心トシ適宜西水道方面ヲ

巡邏警戒シ天明ニハ三九〇地點(編者曰クチクメネフ岬ノ東微北二分ノ一北二十六海里ナリ)附近ニ在ル如クシ日沒頃ヨリ適宜ノ時間釜山港口附近ニ假泊スルコトヲ得ル等適宜行動スヘシ

(ホ) 天候不良ノ爲メ哨艦任務ニ困難ナル場合ニ在リテハA哨艦ハ三浦灣附近B哨艦ハ釜山港口附近ニ假泊警戒監視スルコトヲ得

(ヘ) 哨艦ハ總艦ニ點火シアルヘシ根據地在泊中ノ艦中圓罐式ノモノニ在リテハ常ニ二十海里ニ對スル汽力ヲ保蓄シ其ノ他ハ全速力ニ對スル汽罐ヲ埋火シ他ハ點火用意ヲナシアルヘシ

(ト) 哨艦敵ヲ發見セハ第二艦隊規定ノ特別緊急信號、地區信號ヲ以テ敵ノ所在竝ニ進航方向等ヲ通報シ我カ交通船ヲ警戒シ本隊ト連絡自在ナル危險ナキ位置ニ來ル等其ノ際ニ於ル彼我ノ勢力ニ應シ適宜行動スヘシ其ノ電信法左例ノ如シ

地點信號

モ二一

方位信號

メBP

信號意義

敵ハ今二一地點ニ在リテ南東二分ノ一南ニ進航ス

又自己ノ位置ヲ示スノ必要アリト認ムルトキハ右信號ノ前ニ、ワレ、ヲ加フヘシ

(チ) 哨戒地點ノ一方ニ敵ヲ發見シタル場合ニ於テ特命ナケレハ他方面ノ哨艦ハ他哨艦ニ合スルカ又ハ本隊ニ合スル如ク行動スルカハ當時ノ位置等ニ依リ場合ニ應シ一二哨艦々長ノ處斷ニ委ス

- (リ) 天明時ハ哨艦ノ最注意警戒ヲ要スヘキ時機ナルヲ以テ特ニ見張ヲ嚴ニシ急速全速
カヲ出シ得ル汽釀ヲ保ツヲ要ス
- (ヌ) 毎八點鐘ニ於ル「敵ナシ(シシシ)」ハA哨艦B哨艦ノ順ニ發信シ尙(シシシ)ノ次ニ
現位置ノ地點ヲ加ヘ打電スヘシ例令ハ(シシメA二三四)ノ如シ
- (ル) 浪速高千穂ノ載炭ハ竹敷ニ於テシ其ノ他ハ運炭船ヨリ載炭スヘシ但竹敷ニ於テ運
炭船ヨリ載炭スル艦ハ可成竹敷港塔ノ崎ト頭切島ヲ連續スル線以北ニ碇泊シテ運炭船
ノ横著ケニ困難ナカラシメンコトヲ要ス

六、水雷艇哨戒

- (イ) 艇隊哨戒ノ組合ハ從來ノ通りトシ甲隊(第一、第十一、第十九艇隊)ハ東水道ノ警戒ニ任シ乙隊(第七、第十八艇隊)ハ西水道ノ警戒ニ任セシム而テ全力警戒ニ在ツテハ甲乙隊全力ヲ擧ケ其ノ哨區
ヲ警戒スルモノトス但先任司令ハ場合ニ依リ哨區受持組合ヲ適宜變更スルヲ得
- (ロ) 平素ノ警戒ニ在ツテハ左ノ如ク警戒スヘシ
- 乙組ノ二艇以上釜山港口ヲ根據トシ西水道ノ警戒監視ニ任スヘシ
- 甲組ノ二艇以上神崎望樓附近ヲ根據トシ東水道ノ警戒監視ニ任スヘシ
- (ハ) 哨艇以外ノ艇ハ休養手入及ヒ訓練ニ從事スヘシ但一令下ニ時機ヲ失セス運動シ得
ル様通信連絡ヲ保チ居ルコトニ注意スヘシ
- (ニ) 前項(ロ)(ハ)勤務ノ方法等ハ先任司令ニ於テ適宜規定スヘシ

七、新高ハ當分當方面ニ來ラス又笠置ハ來二十一日試運轉二十二日歸港ノ豫定

八、春日丸ハ不日哨艦勤務ニ編入ス

九、編隊對敵行動ノ場合ニ於テ常磐ハ艦長ノ所信ヲ以テ自由ノ行動ヲ採リ本隊ト共ニ敵ニ

當ルヘシ(四戰機密第
三〇五號)

又同日瓜生司令官ハ、伊集院海軍軍令部次長ヨリ、十六日上海ヲ發セシ英船「ニグレシヤ」號ニ
ハ露國軍用請負人、竝ニ同地ニ於テ露國軍艦ヨリ逃レタル露國將校、及ヒ「グロゾウオイ」艦長乗船シ
居リ、朝鮮海峽ヲ經テ浦鹽ニ直航ストノ噂アリ、積荷ハ「ケロセン」油ト稱スルモ疑ハシ、トノ情報
ヲ受ケ、十八日ニハ更ニ同次長ヨリ「ニグレシヤ」號ニハ露國將校十一名アリテ、船員ノ如ク變裝
シ居レリ、トノ報アリシカ、十九日午後二時ニ至リ、哨艦對馬蔚山港沖ニ於テ、遂ニ同船ヲ拿捕セ
シヲ以テ、瓜生司令官ハ同艦ヲシテ之ヲ佐世保ニ引致セシメ、(海軍大尉本場德三臨檢ヲ施行セ
シニ目的地浦鹽斯德ニシテ情報
ノ如ク「ケロセン」油ヲ滿載シ居リ別ニ露國將校ト思ハル、モノハ見エサリシモ乗員中露國商人ト
稱スルモノ一名獨逸人ト稱スルモノ二名ハ怪シキ人物ト認メラレ對馬艦長ハ瓜生司令官ノ命ニ
ヨリテ同船ヲ陶藏浦ニ引致シ取調ヲ續ケ瓜生司令官ハ伊東軍令部長ニ向ヒテ此ノ旨ヲ報スル
共ニ佐世保ニ引致セシムヘキ意見ナルヲ告ケシニ山本海軍大臣伊東軍令部長ヨリ何レモ充分嫌
疑アル船ヲ受ケタルヲ以テ何等カノ缺點ヲ見出シ佐世保ニ引致シ捕獲密檢ニ附スルヲ得策スルモ
ナレハ戰時禁制品ト認ムヘシトノ口實ノ下ニ拿捕ノ手續ヲナシ佐世保ニ引致スヘキヲ命ゼシニ
ヨリ同艦長ハ海軍大尉相羽恆三ニ少尉一名信號兵二名ヲ附シテ之ニ乗組マシメ對馬之ヲ護シテ
佐世保ニ向ヒ二十日之ヲ捕獲密檢所ニ引渡セシカ審問ノ末同船中ニ十一月十六日芝罘ニ於テ自
ラ爆沈シタル驅逐艦「ラストロープ」イ、艦長及ヒ同艦乗組ノ少尉一名乗船シ居リシコト判明シ捕
獲ノ宣言ヲ受)又一面ニ於テハ毛利高千穂艦長ニ向ヒ、將校一名宛ヲ出シ、第三號、第四號砲艦ヲ
佐世保ニ回航セシムヘキコト、(假裝砲艦ヲ佐世保ニ回航シシムルハ修理及ヒ機裝換ヘヲ爲サレ
タルニ至レリ)又一面ニ於テハ毛利高千穂艦長ハ海軍大尉山崎正策及ヒ海軍

中尉宇川清ヲ同航員ニ命シ即日出發シシメタリ）和田浪速艦長ニ向ヒ、次回ノ哨艦任務ニ就キタル後、二十三日天明位置ヨリ直ニ佐世保ニ回航シ、約二週間ノ範圍内ニテ必要ナル修理手入ヲ成シ來ルヘキコト、有川春日丸艦長ニ向ヒ、爾後哨艦タルヘキコト等ヲ命セリ、尋テ二十二日左ノ命令ヲ發シタリ、

一、旅順敗殘驅逐艦ノ萬一浦鹽ニ向ヒ脫走スヘキ場合アルヘキヲ慮リ當分春日丸ニ第一艇隊ヲ附シ巨文島方面ニ派出ス

二、春日丸艦長ハ巨文島ヲ根據トシテ動作シ兼テ密航船ノ通航ヲ警戒シ常ニ巨文島電信所ヲ介シテ當根據地トノ連絡ヲ講シ置クヘシ

三、天候ノ障礙ナケレハ右艦艇ハ明二十三日出發シ特令ナケレハ約一週間ノ警戒ヲ終リ當根據地ニ歸來スヘシ

四、第一艇隊此ノ任務ヲ終ヘ歸來セハ現行ノ任務ニ復スヘシ

五、對馬ハ「ニグレシヤ」ヲ引渡ヲ終リ本日午前八時佐世保ヲ發シ竹敷ニ歸ルノ途ニ在リB哨艦ハ千早對馬ヲシテ擔任セシム

六、「ニグレシヤ」取調ノ結果ハ未タ判明セズ（四戰機密第一三一〇號）

而テ浪速ハ豫定ノ如ク、二十三日早朝哨區ヨリ佐世保ニ向ヒ、午後同軍港ニ入りシモ、修理ハ長崎ニテ施行スルコトナリ、二十五日同港ニ回航シテ、同日ヨリ修理ニ著手シ、（三十八年一月二十四日對馬ハ「ニグレシヤ」號ヲ引渡ヲ終ヘテ竹敷ニ笠置ハ修理ヲ終ヘテ尾崎ニ、何レモ佐世保ヨリ歸港セリ、同日瓜生司令官ハ、又左ノ命令ヲ發シタリ）

一、來二十六日午前十時旗艦ヲ高千穂ヨリ笠置ニ復シ艦隊區分ヲ舊ニ復スルコト左ノ如シ

第一小隊 (一)笠置 (二)新高 (三)對馬

第二小隊 (四)高千穂 (五)浪速

二、笠置對馬ハ二十四日午後當根據地ニ歸著セリ

三、哨艦勤務ハ左ノ四艦左ノ順序ニ依リ現行通り施行スヘシ

A哨艦 常磐 高千穂

B哨艦 千早 對馬

四、巨文島方面ニ配シタル第一艇隊ハ二十四日同方面ニ向ヒ竹敷ヲ發セリ春日丸ハ機關部故障復舊次第兩三日中ニ同方面ニ向フ（編者曰ク春日丸ハ二十三日巨文島ニ向ヒ出港ノ管之ヲ修理ニ從事シ二十日六日出港スルニ至レリ）

五、對馬ハ次回ノ哨戒中ニ於テ便宜竹邊灣ニ寄港シ竹濱望樓員交代ノ便宜ヲ與フヘシ（四戰機密第一號）

此ノ日瓜生司令官ハ、東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、旅順方面ニ於ル作戰ノ繼續ヲ片岡第三艦隊司令長官ニ委任シ、二十五日三笠ニテ出港シ、吳軍港ニ回航ス、トノ電報ニ接シ、二十五日ニハ佐世保ニ在ル加藤第二艦隊參謀長ヨリ、サンダ群島方面ニ出動シアル部隊ハ、瓜生司令官ノ率非ル分遣隊ニシテ、其ノ勢力ハ略蘇士運河通過ノ敵支隊ヲ壓倒シ得ルモノ、如ク裝ヒアレハ、同司令

官ノ所在等ハ、特ニ部外ニ洩レサル様ナシタキ旨、伊集院海軍軍令部次長ヨリ電報アリタル旨ノ通知ヲ受ケシヲ以テ、直ニ麾下一般ニ此ノ旨ヲ嚴訓シ、二十六日ニハ其ノ將旗ヲ高千穂ヨリ笠置ニ移シ、艦隊區分ヲ復舊セシカ、同日東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、旅順艦隊脱出南下ノ場合ニハ之ヲ擊滅スルカ爲メ、臨機對馬海峽ニ在ル第二艦隊ニ命シテ、策應協力セシムルコトヲ得ヘキ旨、片岡第三艦隊司令長官ニ訓令シ置ケリ、トノ電報ニ接セシヲ以テ、之ヲ上村司令長官ニ報告シ、二十八日ニハ伊集院海軍軍令部次長ヨリ左ノ電訓ニ接シタリ、

此ノ度東郷上村兩長官ニ上京ヲ命セラレシニ就テハ敗殘ノ敵特ニ浦鹽ニ在ル敵艦隊ハ此ノ際如何ナル策ニ出テ隙ニ乗セントスルヤモ計ルヘカラス特ニ警戒ヲ嚴ニセラレンコトヲ望ム

是ニ於テ瓜生司令官ハ、軍令部次長ニ向ヒテ、吾妻、淺間ハ修理濟次第竹敷方面ニ回航セシメラル、豫定ナルヤ、又其ノ時機ヲ承知シタシ、トノ電報ヲ發セシニ、幾モナクシテ、吾妻艦長ニハ速ニ竹敷ニ回航スヘキコト、淺間艦長ニハ修理濟次第同シク竹敷ニ赴クヘキ旨、直接訓令セリ、トノ返電ニ接シタリ、又同日東郷聯合艦隊司令長官ヨリハ、第一艇隊ヲ大連灣ニ回航シ、片岡第三艦隊司令長官ノ指揮ヲ受ケシムヘキ電命アリシヲ以テ、在巨文島春日丸艦長ニ向ヒ、福田第一艇隊司令ニ此ノ旨ヲ傳達シ、而テ同隊ニ炭水ノ補充ヲ終リ次第春日丸ハ尾崎ニ歸港スヘシ、トノ電命ヲ與ヘ、(春日丸ハ三十日午前尾崎ニ入り午後竹敷ニ移レリ)三十日左ノ命令ヲ發シテ、海峽警備及ヒ對敵方法ヲ定メタリ、

一、敵狀

(イ) 旅順敗殘ノ敵艦「アツワージヌイ」及ヒ驅逐艦約六隻ノ内驅逐艦ハ脱出シテ浦鹽ニ逃走スルノ機會ナシトセス

(ロ) 浦鹽艦隊中「ロシーヤ」ハ戰鬪力ヲ復シタルヤ疑ナシ「グロモボイ」ハ十一月上旬大破損ノ爲メ入渠セリトノ情報アリシモ既ニ七週間ヲ經過セル今日復舊シ得タルモノト見做サ、ルヘカラス此ノ二隻ヲ現在ノ敵勢力ト見レハ大差ナカラシ

(ハ) 浦鹽行密行船ハ冬季ノ爲メ當海峽ヲ選擇スルモノ稍増加スルヤノ觀アリ

二、味方ノ狀況

(イ) 我カ聯合艦隊主力ノ大部ハ今ヤ修理手入ニ著手シ東郷上村兩長官上京中ニシテ旅順方面作戰ノ繼續ハ片岡第三艦隊司令長官ニ委任セラレ同方面敗殘ノ敵艦隊脱出南航スル場合ニ於テハ當方面所在ノ第二艦隊ハ臨機同長官ノ命ニ依リ協力行動スルコト、ナリ居レリ

(ロ) 現ニ本職ノ指揮下ニ在リテ當方面ノ警戒ニ任スル勢力左ノ如シ

常磐

吾妻

淺間

(一月一日吳ヲ發シ來航ノ豫定著次第指揮下ニ入ル)

笠置

對馬

千早

春日丸

第十一

第十七

第十八

第十九艇隊

三、思フニ今ヤ浦鹽ノ敵ヲシテ劣勢ナカラ隙ニ乘スルノ念慮ヲ發セシムヘキ時機ニシテ最警戒ヲ要ス

四、哨艦艇勤務方法ハ現行通りトシ以テ敵艦隊ノ來襲及ヒ密航船ノ通過ニ備フ但A B哨艦ノ受持並ニ順序ヲ左ノ如クス

A 哨艦 吾妻 春日丸 淺間(著次)

但春日丸ハ天明位置ヲ適宜短縮スルコトヲ得

B 哨艦 對馬 笠置 千早

五、哨艦ハ天明時前後ヲ除キ差支ナキ時機ニ在リテハ和炭ヲ使用センコトヲ望ム但臨機英炭ヲ使用シ得ルノ準備ヲ要シ且炭庫ノ設備汽罐ノ種類上不便不利ノモノニ在リテハ之ニ拘泥スルヲ要セス

六、來二月二日午前九時臨時旗艦ヲ笠置ヨリ常磐ニ移シ艦隊區分ヲ左ノ如クス

第一小隊 (一) 常磐 (二) 吾妻 (三) 淺間(著次)

第二小隊 (四) 笠置 (五) 對馬

通報艦 千早

第一小隊 戰鬥速力 十七節

微 速 五節

半 速 右ノ中間

舵 角 常磐ノ十五度

第二小隊 戰鬥速力等第一小隊ニ同シ

但其ノ任務上全速ヲ出スコトアルヘシ

舵角 笠置ノ二十度

但笠置旗艦タル間ノ艦隊區分左ノ如シ而テ何レノ場合ニ在リテモ此ノ番號ヲ變更セ

第一小隊 (一) 常磐 (二) 吾妻 (三) 淺間(著次)

第二小隊 (四) 笠置 (五) 對馬

通報艦 千早

七、對敵作動ハ左ノ如ク敵發見次第我カ優勢ヲ以テ之ヲ擊破セントス

(イ) 笠置旗艦タル間

第一小隊ハ常磐艦長指導ノ下ニ適當ト思量スル行動ヲ取り專ラ敵ニ當ルヘシ

第二小隊ハ專ラ敵ノ行動ヲ妨碍シ第一小隊ニ敵ヲ擊滅スルノ時機ヲ得シムル如ク行動ス

千早ハ通報ニ任シ艇隊不在ノ場合敵ヲ轟沈スヘキ時機ニ到著セハ之カ任ニ當ル艇隊ハ甲乙丙隊各先任司令ノ指揮下ニ適宜行動シテ襲撃ノ時機ヲ待ツ又夜ニ入ル場合ニ在リテハ各別ノ目的物ヲ定メ最後ノ目的ヲ達スルモノトス

春日丸ハ特令ナケレハ神崎附近ニ在リテ彼我ノ行動ニ對スル情報ヲ明ニシ臨機命ニ應シ行動スル如クシ兼テ東水道ヲ警戒スヘシ要スルニ彼我ノ形勢ニ應シ艦ヲ安全ニ置ク

コトヲ主トスヘシ

(ロ) 常磐旗艦タル間

第一小隊ハ本職自ラ之ヲ率非第二小隊ハ笠置艦長ヲシテ指揮セシム其ノ一般對敵ノ動作ハ總テ(イ)ノ如シ

八、哨艦對敵動作

(イ) 哨艦敵ヲ發見セハ本隊ヲシテ來會ノ時機ヲ得シムル如ク行動シ自艦ノ勢力ニ應シ進シテ敵ヲ撃破スルカ又ハ敵艦ヲ牽制シテ我カ航通船ノ避難ヲ容易ナラシムル等艦長ノ所信ニ委ス

(ロ) 他方面ニ在ル哨艦ハ特命ナキ限り敵發見ノ哨艦ニ合スルコトヲ務ムヘシ但其ノ位置ニ依リ直接本隊ニ合スル等艦長ノ所信ニ委ス

(ハ) 根據地ニ在ル本隊ハ豆蔵方面ニ向ヒテ行動スルヲ例トス

(ニ) 東西兩水道ニ在ル哨艇隊ハ神崎神山望樓ニ據リテ敵ノ動靜ヲ明ニシテ行動スヘシ但海上ノ狀況ニ應シ單獨猛進シテ空シク危險ニ陷ルコトナキニ注意スヘシ

根據地ニ在ル水雷艇隊ハ旗艦ニ來リテ命ヲ待チ行動スヘシ旗艦不在ノ場合ニ在リテハ特報ニ基キ先任司令ノ所信ニ基キ行動スヘシ

(ホ) 敵發見時ノ警戒信號等ハ現行通リトス

九、高千穂ハ哨艦ヨリ除キ不日修理ノ爲メ派遣ノ筈

一〇、西水道ノ哨區ニ就ク艇隊ハ其ノ一艇ヲ割キ尾崎ニ常泊シ晝夜共旗艦ノ令ニ應シ行動シ得ル狀態ニアラシムヘシ(此ノ實行ハ次回ノ(四)戰機密第(交代時ヨリトス)(三一九號)

然ルニ同夜上村第二艦隊司令長官ヨリ、瓜生司令官ノ指揮下ニ在ル吾妻、淺間ヲ三須司令官ノ指揮下ニ移シ、津輕及ヒ宗谷海峽ノ警戒ニ任セシム、トノ電報ニ接シタルヲ以テ、瓜生司令官ハ三十一日更ニ前記命令ヲ左ノ如ク改正セリ、

吾妻、淺間ノ兩艦ハ本職ノ指揮下ヨリ除カレ三須第二艦隊司令官ノ指揮下ニ入り津輕海峽及ヒ宗谷海峽方面ノ警戒ニ任スルコト、ナリシヲ以テ哨艦方法及ヒ對敵動作ヲ左ノ如ク變更ス

一、敵狀

變化ナシ

二、味方ノ狀況

變化ナシ但吾妻、淺間ハ津輕海峽及ヒ宗谷海峽方面ノ警戒ニ任ス現ニ本職ノ指揮下ニ在リテ當方面ノ警戒ニ任スル勢力左ノ如シ

笠置 常磐 對馬 千早 春日丸

第十一 第十七 第十八 第十九艇隊

三、思フニ今ヤ浦鹽ノ敵ヲシテ劣勢ナカラ隙ニ乘スルノ念慮ヲ發セシムヘキ時機ニ在ルヲ以テ最警戒ヲ要ス

四、艦隊區分ヲ左ノ通り復舊ス

第一小隊

(一)笠置

(二)新高

(三)對馬

第二小隊

(四)高千穂

(五)浪速

不在艦アルモ右ノ區分番號ハ當分變更セス

隊外

常磐

千早

春日丸

五、哨艦勤務ヲ左ノ通り定メ以テ敵艦隊ノ來襲及ヒ密航船ノ通航ニ備フ

(イ) 哨艦ハA哨艦B哨艦C哨艦トシ平生ニ在リテハA哨艦ノミトシBC哨艦ハ要スル

トキハ特ニ派出ス而テ來三十八年一月一日ヨリ實施ス

(ロ) 哨艦位置及ヒ行動

A哨艦

午前九時根據地ヲ發シ東水道ヲ經テ哨區ニ就キ爾後艦長ノ意見ニ依リ晝間夜間共天明位置四〇七地點(編者曰クチクメネフ岬ノ南東四分ノ三東三十八海里ナリ)ヲ中心トシ適宜行動シ午前ハ主トシテ東水道ヨリ北上スルモノニ備ヘ午後ハ主トシテ西水道ヨリ北上スルモノニ備ヘ第四日目ノ天明位置ヨリ三八五地點(編者曰ク韓崎ノ東二分一北三十海里ナリ)及ヒ西水道ヲ經テ歸港スヘシ

A哨艦ニ任スル艦及ヒ其ノ順序左ノ如シ

對馬

春日丸

常磐

B哨艦(臨時派遣)

三四一地點(編者曰クチクメネフ岬ノ南西二分一東二十二海里ナリ)ヲ中心トシ適宜西水道方面ヲ巡邏警戒シ天明ニハ三九〇地點(編者曰クチクメネフ岬ノ東微北二分一北二十六海里ナリ)附近ニ在ル如クシ日沒頃ヨリ適宜ノ時間釜山港口附近ニ假泊スルコトヲ得ル等便宜行動スヘシ

C哨艦(臨時派遣)

玉ノ浦附近ヲ假泊地トシ午前適宜出港シ午後四時頃迄約一九九地點(編者曰ク五島玉ノ浦ノ西方約十五海里ナリ)ト一八四地點(編者曰ク玉ノ浦ノ西北方約二十五海里ナリ)トノ間ニ在リテ適宜巡邏シ夜間東水道ヲ密航スル者ヲ晝間ニ於テ發見スルニ任シ常ニ大瀬崎望樓トノ連絡ヲ保持スルニ勉ムヘシ

B哨艦ヲ増派スル場合ニ在リテハA哨艦ハ次ノA哨艦任務ヲ執ルヘシ

A哨艦

沖ノ島ヲ中心トシテ適宜此ノ方面ヲ巡邏警戒シ天明ニハ四四四地點(編者曰ク見島ノ十一海里ナリ)附近ニ在ル如クシ日沒頃ヨリハ適宜ノ時間三浦灣若クハ其ノ附近ニ假泊スルヲ得ル等適宜行動スヘシ

(ハ) 哨艦天候不良ノ際ハ適宜ノ行動ヲ取ルヘシ

(ニ) 哨艦及ヒ在泊艦汽罐ノ狀態敵發見時ノ行動及ヒ哨艦ノ注意等總テ四戰機密第三〇五號ノ通り心得ヘシ

六、旗艦笠置及ヒ千早ハ當分哨艦任務ヨリ除キ根據地ニ在リテ訓練手入ニ從事セシム
 七、水雷艇隊ノ哨戒方法ハ現行通りトシ 西水道ノ哨區ニ就ク艇隊ハ其ノ一艇ヲ割キ尾崎ニ
 常泊セシメ晝夜共旗令ニ應シ瞬速行動シ得ルノ状態ニ在ラシムヘシ
 八、對敵行動

(イ) 第一第二小隊ハ本職自ラ之ヲ指揮ス其ノ戰鬪速力等左ノ如シ

戰鬪速力 十八節

微速力 五節

半速力 右ノ中間

舵角 二十度

(ロ) 常磐ハ艦長ノ所信ヲ以テ獨立ノ行動ヲ採リ本隊ト共ニ敵ニ當ルヘシ

(ハ) 千早ハ通報ニ任スヘシ

(ニ) 春日丸ハ特令ナケレハ神崎附近ニ在リテ彼我ノ行動ニ對スル情報ヲ明ニシ臨機命
 ニ應シ行動スル如クシ兼テ東水道ヲ警戒スヘシ要スルニ彼我ノ形勢ニ應シ艦ヲ安全ノ
 位置ニ置クコトヲ主トスヘシ

(ホ) 東西兩水道ニ至ル哨艇隊ハ韓崎神崎望樓ニ依リテ敵ノ動靜ヲ明ニシテ行動スヘシ
 但海上ノ狀況ニ應シ單獨猛進シテ空シク危險ニ陥ルコトナキニ注意スヘシ
 根據地ニ在ル艇隊ハ旗艦ニ來リテ命ヲ待チ行動スヘシ旗艦不在ノ場合ニ在リテハ情報

ニ基キ先任司令ノ所信ニ基キ行動スヘシ

(ヘ) 本隊ハ豆酸方面ニ向ヒ行動スルヲ例トス(四戰機密第 三二四號)

此ノ日高千穂ハ修理ノ爲メ、尾崎ヲ發シテ佐世保ニ向ヒ、(高千穂ハ即日佐世保ニ入り三十八年一月
 ニ回航シ二十一日竣工シ即日佐世保ニ歸港セリ)吾妻モ亦尾崎ヲ出テ函館ニ回航セリ、

第四節 水雷艇隊ノ行動

前章記載ノ如ク、八月十四日朝、矢島司令ノ率非ル第九艇隊蒼鷹(司令)雁、鵠、燕ハ沖ノ
 島附近ニ在リ、河瀬司令ノ率非ル第十九艇隊鷗(司令)鴻ハ若宮島附近ニ在リシカ、蔚
 山沖ニ於ル海戰ノ報ヲ得テ急航之ニ赴キ、戰鬪參加ノ機ハ逸セシモ、敵艦リユーリクノ乗員救
 助收容ニ從事シ、海軍少佐富士本梅次郎ノ率非ル第十一艇隊第七十三號(司令)第七十二號、第
 七十四號、第七十五號及ヒ笠間司令ノ率非ル第十五艇隊雲雀(司令)鷺、鵠、鵜ハ神崎附近
 ニ在リ、下村司令ノ率非ル第十七艇隊第三十四號(司令)第三十一號、第三十二號、第三十
 三號ハ多太浦ニ在リ、海軍少佐齋藤半六ノ率非ル第十八艇隊第三十六號(司令)第三十五
 號、第六十號、第六十一號ハ芋崎望樓附近ニ在リシカ爲メ、何レモ全ク戰鬪ニ加ラスシテ止
 ミ、同夜第九艇隊(同艇隊ハ尾崎ニ泊ス)以外ノ五艇隊ハ、何レモ對州ノ東西水道及ヒ大口灣、鴻島間ノ哨區
 ニ就キテ警戒セリ、(西水道ハ第十五、第十七艇隊東水道ハ第十一、第十艇隊之ニ當レリ)尋テ十五日第十五艇隊ハ、
 第二、第四戰隊ト共ニ佐世保ニ回航シ、他ノ艇隊ハ一時福井千早艦長ノ指揮下ニ行動スルコト
 トナリ、同日同艦長ヨリ左ノ訓令ヲ受領セリ、

一、昨十四日海戦ノ結果第二戰隊ハ彈藥補充及ヒ應急修理ノ爲メ本日午前三時佐世保ニ向ヒテ出港シタリ近日逐次尾崎灣ニ歸港スル筈又第四戰隊(常磐ヲ加フ)及ヒ第十五艇隊ハ馬鞍島附近ニ在ル敵艦ヲ襲撃シ上海ニ在ル「アスコリド」ヲ處分スルカ爲メ佐世保ヲ經テ上海方面ニ向フヘキ命令ニ接シ居レリ

二、艦隊不在中當海峽ヲ扼守スル諸艇隊ノ指揮ヲ本官ニ命セラル

三、諸艇隊ノ哨區及ヒ監視方法ハ四戰機密第二〇八號(編者曰ク本篇第(九章第一節參照))ノ諸項ヲ遵守ス但第十五艇隊ノ代リニ第九艇隊ヲ加フ

四、諸艇隊ハ夜間ハ全力海峽ノ監視ニ任シ本艦ハ單獨時々東西兩海峽ヲ往復シ且角島附近ニ海底電線敷設事業ニ從事シアル沖繩丸ヲ掩護スルカ爲メ同方面ニ航行スルコトアリ

乃チ毎夜第九、第十七艇隊ハ鴻島、大口灣間ヲ、第十一艇隊中ノ二隻ハ壹岐水道ヲ、其ノ他ノ二隻ハ第十八、第十九艇隊ト共ニ神崎、若宮島間ノ哨戒線ヲ警戒シ、晝間ハ第十一艇隊中ヨリ壹岐水道ニ、第十七艇隊中ヨリ如島附近ニ、適宜哨艇ヲ出セシカ、十七日ニ至リ、第二、第四戰隊等佐世保ヨリ尾崎ニ歸港シ、同日上村司令長官ヨリ、艇隊ハ甲乙兩隊ニ分チ、甲隊ハ第九、第十七、第十九艇隊ヲ以テ編成シ、第九艇隊司令タル矢島中佐之ヲ指揮シテ、鴻島、大口灣間ノ哨區(D哨)ヲ擔任シ、夜間三隻以上、晝間一隻以上ノ哨艇ヲ出シ、乙隊ハ第十一、第十五、第十八艇隊ヲ以テ編成シ、第十五艇隊司令タル笠間中佐之ヲ指揮シテ、神崎、若宮島間ノ哨區(E哨)ヲ擔任シ、夜間ハ四隻、晝間ハ二隻以上ノ哨艇ヲ出シ、勤務ハ二日間ニテ交代シ、又一等艇一隊以上ハ常ニ尾崎若

クハ竹敷ニ在ラシメ、(一部ハ毎ニ尾崎ニ在ラシム)其ノ實施ニ關シテハ各隊指揮官之ヲ定メテ報告スヘキ命令アリタルヲ以テ、各隊指揮官ハ直ニ同命令ニ基キテ、各所要ノ實施方法ヲ定メタリシニ、幾モナクシテ第十五艇隊ノ雲雀、鵜ハ、瓜生司令官ノ指揮下ニ於テ上海方面ニ出動スルコト、ナリ、從テ笠間司令モ亦對州方面ヲ去ルカ爲メ、十八日更ニ上村司令長官ヨリ、甲隊ヲ第九、第十九艇隊(第十艇隊ノ加フ)トシ、乙隊ヲ第十一、第十七、第十八艇隊トシテ、第十七艇隊司令タル下村中佐ヲシテ、乙隊ノ指揮ヲ掌ラシメ、同時ニ晝間展望不良ナル時ハ、指揮官ハ臨機哨艇ノ數ヲ増スヘキコト、甲隊指揮官ハ水雷艇隊ノ一部ヲシテ、成ルヘク常ニ尾崎ニ在ラシムル様力ムヘキコト等ヲ命セラル、各艇隊ハ日夜交代シテ哨戒ニ從事セリ、是ヨリ先キ十五日第十五艇隊ハ第四戰隊ト共ニ、瓜生第二艦隊司令官ノ指揮下ニ於テ、上海方面ニ出動スルコト、ナリ、一旦彈藥炭水等補充ノ爲メ、同日午後零時十五分尾崎ヲ出テ、同夕刻佐世保ニ入リシニ、翌十六日同行動ハ取止メラレ、再對州海峽ノ警戒ニ就クヘキノ命ヲ受ケタルヲ以テ、同日夕刻第四戰隊ノ一部ト共ニ竹敷ニ歸港セリ、然ルニ越エテ十八日ニ至リ、雲雀、鵜ノ兩艇ノミハ、常磐、浪速、新高ト共ニ「アスコリド」及ヒ驅逐艦「グロゾウオイ」處分ノ爲メ上海派遣ヲ命セラレ、十九日出發シ、其ノ間鵜ハ臨時河瀬第十九艇隊司令ノ指揮下ニ入レリ、(雲雀、鵜ノ上海方面出動中ニ於テハ行動ハ第一部第(二)篇第十四章第三節第四戰隊ノ行動ニ詳ナリ)越エテ二十七日第十七艇隊ノ第三十三號艇ハ、竹敷ニ於テ入渠修理ニ從事ス、(二十九日完成ス)又同日矢島第九艇隊ハ麾下水雷艇ノ修理ニ關スル命令ヲ受ク、尋テ九月五日上村司令長官ハ、東鄉聯合艦隊司令長官ヨリ、第九艇隊ヲ裏長山列島ニ回航セシムヘキノ命ヲ受ケタルヲ以テ、復又甲乙兩隊ノ編成ヲ

改メ、甲隊ハ第十九艇隊(加フヲ)、第十一艇隊、乙隊ハ第十七第十八艇隊ト爲シ、兩隊ハ共ニ各哨區ニ於テ、夜間ハ三隻以上、晝間ハ一隻以上警戒ニ任シ、各先任司令之ヲ指揮スルコト、ナリ、第九艇隊ハ六日裏長山列島ニ向ヒ尾崎ヲ發セリ、(但五日附ヲ以テ矢島第九艇隊司令ハ第十九艇隊司令ニ轉補シ、第十九艇隊司令タリシ河瀬少佐第九艇隊司令ニ補セラレ)又鷺、鵠ハ五日竹敷ニ於テ入渠シテ修理ニ從事シ、七日完成セシニ、八日第十五艇隊ノ雲雀、鵠、上海方面ノ任務ヲ終ヘテ竹敷ニ歸著セシヲ以テ、第十九艇隊司令ノ指揮下ヲ離レテ復隊セリ、而テ第十五艇隊ハ甲隊ニ編入セラレ、第十九艇隊ノ鵠、鴻ハ七日竹敷ニ於テ入渠シテ修理ニ著手シ、十日ニ完成シ、十一日第十五艇隊ノ雲雀、鵠之ニ代リテ入渠修理ニ著手シ、十五日完成シ、(十五日矢島司令ハ佐世保鎮守府附ニ轉シ、海軍中佐松岡修藏之ニ代リテ同艇隊司令ニ補セラレタリシカ共ノ著任マテ同艇隊ハ笠間第十五艇隊司令ノ指揮下ニ行動シ、又齊藤第十八艇隊司令ハ十四日雷艦長ニ轉シテ海軍少佐河田勝治同艇隊司令ニ補セラレタルヲ以テ共ノ著任マテ同艇隊ハ下村第十七艇隊司令ノ指揮下ニ屬セシメラレタリ)十六日ニハ第十一艇隊ノ第七十四號第七十五號艇之ニ代リ竹敷ニ於テ入渠修理ニ從事セリ、(十月一日)是ヨリ先キ九月十一日第十五艇隊ハ、上村司令長官ヨリ、聯合艦隊司令長官ノ訓令ニ基キ、第三艦隊ニ復歸ヲ命セラレシカ、十五日諸般ノ修理ヲ終リ、十七日航海準備整ヒシヲ以テ、同日夕刻尾崎ヲ發シ、裏長山列島ニ向ヒ、(二十日同列島ニ著セリ)海軍少佐福田昌輝ノ率非ル第一艇隊第六十九號(司令)、第六十七號第六十八號第七十號艇ハ、臨時第二艦隊ニ編入セラレテ、二十五日青泥窪ヲ發シ、仁川ヲ經テ二十八日午後竹敷ニ入港シ、甲隊ニ編入セラレタリ、又第十一艇隊ノ第七十二號第七十三號ノ兩艇ハ、十月一日竹敷ニテ入渠シテ修理ニ著手シ、(十五日)二日第一艇隊ノ第六十七號第六十八號艇モ、亦修理ノ爲メ竹敷ヲ發シテ佐世保ニ向ヘリ、(即日佐世保ニ著シ直ニ入渠シテ修理ニ從事)同日第十九艇隊司令海軍中佐松岡修藏ハ、同艇隊ノ運

動規約ヲ左ノ如ク定メタリ、

一、艇隊區分左ノ如シ

鷗 一番

鴻 二番

一、速力並ニ舵角

急速力 十五節

全速力 十二節

半速力 八節

微速力 六節

舵角 二十度

一、距離

常距離 百五十米突

閉距離 百米突

開距離 三百米突

一、速力信號

晝間ハ右舷「ヤーダーム」ニ掲ク

夜間ハ艇尾燈ヲ用フ

汽笛信號ハ艦隊運動程式ニ依ル

碇泊中ハ受令後一時間半以内ニ出動シ得ル様準備シ置クヘシ若シ其ノ以上ノ時間ヲ要スル手入等ヲ爲ストキハ豫メ許可ヲ受クヘシ

自今哨戒交代ノ時左ノ規約ニ依リ運動ス

一、當日ノ當直艇ハ午前七時竹敷ヲ出港シ大口灣ニ於テ前直ノモノト交代シ晝夜警戒ス

而テ晝間一回ハ鴻島ニ近ツキ情報ヲ聞クヘシ

一、當日ノ非直艇ハ午前八時迄ニ尾崎浦ニ至リ午後五時迄同所ニ在泊シ特別任務ヲ命セ

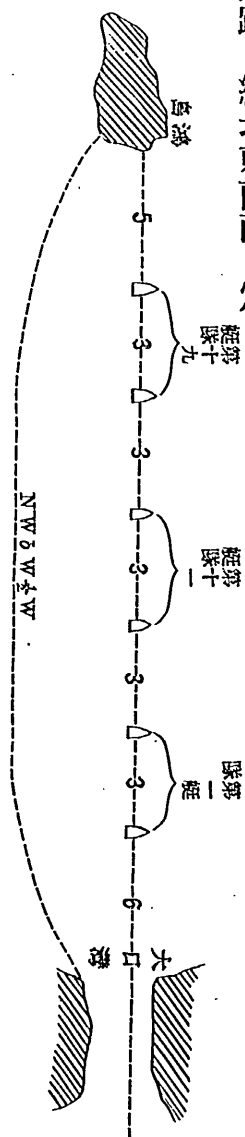
ラレサルトキ直ニ豫定ノ警戒位置ニ就クヘシ

一、翌日午前六時警戒位置ヲ離レ司令艇ノ側ニ會合シ警戒中ノ報告ヲナス

一、前日ノ當直艇ハ諸報ヲ齎シ主隊所在地(尾崎)ニ到リ旗艦ニ報告ノ後竹敷ニ歸港ス

一、當直交代ハ竹敷歸港後トス

越エテ十一日ニ至リ、松岡第十九艇隊司令ハ復甲隊ノ全力配備ヲ左圖ノ如ク定メ、而テ警戒中ノ航行針路ヲ約北東南西ト定メタリ、



而テ十七日ニハ第一艇隊ノ第六十九號艇及ヒ第七十號艇ハ修理ノ爲メ佐世保ニ向ヒ、(十一日完成ニ同日竹敷)二十二日ニハ、松岡第十九艇隊司令ハ更ニ甲隊ノ哨戒勤務ヲ左ノ如ク定メタリ、

D哨區哨艇第六十七號第六十八號到著ノ上ハ哨艇組合左ノ通り變更ス

(イ)組 鷗 鴻 六十七號 六十八號

(ロ)組 七十三號 七十二號 七十四號 七十五號

一、哨戒勤務ハ二日宛トス

一、哨艇ハ晝間ハ一隻 夜間ハ三隻トス

一、晝間ノ勤務艇ハ午前八時ヨリ日没迄トシ夜中ハ尾崎灣ニ在リテ休養ス

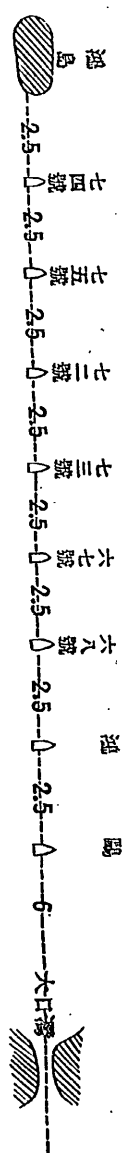
一、夜中勤務艇ハ晝間尾崎ニ在リテ休養シ日没前哨區ニ到リ晝間艇ト交代ス

一、各艇隊ノ司令(艇長)ハ勤務ノ方法ヲ定メ報告スヘシ

一、當直組ノ司令(艇長)ハ展望惡シキトキハ晝間ト雖モ二隻ヲ哨戒線ニ就カシムヘシ

一、其ノ他ハ總テ從前ノ要領ニ從ヒテ施行ス

一、全力警戒配置左ノ通り



(イ)組哨艇勤務左ノ如シ

晝間		夜間	
第一回當直日	六十八號	鷗	鴻
第二回當直日	六十七號	鷗	鴻
第三回當直日	鷗	鴻	六十七號
第四回當直日	鴻	鷗	六十八號

以下之ニ準ス

二十七日第十一艇隊ノ第七十三號艇ハ、哨戒中荒波ノ爲メ艇ノ動搖激シク、遂ニ探海燈ノ繫止鉤鎖切斷シテ探海燈ヲ流失シ、(同艇ハ十二月十八日電燈据附其ノ他修理ノ爲メ佐世保)十一月九日ニハ、松岡甲隊指揮官及ヒ下村乙隊指揮官ハ、瓜生第二艦隊司令官ヨリ、諾威汽船「ロドセン」號同日正午上海ヲ發シタルニヨリ、十日夜海峽通過ノ疑アレハ、艇隊ハ全力警戒スヘシトノ命ヲ受ケ、同夜ハ各隊全力警戒シ、二十三日ニハ第十七艇隊ノ第三十二號艇ハ竹敷ニ於テ修理ニ著手シ、(三十八年一月十一日)二十七日ニハ第十八艇隊ノ第三十六號艇、十二月二日ニハ同艇隊ノ第三十五號艇、七日ニハ同艇隊ノ第六十號艇モ、亦艇底ノ塗換、「スターンチューブ」入替ノ爲メ交、竹敷ニ入渠シ、(第三十六號艇ハ十二月二日ニ第三十五號艇ハ)十日松岡第十九艇隊司令、下村第十七艇隊司令ハ、上村司令長官ヨリ左ノ訓令ヲ受領セリ、

一、九日上海ヨリノ電報ニ依レハ汽船廣東號ハ機械油類ト雜貨ヲ積ミ九日浦鹽ヲ目的地ト

シ同港ヲ出港シ對州海峽ヲ通過スルナラント云フ

二、甲乙兩隊共今明兩夜其ノ受持哨區ヲ全力警戒スヘシ

但甲隊ハ其ノ一艇ヲ鴻島、巨濟島間ニ出スヘシ

三、春日丸ハ本日ヨリ十二日午前迄韓國南岸ヲ哨戒ス(乙隊機密第)

是ニ於テ十日、十一日ノ兩夜ハ、全力警戒ヲ加ヘ、十六日第十七艇隊ノ第三十四號艇竹敷ニ入渠シ、(十九日)同日土村第二艦隊司令長官ハ、對州方面ニ在ル其ノ麾下艦艇ヲ一時瓜生第二艦隊司令官ノ指揮下ニ屬セシメ、旗艦出雲ニ坐乗ノマ、佐世保ニ向ヒシヲ以テ、翌十七日瓜生司令官ハ、艦艇警戒監視ノ方法ヲ定メ、(本章第三)艇隊ノ組合ハ從來ノ如キモ、甲隊ハ東水道、乙隊ハ西水道ノ警戒ニ服スルコト、全力警戒ニ在リテハ兩隊率テ擔任哨區ニ就スコト、(但先任司令官ハ場持組合ヲ適宜變)平常ノ警戒ニ在リテハ甲組ノ二艇以上ハ、神崎望樓附近ヲ根據トシテ東水道ヲ、乙組ノ二艇以上ハ、釜山港口ヲ根據トシテ西水道ヲ各警戒スルコト、哨艇以外ノ艇ハ、一令ノ下ニ時機ヲ失セス運動シ得ル様通信連絡ヲ保チツ、休養、手入及ヒ訓練ニ從事スルコト、ナリ、同日下村乙隊指揮官ハ、警戒勤務ノ實施方法ヲ左ノ如ク定メタリ、

一、交代順序

第一日	第二日	第十八艇隊
第三日	第四日	第十七艇隊
第六日	第七日	第十八艇隊

各艇三日宛ノ交代トシ以下之ニ準ス但十二月十七日ヲ以テ第一日トス

二、哨區ニ就ク日ハ午前八時竹敷ヲ發スルヲ例トシ正午影島望樓附近ニ於テ交代スルモノトス

三、晝夜共當直艇トシテ一艇ヲ影島望樓附近ニ假泊セシメ常ニ該望樓ト連絡ヲ保タシメ監視ノ任ニ當ラシム其ノ交代法ハ各艇隊司令之ヲ定ム

四、當直艇其ノ位置ヲ離ル、トキハ次直艇直ニ之ニ代リテ當直艇タルヘシ

五、殘餘ノ諸艇ハ島島錨地附近ニ假泊警戒準備アルヘシ

六、天候不良ノトキハ適宜避泊スルコトヲ得ト雖モ影島望樓トノ通信自在ナルヲ要ス

二十一日松岡甲隊指揮官モ、亦同隊ノ哨艇規約ヲ定ムルコト左ノ如シ、

甲組哨艇組合左ノ通り定ム

(イ) 第十九艇隊 二隻

(ロ) 第一艇隊 四隻

(ハ) 第十一艇隊 三隻

一、當直隊ハ午前八時竹敷港ヲ發シ神崎附近ニテ前直隊ト交代ス

一、當直隊ハ天候ノ許ス限り豆酸灣若クハ内院灣ヲ根據トシ警報ヲ得次第直ニ出發シ哨區ニ就キ得ル準備アルヲ要ス

一、當直隊ヨリ日直艇ヲ出シ晝間ハ神崎望樓ト直接連絡ヲ保チ日没前淺藻若クハ豆酸灣ニ

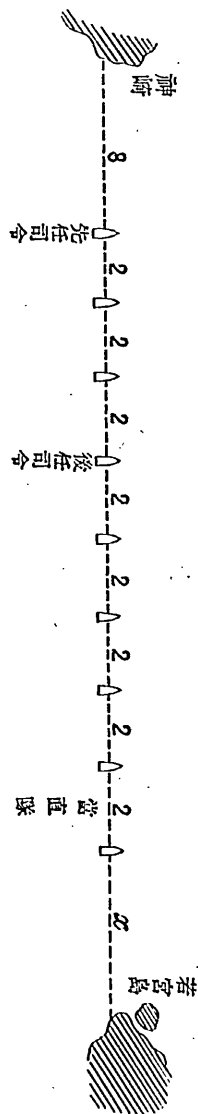
碇泊シ望樓ト連絡ヲ保ツヘシ

一、當直隊ノ勤務日數ヲ二日宛トス

一、各組ノ司令(先任艇長)ハ豫テ警戒哨區ヲ定メ置クヘシ

一、當直隊ハ天候ノ模様ニヨリ碇泊地ヲ變更シタル時ハ直接高千穂ニ報告スヘシ

一、全力警戒哨區左ノ通り



然ルニ二十二日第一艇隊ハ、瓜生司令官ヨリ、旅順ナル敗殘驅逐艦ノ浦鹽斯德ニ向ヒ脱出セル場合ニ備フルカ爲メ、當分春日丸ト共ニ巨文島方面ニ赴キ、同艦長ノ指揮下ニ於テ、同島ヲ根據トシ、同島電信所ヲ介シテ、尾崎トノ連絡ヲ保チツ、行動スヘキコトヲ命セラレ、二十四日出發シ、第一艇隊ハ二十五日巨文島ニ著シ春日丸ハスチムパイプ(二十七)日第十八艇隊ノ第六十シ(ニ故障アリテ二十六日尾崎ヲ發シ二十七日同島ニ著セリ)一號艇ハ、竹敷ニ於テ入渠シ、艇底ノ塗換及ヒ「コンデンサーチューブ」入替ノ修理ニ著手シ、(三十八年一月二)二十九日第一艇隊ハ、瓜生司令官ヨリ、大連灣ニ回航シテ、片岡第三艦隊司令長官ノ指揮下ニ入ルヘキ命ヲ受ケ、即日大連灣ニ向ヒ巨文島錨地ヲ發セリ、

第五節 香港丸日本丸ノ行動及ヒ北海警戒

第三艦隊ニ屬シテ、五月以來旅順方面ノ封鎖行動ニ参加セル假裝巡洋艦香港丸及ヒ日本丸ハ、八月十四日臨時第二艦隊ニ編入セラレ、日本丸ハ十五日早朝八口浦附近ニ於テ右命令ヲ受領シ、(當時日本丸ハ八雲、淺間、千歳等ト共ニ膠州灣ニ進入セル「ツエ」)即日竹敷ニ向ヒ夕刻到着シ、香港丸ハ封鎖任務ヲ終リテ、十五日夕刻裏長山列島ニ歸港セシニ、其ノ命ニ接シ、十六日炭水ノ補充ヲナシ、十七日午後出港シ、二十日午前尾崎ニ著シ、爾來兩艦ハ専ラ哨艦ノ勤務ニ服セリ、(香港丸ハ二十一日午後尾崎ヲ發シテ二十二日午前佐世保ニ入り炭水糧食需品ヲ搭載シテ二十三日出港シ直ニ哨區ニ向ヒ二十七日午後尾崎ニ歸港シ日本丸ハ十七日晝間哨戒ニ出タルヲ始メトレ尋テ十九日ヨリ二十日迄二十一日ヨリ二十三日迄及然ルニ越エテ二十八日ニ至リ、香港丸艦長海軍大佐井上敏夫ハ、上村第二艦隊司令長官ヨリ左ノ訓令ヲ受領セリ、

一、或中立國船舶ハ今尙宗谷海峽又ハ津輕海峽ヲ經テ浦鹽方面ニ密航シツ、アルヤノ形跡アリ貴官ハ明二十九日出港シ日本丸ヲ率非若シ必要アラハ舞鶴軍港ニ於テ諸準備ヲ整ヘ北海道北西岸ニ至リ同方面ノ警戒ニ任シ主トシテ宗谷海峽ニ注意スヘシ

二、貴官北海道方面出動中ハ小樽若シハ函館ヲ根據トシ常ニ望樓ヲ介シ大本營ト直接連絡ヲ保持シ且津輕海峽方面警戒ノ任ニ當レル我カ軍艦水雷艇ト相策應スルヲ要ス(乙隊機密第五號)

七四

同日日本丸艦長海軍大佐梶川良吉モ、亦上村司令長官ヨリ、香港丸ト共ニ北海方面ニ出動スヘキコト、及ヒ香港丸ハ二十九日朝尾崎ヲ發スルニ付、韓崎沖ニテ同艦ニ會シ、必要ノ命令ヲ受クヘ

キノ訓令ニ接セリ、而テ香港丸ハ二十九日午前五時四十二分尾崎ヲ發シ、九時頃韓崎沖ニテ日本丸ニ會シ、井上同艦長ハ上村司令長官ヨリ受ケタル訓令ヲ梶川日本丸艦長ニ傳ヘ、共ニ舞鶴ニ向ヒ、三十日午前十時頃同軍港ニ著セシニ、幾モナク井上香港丸艦長ハ、更ニ伊東海軍軍令部長ヨリ左ノ電訓ヲ受領セリ、

一、井上香港丸艦長ハ香港丸日本丸ヲ率非哥爾薩港ヲ偵察シ爲シ得ハ「ノーウ」ヲ損害ノ程度ヲ確メ又重要書類等アラハ之ヲ押收セシムヘシ

二、兩艦ハ此ノ行動中努メテ大本營トノ連絡ヲ保持シ又哥爾薩港ニ近ツク時ハ敵ノ水雷ニ注意スルヲ要ス

尋テ上村司令長官ヨリモ亦、コルサコフニ航行シ、爲シ得ハ更ニ「ノーウ」ヲ破壊スヘキノ電訓アリタリ、是ヨリ先キ二十八日、舞鶴鎮守府司令長官海軍中將日高壯之丞ハ、香港丸、日本丸入港セハ十分ニ掃海要具ヲ準備スヘキ様、兩艦ニ傳達スヘキ伊集院海軍軍令部次長ヨリノ電報ヲ受領シ居リシヲ以テ、之ヲ兩艦ニ傳ヘ、兩艦ハ各五組ノ掃海要具ヲ搭載シ、九月二日諸準備完成シタルヲ以テ、同日午後五時コルサコフニ向ヒ出港シ、五日午後一時四十分野寒崎望樓附近ニ達シテ、同望樓ト通信ヲ交換シ、六日午前八時三十六分コルサコフ燈臺ヲ距ル約五海里ノ處ニ著シ、直ニ偵察隊長タル日本丸分隊長海軍少佐川浪安勝以下下士卒十名ニ隻ノ汽艇ニ乗シ「ノーウ」ヲ「近ツキ、先ツ小銃ヲ發射シ、敵ナキヲ確メシヲ以テ直ニ同艦ニ上リ、携ヘ行キタル綿火藥ヲ裝備シ、破壊ノ準備ヲ爲スノ際、忽チ陸上ニ一中隊餘ノ敵兵現レ、盛ニ我ニ向ヒテ射撃ヲ始メシ

ニヨリ、己ムヲ得ス同作業ヲ中止シテ歸艦セリ、而テ「ノール」ヲ非ク「ノ」擱坐位置ハコルサコフ燈臺ノ南西四鏈半ノ處ニシテ、自ラ爆沈シタルモノ、如ク、船體約三十度右舷ニ傾キ、フオックスルノ外艦體全部水中ニ沈ミ、又「フオックスル」ノ舷側ハ破損シ居ラサルモ、ブルワーク「三本」煙突、「ファン」ヌル、ケーシング「カ」ニングタワ「ノ」入口破壊シ、其ノ他水中ニ没セル部分モ大破損ヲナシ居ルモノト認メラレ、到底容易ニ引揚ケ又ハ修理ヲ加ヘ得ル見込ナク、且大小砲其ノ他取外シ得ヘキモノハ、總テ陸揚ケセルノ狀アルコト等ヲ確メ得テ、川浪少佐ハ歸途ニ就キ、又豫テハ同港附近ノ掃海ヲモ行フ筈ナリシモ、香港丸汽艇ニ故障ヲ生セシカ爲メ、之ヲ止メテ歸艦セリ、(備考文)依テ日本丸、香港丸ハ午後同港ヲ去リ、七日夕刻函館ニ著シ、直ニ大本營及ヒ上村司令長官ニ向ヒ、偵察ノ狀況及ヒ巡航中、中立國船舶ニ出會セサリシコト、特命ナケレハ八日午後五時出港シ、再宗谷海峽附近ヲ巡航シ、十二日頃小樽ニ入港シテ炭水補充ノ豫定ナルコト等ヲ報告シ、且伊東海軍軍令部長ニ向ヒ、根室及ヒ國後水道、北州東岸ヲ巡航シ差支ナキヤ、トノ電報ヲ發セシニ、八日正午頃左ノ電訓ニ接シタリ、

香港丸日本丸ノ任務ハ北海道近海ヲ警戒シ主トシテ浦鹽黑龍江沿岸方面ヘ密航セントスル中立違反船ヲ拿捕スルニ在リ貴官ハ此ノ任務ヲ遂行スルニ必要ナリト認ムルトキハ便宜國後水道及ヒ北海道東沿岸方面ヲ巡航スルコトヲ得但前以テ巡航豫定ヲ電報シ又努メテ望樓ヲ介シテ大本營トノ通信連絡ヲ保持スルヲ要ス

是ニ於テ兩艦ハ、八日午後五時宗谷海峽ニ向ヒ函館ヲ發シ、十日午後六時稚内港ニ入り、十一日

早朝出港シテ宗谷海峽附近ヲ巡航シ、夕刻小樽ニ向ヒ、十二日午前八時同港ニ入りテ炭水ヲ補充シ、十五日迄同地ニ泊シテ汽機ノ手入ニ從事シ、同日午後五時出港シ、再宗谷海峽ニ向ヒ、十六日午後野寒望樓附近ニ投錨セリ、是ヨリ先キ井上香港丸艦長ハ、十二日伊集院海軍軍令部次長ヨリ、敵ハノトロ岬燈臺トコルサコフトノ間ニ電信ノ連絡ヲ有スルモノト認ムルヤ否ヤ、トノ諮問ヲ受ケタルノミナラス、十四日ニハ伊東海軍軍令部長ヨリモ、成シ得ハノトロ岬コルサコフト電信連絡ノ有無ヲ偵察スヘシ、トノ電訓ヲ受ケシヲ以テ、十六日野寒崎沖ニ投錨スルヤ、直ニ梶川日本丸艦長ニ向ヒ、野寒望樓ニ近ツキ士官一名ヲ陸上ニ派シ、漁夫ニ就テノトロ岬燈臺ヨリコルサコフト若クハ其ノ他沿岸ノ村落ニ向フ電信線在ルヤ否ヤヲ問合セ來ルヘキヲ命シ、香港丸ハ宗谷海峽ニ到リテ哨戒シ、兩艦ハ同夜再野寒望樓ノ附近ニテ相合セリ、(梶川日本丸艦長志賀己之治ヲ上陸セシメテ取調ヘシメシニ同大尉ハ數月前同地ニ來リタルモウカ村土人ニ會シ、ノトロ岬燈臺ヨリ東岸ニ沿ヒテコルサコフトニ通スル電信アルノミナラス同燈臺ヨリ西岸ニ沿ヒモウカ村ヲ經テニコリスクニ到ルモノモアリテ現ニモウ)尋テ十七日早朝兩艦ハ更ニ電信線ノ有無ヲ確知スルカ爲メ、ノトロ岬方面ニ向ヒテ出航シ、香港丸ハ同岬半島ノ東岸、日本丸ハ西岸約三海里ニ接近シテ視察セシモ、東西兩岸共ニ電信柱ト思ハル、モノヲ認メサリシヲ以テ、其ノ夜モ亦前錨地ニ歸リ、十九日、二十日ハ宗谷海峽附近ヲ巡航シ、(夜ハ兩日共稚内港ニ歸港ス)越エテ二十二日ヨリ二十五日迄、復同海峽附近ニ出テ、二十五日夕刻擇捉島内保灣ニ入港セリ、(是ヨリ先キ井上ハ屢大本營ヨリノ電報ニ接セリ即チ伊集院軍令部次長ヨリ十六日ニハ獨國汽船「プログレス」號ハ五日早朝兵器彈藥ヲ滿載シ浦鹽ニ向ヒ青島ヲ出港シタルコト十七日ニハ糧食銃砲彈藥ヲ滿鹽ニ回送スル千噸内外ノ外國汽船「丹根」附近ニ於テ坐礁シ引卸シノ見込ナシト留別戸長ヨリ報告アリタルコト肥後丸ニテ北海道沿岸巡視ノ途ニ上ラントスル海軍大尉松村菊勇ニ同船ノ視

察ヲ命シタルコト同日伊東軍令部長ヨリハ「ブログレス」號宗谷海峽通過ノ頃マテ日本丸香港九ハ行動ヲ繼續シ警戒スヘキコト二十二日ニハ伊集院軍令部次長ヨリ諸威汽船「ロドセン」號二十日夜香港ニ行クト號シテ上海ヲ出港セルモ浦鹽斯德ニ向ヘルモノニシテ禁制品ヲ積ミ薩哈噠附近マテ進航ノ上宗谷海峽ノ危險ナキヲ見レハ之ヲ通過シ薩哈噠ノ北方ヲ迂回スルトキハ西北利亞沿岸ニ沿ヒテ航スヘク夜ハ燈火ヲ消シ晝ハ煙突ヨリ成ル可ク煙ヲ是ヨリ先キ二十四日伊東海軍軍令部長ヨリ、兩艦ハ内保灣ニ到リ、戰時禁制品ヲ搭載セシ疑アル坐礁汽船ニ關スル海軍大臣ノ訓令ヲ受取り、之ヲ處理シタル後、函館ニ到リ後命ヲ俟ツヘキ電報ニ接ス、然ルニ井上香港丸艦長ハ、同日山本海軍大臣ヨリ左ノ電訓ヲ受領セリ、

擇捉島ニ坐礁シタル英船「オホサカ」號（編者曰ク該船ハ帆船ナリ）ハ戰時禁制品ヲ搭載シテ浦鹽ニ向ヒタルコト明ナリシナリ而テ其ノ搭載品中ニハ小銃三千挺アリトノ報告ニ接セリ仍テ貴官ハ左ノ通り拿捕手續ヲナスヘシ

一、擇捉丹根萌村ニ避難セル同船乗組員ニ就テ同船ノ出發地行先地及ヒ搭載貨物等ニ關シ審檢上必要ナル訊問ヲナシ且可成船舶書類其ノ他證據書類ヲ差押ヘ海上捕獲規定ニ依リ處理スヘシ尙本件ニ就テハ出來得ヘクシハ同船乗組員調査ノ爲メニ肥後丸ヨリ同地ニ出張セシ松村大尉ニ就キ委細ノ狀況ヲ聞取ルヲ便トス

二、同船乗組員ハ之ヲ貴艦ニ收容スヘシ若シ地方官ニ於テ已ニ内地ニ送還シタル時ハ其ノ事由ヲ記載セル證明書ヲ作製スヘシ

三、載貨ハ出來得ル丈ケ之ヲ收容シ審檢上ニ提出スヘキ調書ヲ作製シ船長又ハ其ノ職務ヲ執レルモノ尙其ノ地ニ在ルトキハ之ニ證明セシムヘシ

四、收容前ニ陸上ニ揚ケタル載貨モ尙調書ニ於テハ同船内ヨリ直ニ收容シタルコト、スヘシ要スルニ載貨ヲ陸上ニ於テ拿捕シタル形跡ヲ避クルニ在リ

五、船舶及ヒ收容スルヲ得サル載貨物ニ就テハ坐礁ノ爲メニ回航スル能ハサル旨ノ證明書ヲ作製スヘシ

是ニ於テ香港丸ハ、二十六日其ノ隣灣タル丹根萌ニ回航シ、坐礁英船ノ拿捕處分ヲ行ヒタル後チ内保ニ歸港シ、日本丸ハ二十七日國後水道ニ出テ、哨戒セリ、又同日香港丸艦長ハ伊集院海軍軍令部次長ヨリ、該方面ニ在ル間ハ、常ニ内保又ハ安渡移矢崎望樓ヲ介シテ、大本營其ノ他トノ通信連絡ヲ保ツコトニ留意スヘキ電訓ヲ受ケ、尋テ炭水補充ノ必要アラハ、兩艦ヲ率非テ速ニ函館ニ回航シ、炭水補充ノ上ハ再擇捉島附近ニ急航シ、以テ同海峽ノ警戒ニ服スヘキ電訓アリシヲ以テ、二十八日午前兩艦ハ内保ヲ出港シ、日本丸ハ國後水道ニ留リ、香港丸ハ丹根萌ニ入りテ陸上ニ避難シ居レル「オホサカ」號船長以下船員十二名ヲ收容シ、後チ兩艦相合シテ二十九日午後三時函館ニ著シ、同地支廳長ヲ介シテ收容セル遭難者ヲ英國領事ニ引渡シ、直ニ炭水ノ補充ヲ行ヒ、十月一日午前十時出港シ、二日午後四時國後水道ニ達シ、爾後香港丸ハ常ニ安渡移矢崎望樓ト通信連絡ヲ保持シ、同崎ト色丹島シベトニタロ崎ヲ正西十四海里ニ望ム點トヲ接スル一線上ヲ往復シテ、專ラ國後水道ヲ警戒シ、日本丸ハ得撫島西端伸津崎ヲ北十五海里ニ望ム點ト、擇捉島背仰崎三八〇〇呎山頂ヲ北微東十七海里ニ望ム點トヲ接スル一線上ヲ往復シ、專ラ擇捉水道ヲ警戒シ、二十日迄嚴密ナル哨戒監視ヲ續ケシカ、更ニ一隻ノ中立國船舶ヲ

モ認メス、(由テ香港丸艦長ハ屢接受スル宗谷海峡通過云々ノ情報)而テ此ノ行動中、天候概ネ不良ニシテ潮流モ亦急ナルカ故、各望樓ニ接近スルコト困難ニシテ、且安渡移矢崎望樓ノ如キハ、信號器具完備セサルカ爲メ、通信ヲ交換スルコト能ハサル場合アリタルノミナラス、冬季ノ碇泊ニ適セル單冠灣ニハ、電信局アラサルヲ以テ、井上香港丸艦長ハ大本營ニ向ヒ、安渡移矢崎望樓ノ信號器具ヲ完備セラレタキコト、單冠ニ電信分局ヲ新設スルカ、又ハ國後若クハ擇捉島望樓ノ一ニ無線電信ヲ設ケラレタキコト、然ラサレハ十一月後ハ尙一層天候險惡トナリ、陸地ト交通容易ナラスシテ、從テ大本營其ノ他トノ連絡極テ不便トナルヘキ旨ノ意見ヲ提出セリ、又同艦長ハ是ヨリ先キ十七日伊東海軍軍令部長ニ向ヒ、左ノ如ク電報セリ、(四日ニハ軍令部長長三時三十分上海ヲ發ス密告者ノ言ニ依レハ同船ハ速力九海里ニシテ日本沿岸ヲ百海里離レテ航行スト云フ電報アリタリ)

一、晝夜嚴重ニ監視シ居レトモ未タ一ノ船舶ニモ會セス

二、數月間引續キ航海ニ從事シ汽罐ノ手入ヲ爲ス能ハス頃日故障續發シ其ノ時々修理ヲ加ヘ使用シ居レトモ此ノ儘手入ヲ爲サ、レハ今後ノ航海ニ差支ヲ生スルノ虞アリ又數回ノ暴風雨ニテ舵機故障ヲ生シ是又假修理ヲ加ヘ使用シ居レトモ碇泊ノ上完全ナル修理ヲ要ス來二十日頃炭水補充ノ爲メ函館ニ回航シ同時汽機汽罐ノ手入及ヒ舵機修理ヲ爲シタシ工事日數艦員ニテ約一週間ノ豫定

之ニ對シ十八日伊東海軍軍令部長ヨリ允許アリタルヲ以テ、井上香港丸艦長ハ、二十日日本丸ニ向ヒ、二十一日朝十時迄ニ色丹島ノ南十海里ニ到ルヘキヲ令シタリ、而テ二十一日同處ニ於

テ兩艦相合シ、二十二日正午頃函館ニ入り、直ニ炭水ノ補充且諸手入修理ニ著手シタリシニ、二十八日ニ至リ井上香港丸艦長ハ、伊東海軍軍令部長ヨリ左ノ電訓ヲ受領セリ、

香港丸日本丸ハ航海準備完成セハ便宜朝鮮海峡ニ回航シ第二艦隊司令長官ノ指揮下ニ復歸スヘシ

乃チ兩艦ハ、北海ニ行動スルコト約二箇月ニシテ、再朝鮮海峡ニ復歸スルコト、ナリ、三十一日午後函館ヲ發シ、十一月三日正午尾崎ニ歸港シ、上村司令長官ノ命ニ依リ、瓜生司令官ノ指揮下ニ入り哨艦勤務ニ從事セリ、然ルニ越エテ十一日ニ至リ、兩艦ハ圓島附近ニ回航スルコト、ナリ、先ツ佐世保ニテ石炭ヲ搭載スルカ爲メ、香港丸ハ同日午前尾崎ヲ發セシニ、途中舵機ニ故障ヲ生シ、同夜志自岐浦ニ入り修理ヲ加ヘ、十二日午前佐世保ニ著シ、日本丸ハ十二日夕刻哨區ヲ發シテ、十三日午前同港ニ入り、尋テ日本丸ハ十五日出港シ、二十四日大嶺口ニ著シ、香港丸ハ同日佐世保ヲ出港シ、二十六日夜長子島附近ニ達セリ、爾來兩艦ハ第一艦隊司令官海軍中將出羽重遠ノ指揮下ニ入り、相交代シテ老鐵山水道ニ出テ、專ラ渤海方面ヨリ密輸入スル船舶ノ臨檢拿捕ニ從事スヘキ任務ヲ帶ヒシカ、越エテ二十九日東郷聯合艦隊司令長官ハ、伊東海軍軍令部長ヨリ、渡羅的艦隊ノ馬來群島附近ニ到達前、交趾支那沿岸竝ニ馬來群島ノ海峡港灣中、同艦隊ノ通過シ若クハ寄泊スルノ疑アル方面ヲ偵察シ、又我カ艦影ヲ示シ置カンカ爲メ、香港丸及ヒ日本丸ヲ歸朝セシメ、以上ノ任務ニ充ツルノ目的ヲ以テ、至急必要ノ修理準備ヲ爲サシムヘキ旨ノ電訓ヲ受ケシヲ以テ、同司令長官ハ此ノ旨兩艦ニ傳達シ、兩艦ハ即日圓島ヲ發シ、十二月二

日午前佐世保ニ入り、諸準備ヲ整ヘテ十三日南洋ニ向ヒ出動セリ、

百八十二

備
考
文
書